

関西学院大学総合政策学部

2018年度 春学期

日本語Ⅲ レポート集

私の研究テーマ

目次

1 クラス (担当: 牲川 波都季)

私と国際海洋の環境開発問題	王 康	3
メディアコントロールの予防と個人メディアリテラシーの成長	呉 限	8
中国の駐車問題と私	戎 芸	11
ゲストハウスと私	鄭 太泳	14
VR と私	石 勝	18
コミュニケーション能力と私	プープーマウン	21
経営と私	李 春海	25
情報の伝えと私—映像と文字の区別	李 夢昊	32
データ分析と私		
—中国税関輸入 2017 データから中国の産業の弱さを見る	劉 格	35

2 クラス (担当: 横野 さゆる)

中国の農村教育における問題点の改善に	歐陽 文静	43
都市化におけるスラム街問題の研究	温 馨	46
中国のアフリカ進出からみた世界の経済戦略変化		
—アフリカの持続可能な成長に貢献するための進言	孫 政勝	51
大学生の心理現状に関する	陳 釗填	55
環境知識を活かした経済活動	張 中来	60
1人メディアの展望	韓 建湔	64
島国の地域開発による発展	万 静杰	67
原子力を用いて、低炭素社会へ	李 暉強	71

3 クラス (担当: 勝部 三奈子)

人事管理を中心とする経営学への研究	王 朝	78
少子高齢化の問題と経済、政治、文化に対する影響	陳 鏡夫	82
食文化を研究する	梅 佳煥	85
なぜ日韓関係は友好的ではないか	文 世煥	88
メディアを制作したいと	尹 汝文	92
言語政策のグローバル的影響	李 億成	96
言語	李 彤琳	100
ネット広告とプライバシー	魯 晶媛	103

1 クラス

担当 牲川 波都季

私と国際海洋の環境開発問題

---日本語 II 研究プラン

王康 オウコウ

総合政策学部

1. はじめに

水資源の開発研究課題を書きたいについての理由は卒業論文の予想、学科のフィールドおよび今学期のネパール水資源のサークルをもとにしている。このレポートはもう一度再整理した。自分自身が国際問題に興味を持っているからので、海を中心とする課題を確立することを決めた。

海洋と水資源は次の時代の人類の進歩の方向で、だから国際問題に興味があれば、海洋問題は非常に良い研究方向だと思ひ。海洋問題と大陸問題は違ひ、明確な境界線がないので、自分の考えを生かしてくれる問題が含まれている。

この課題は、私は学士の段階で研究するつもりではなくて、私は日本で修士と博士を完成させたいと思ひ。だから、日本ではたくさんの年をかけてこの方面の問題を研究するつもりだ。今の中国は、日本のように健全な海洋知識体系がないからだ。私は日本でこれらの海洋問題の知識を学んで、中国に導入することを望んで、私は長年にわたり、自分のすべての論文を一冊の本に書き、中国で発行したいと思ひ。中国の内部で、国際海洋の問題を最も全面的に解釈する本。

2. 研究範囲

海洋問題は東アジアの最も複雑な問題である。この問題では多くの小さな分野で研究をしている。東アジアとヨーロッパとは違ひ、国の数は多いが、基本的には独立して行動する。国間の相互信頼度は比較的低い、EUの高度統一とは違ひ、東アジアには相対的に集中する指揮者はいない。しかし、また一つの肝心な点は、今の東アジア地域の国家発展は世界最速で、最も集中している地域である。次の時代の発展に対応するために、現在のすべての東アジアの国は、自分の海洋権益や領海主権に対してますます重視されている。今すべての国は、海を国の第一の発展要素として開発している。

海洋開発の第1の原因は資源で、東アジアの海洋資源は現在最も豊かな集地の一つである。私達の伝統的な意義の上の石油資源を存在することだけではなく、同時に漁業資源と天然ガスの資源と塩鉱山の資源があり、運がよければ、旅行業を発展させて、国の知名度と経済を再び動かすことができる。塩度の低い海域で淡水処理所を投資し、内陸部に比べて水道処理所を建設することが良い。要するに、海洋開発は、複数のプロジェクトを同時に開発することができる。

3. 研究段階的

今回具体的に研究している国はネパールから日本に変わって、ネパールの水資源開発問題は、日本の水資源の開発の後に編纂された。日本は現在の世界で、海洋立国の中で最も良い国を実施することを提案して、新海洋国家の模範である。また、日本も海洋開発のすべての問題を占めて

いる国の一つである。

まず、日本の国内の瀬戸内海の工業開発と環境保護措置。水資源管理問題および水利の基礎建設施設・インフラストラクチャーを建設する。特に、政府の水資源に対する政府の資金投入の調査について。これらの多くの問題は瀬戸内海工業区を整備し、世界のすべての国が海洋工業開発区に対する典範となった。

そして、国際協力問題である。ここで主に研究したいのは日本の「海洋基本計画」、現在と国家の間の海洋紛争は比較的多い、この課題を通して、国際問題の関係を知りたい。中国とは領海問題で、韓国と漁業資源であり、ロシアと島の主権問題である。このような多くの方面の問題を同時に結びつけることができ、この世界の上で日本だけ。

日本の海洋計画は、東アジア地域のすべての国に対して、海洋資源の利用開発について、部分の東アジアの国を勉強させた。

- 対話対象：

関西学院大学 総合政策学部 総合政策学科 佐山 浩 教授

対話方式:

毎週金曜日の佐山教授の授業終わり、教授の研究室中に会話通り、検討している。

残り会話はメール通りやった。

- 問題提出

まずは【瀬戸内海環境保全特別措置法】：今回は教授の話し通り、瀬戸内海の開発から、今まで大きな汚染事件がありません、しかし、中国の昔の記事中に、瀬戸内海確かに汚染事件を起したことがあるので、だからこの法案をうまれた。噂通り、この法案同時に瀬戸内海の工業発展のスピードが遅くなりました

だからこそ、この法案誕生からメリットとデメリットはどこですか？

次は「第3期の海洋基本計画」：海洋基本法の目的「新たな海洋立国を実現すること」を目指すため、「新たな海洋立国への挑戦」を本計画の政策の方向性として位置づけ——北極政策の推進する

最後は「ロシア、中国及び韓国の紛争は日本の海洋計画に何か影響があります」

佐山教授は歴史から分析しました、瀬戸内海の発展し早くの一つ原因は、瀬戸内海の工業基礎の建物の原材料は全部直接瀬戸内海の海底から採掘したので、材料の運び時間が早い、工場の建築時間も少ない、普通の工業基地をつくる時間より早く完成することができます、1960年代からすぐ建築して終わりし、すぐ完成して生産に入れて、当時の世界有名な工業エリア一つになりました。しかし、瀬戸内海工業エリア、汚染事件は海洋汚染による赤潮発生のほか、工場からの油流出事件がありました、これも瀬戸内海歴史の中に少数の汚染事件です

後は、佐山教授が中国、ロシアと韓国の存在の海洋問題を説明しました。中国の尖閣諸島問題は、大部分が二つ国の領土意識問題です、これは政治問題方面、教授の専門ではないの

で詳しく結果を出てできません。ロシアの北方領土は、実は現在の日本政府も海洋開発計画もう諦めました、第3期海洋基本法の変更、実はこのロシアの談判失敗直接原因もあります、しかし、この部分も教授の専門以外なので、結果がありません、同時にこの部分は自分の研究レポートの中に入れません。

韓国：実際、日本政府内部すごく竹島問題（韓国方面：独島とよばれる）を重視します。なぜなら、この海域の魚の生産量すごく多いです、そして、韓国の問題と中国、ロシアの問題を比べて、実際、一番早く済むことができます。そして、竹島問題の短期済むことができれば、日本の海洋開発計画の一番優位です。

今回の対話内容の基本政府の立場面を検討しました、次の対話、日本現在の海洋開発途中会った事件を巡って検討します。

対話結果=>追加課題

教授と検討してから、またいくつかの短いメール交流が行われた。今後、短期的に日本の海洋技術の開発は環境の影響について、この課題は簡単に同時に資料を調べてみると比較的簡単だ。まず日本の内閣府の最新の海洋計画の文案を読んで、それから海洋技術の部分を抜粋して分析し。教授の立場から見れば、学士を卒業した学生、論文部分は環境保護技術を書くのは難しい。内閣府には、他の政治問題に対する海洋開発計画が含まれている。修士の研究の方向を残すことができる。本当に博士が読めば、日本の環境開発技術について、周辺国の政治的影響を書くことができる。

この図1は教授が推薦する論文の論点で、現在自身の能力判断によって研究することができる面である。それぞれの問題が単独で出てくるので、一緒に書くこともできます。同時にすべての問題に大きな開拓性があり、それからの研究展開が便利である。

海洋政策のあり方

1. 今後の10年を見据えた海洋政策の理念と方向性

■ 政策の理念

海洋基本法に定める基本理念（「海洋の開発及び利用と海洋環境の保全との調和」、「海洋の安全の確保」、「海洋に関する科学的知見の充実」、「海洋産業の健全な発展」、「海洋の総合的管理」及び「海洋に関する国際的協調」）を踏まえ、次の事項を認識して政策を進める。

- ①我が国にとり、好ましい情勢や環境の能動的な創出
- ②国力の持続的な維持のため、海洋の豊かさ・潜在力の最大限の利活用
- ③健全な海洋産業による海洋の持続可能な開発・利用と環境保全とのWin-Win関係での発展
- ④世界最先端の革新的な研究開発と観測・調査の充実
- ⑤海洋に関する国民的理解の増進

■ 政策の方向性

《新たな海洋立国への挑戦》

- (a) 開かれ安定した海洋へ。守り抜く国と国民
- (b) 海を活かし、国を富ませる。豊かな海を子孫に引き継ぐ
- (c) 未知なる海に挑む。技術を高め、海を把握する
- (d) 先んじて、平和につなぐ。海の世界のものさしを作る
- (e) 海を身近に。海を支える人を育てる

2

— http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/sanyo/dai41/shiryu2_1.pdf

図1

4. 日本政府第3期海洋基本計画（閣議決定）について

政府の最新の動態は最もよい手段の一つである。しかし同様に、海洋の開発にかかわる地縁政治は非常に多いので、内閣府の海洋政策は非常に重視する、今回の検討することの範囲は総合海洋政策本部参与会議（第41回）である。この会議は第3期の海洋基本計画を作った。

『海洋に関する施策を推進するに当たっての政府の体制』

海洋に関する施策の推進に当たっては、個別の施策について権限、識見を有する関係府省の責任ある取組が行われるとともに、双方向の議論を行う等により相互に連携・調整を図りながら政府全体として総合的に施策を進めていくことが重要である。また、海洋における様々な情勢の急速な変化に、政府全体としての一体性を確保し、より迅速かつ柔軟に対応していくことも求められている。このような観点を踏まえ、総合海洋政策本部がその実務を担う総合海洋政策推進事務局と一体となって政府の司令塔としての機能を発揮していくことが必要である。また、施策の着実な実施を確保するため、総合海洋政策本部の下で、海洋基本計画に基づいて実施される関係府省の諸施策を踏まえた工程表の作成とその実施状況の評価を一体的かつ継続的に行う手法を導入・強化するとともに、講じられている施策について関係者が連携してより分かりやすく国民に発信していくことが重要である。』 -----引用元：内閣府 41) 会議内容

目指す姿	
概要 現行のSIP「次世代海洋資源調査技術」における水深2,000m以浅の海底熱水鉱床を主な対象とした成果を活用し、これらの技術を段階的に(Step by Step)発展・応用させ、基礎・基盤研究から事業化・実用化までを見据え、 海洋資源開発への適用及び、2,000m以深での資源調査技術、生産技術の開発 を世界に先駆けて進める。	
出口戦略 深海資源調査技術・生産技術の開発及び深海資源調査システムの実証により、これらを社会実装とともに、民間企業が主体となりSIP開発技術を用いて、国内外の海洋資源調査を受託。	社会経済インパクト <ul style="list-style-type: none"> ●我が国のEEZ等における資源開発の促進 ●安全保障の観点からも、海洋権益の確保に貢献 ●関連技術の他分野への応用 (AUV機体制御技術、充電技術、水中通信技術、測位技術、群制御技術、揚泥・採泥技術等)
達成に向けて	
研究開発内容 <ul style="list-style-type: none"> ●テーマ1：レアース泥を含む海洋鉱物資源の賦存量の調査・分析 ⇒海洋鉱物資源の賦存量の調査・分析により高濃度分布域における開発ポテンシャルエリアの絞り込み ●テーマ2：水深2,000m以深の深海資源調査技術・生産技術の開発 ⇒2-(1)：深海資源調査技術の開発 (深海AUV複数運用技術、深海底ターミナル技術) 社会実装可能な深海資源調査システム構築のための技術開発 ⇒2-(2)：深海資源生産技術の開発 (レアース泥の採泥、揚泥に関する基礎研究) ●テーマ3：深海資源調査・開発システムの実証 ⇒テーマ2の成果に加えて現行SIPの成果を活用し、社会実装、資源調査、開発の促進を目指した深海資源調査システムの実証を実施 	

---<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/sanyo/dai41/shiryou5.pdf>

図 2

図 2 及び 41 回政府内部会議内容はさらに海洋調査及び海洋科学技術に関する研究開発の推進の必要性和緊迫感。今、日本政府内部は SIP 課題が『革新的深海資源調査技術』ととても関心している、これは技術的最前列である、しかし、深海資源調査技術・生産技術の開発及び深海資源調査システムの実証により、これらを社会実装とともに、民間企業が主体となり SIP 開発技術を用いて、国内外の海洋資源調査を受託。政府直接管理しにくいである、今回一度検討を諦めた。

5. 結論

日本の海洋開発計画は、政府の議論にとどまっているだけではない。法律から技術まで、完全な産

業チェーンが形成されている。比較的に、他のアジア諸国では、日本のような海洋開発の規模は今のところではない。多くの富や技術を持っている中国でも、日本に倣った文書計画が多くの分野で行われている。実験の段階にはまったく入っていない。

しかし同じように、今の日本の計画は多くのリスクを受けている。研究者としては、日本の開発計画に対して評価と分析を行うしかない。

だから、次は、私がした研究の方向は二つに分けられていると思います、一つは計画に成功した運行であり、開発計画に成功した技術の原因を書き出して、もう一つは計画に失敗した後に、日本の海洋開発計画に失敗して周りの海域に対して環境損傷を分析する。

参考文献：

内閣府（2018）「総合海洋政策本部参与会議（第41回）議事次第」 - 「第3期海洋基本計画」

内閣府（2018）「総合海洋政策本部参与会議（第41回）議事次第」・「次期SIPについて」

[第2期SIP海洋課題「革新的深海資源調査技術」概要](#)

授業の感想：

これは私が初めて自分の論文のために詳細な要点を取りました。書くものはあまりにも膨大すぎますが、実際に書くことができるものは、実は限られています。今学期の先生とクラスメートは私にたくさんのいいアドバイスをいただきました。皆さんに助けられて、ありがとうございました。この授業に対して、私は多くの問題を考えています。自分で一番大切なものは何ですか？そして先生は私の一番中のコメントは一人一人が好きなものに理由があるのは、単なる好きなことや趣味ではないということはありません。事は必ず自分が何をしているのかを理解しなければならないこれで自分に目標を明確にすることができます。そして、私の研究報告書には、専門的な報告や文献が多く必要であり、導入報告の部分に適切な表記がないのも今回の問題である。

日本語の授業について、私は今何の知識を教えてくれたのではなくて、私に問題を考えさせてもらったと思います。これも私のこの学期の勉強の最高の知識です。同時に私は自分の研究の方向を明確にして、私はこれからきっととても良い海洋問題の論文を完成することができますと信じています。

はじめに

現代人の仕事や勉強が忙しく、一般の人はニュースや情報を明分ける力が弱いので、信頼できるメディアを読む、自分の独立思考のことはこのメディアに頼んだ。このメディアは自然に価値観に影響する。定評があるメディアが間違えたニュースを発表したらその惑わすはとても大きいである。なぜかというと、このメディアの読者が無防備にメディア伝わるの全て頭に受け入れる可能性がある。

このテーマを研究したいきっかけは今の情報時代が情報を取り易くなるので、どんな新聞やニュースが正でしょうか？これについて研究したい。自分自分にとってメディア情報の独立思考方法を研究したい。

政府のメディアコントロール

アメリカメディアの攻勢の下で、アメリカメディアは政府の規制を受けないとが間違いし、アメリカメディアは自由メディアであると結論を出す。実際はアメリカでは、政府機関がメディアに対して監視を行うことがある。FFC（連邦通信員会）は事業者に対して、免許の交付、

更新の可否を決定をする裁定権、放送通信に関する規則を制定する準立法権を有する。FFC

以外アメリカの他の政府部門は、NSA、CIA など、国民また外国人の情報や言論の監視規制を行っており、アメリカの利益に違反する情報があればさらに処理される。例えば、個別の米軍兵士がイラクで一般民衆を虐殺したビデオは「国家機密」として公開できない。ウィキリークスで公開しないと世界中でこのようなことが起こったことは分からないと思う。

イラク戦争では、アメリカメディアが外交決定に影響を与える典型的な例である。前期戦争の動員、世論の雰囲気造営などメディアの積極的な協力も、ブッシュ政権の戦争決意をある程度強化し、開戦すれば民衆は圧倒的に政府側に立っているという確信を示した。そのために、外部からの反対側において、自分の意見を堅持し、イラク戦争を最後まで進めなければならない。それだけではなく、メディアは、イラク戦争の重要な特徴に注目している。それが、テロと国家の安全にかかわることで、米国の人々に最も説得力があるという理由である。政府は、サダム政権と基地組織の連絡を確認できなかったが、自分の称したサダムが隠匿した大量破壊兵器を発見できなかったが、サダム政権への妖魔化は、アメリカの安全と世界の平和に大きな脅威であると信じている。少なくとも初期に、アメリカのメディアは政府を助けて民衆にまどわれた、ある程度で戦争のプロセスを推し進めたということである。戦時中、メディアを利用してイラクでイラク悪い面のニュースを作ってイラク軍隊や人民に惑わされた。事実の証明で、アメリカ軍はメディアの協力の下で取った心理戦は非常に効果を奏して、人々がその作戦行動に対する普遍的な支持を得て、また伊軍の兵士にイラクの指導者に対する不信任感を芽生えさせ

て、イラクはすぐに戦争に負けたことである。このアメリカ政府の例に見ると政府の話が全部正しではないから自分の考え必要がある。

個人メディアのコントロール

河南省ある（王さん）3歳の女の子は世が大騒ぎになった。2017年には、「網膜母細胞腫」と呼ばれるがんを患いにしていて、王さんの家族は巨額の治療費を負担することができないため、親はインターネットの募金を通じて社会に助けを求め、ネットユーザーの気前のよい協力を得た。

2018年3月、ある人は、王さんの両親は善金を持ってきた後、王さんを救うために使われなかったという。あるメディアが発表した「王さんの死」は、王さんが募集した15万の善金が息子を連れて北京に行って、ウサギ唇を治療していたが、娘の眼病が悪化しているという。このバージョンはネットを通じて伝播した後、王さんの遭遇は社会的に大きな注目を集め、ネットユーザーは王さんの親が寄付を詐欺の疑いで非難している。

しかしその後、この事件の結果が逆転になった。25日午前、太康県公安局広報課長の張磊落さんは、警察の調査で、王さんの家族当初の資金調達目標は15万元だったことを確認したが、実は38,638元の寄付を受けた。このお金は基本的に娘のさんの治療で、現在はまだ1301元と残っている。これにより、現地の警察は、詐欺の寄付は存在しないとしている。これで、事件の真相はすでに浮上している。王さんの親は詐欺行為には存在しない。一部のメディアは、メディアからも前の記事を削除した。しかし、この問題をめぐる議論は続いている。現在社会様々な人は利益の追求するためにわざと嘘を作ってインターネットで投稿した。もし自分は何も考えなくて信じたら騙される可能性がすごく高くなる。

二つ事件の思い

この世界には絶対的な言論の自由やメディアの自由は存在しない。いかなるメディアでも公立でも私立でも、所在の国の法律や政治が正しく、いかなる言論も法律や政治の正確な制限を受けている。本当の「フリーメディア」は存在しない以上、「真実」は「自由」を誇るメディアには存在しない。「真実」とは、いかなる人や何のメディアを離れて客観的に存在する秘宝であり、すべてのメディアや読者は理性的な客観的な独立思想したら十分な情報の取得によって近づくことができる。もしかしたらある人やメディアは自分が真実を代表して、事件の真相が把握したなら、私たちはそれを警戒するべきである。

話し相手

話し相手：高校時代の先生

話し場所：自部の家にFaceTimeで話した。

相手話し意見

アメリカだけではなくてWe Media（Facebookなど）のコントロールなど書いたほうがいい

い。コントロールの予防を中心に研究すること。キーワード：中立性、black と white 考え方
ダメ、評価の時点。

最初は挨拶した、先生と久しぶりな話した。先生の意見は多くの本を読んで、特に歴史の本や社会に関する本、ネットでニュースを見て、それからコメントを見て、いくつかの比較的客観的なウェブサイトで、このようなウェブサイトに価値のある評論がある。いくつかの分析的な招待状を見て、知識を高める。大切なのは、自分が真実を探してみることだ。先生自身には原則：他の人が言うのがどんな話でも信じられない、本当のデータと事件の具体的な過程を信じている。

根本的に、人は 1 種の情緒の動物で、私達の積極的な行為や消極的な行為はすべて情緒を基礎としている。だから人は社会世論の影響を完全に抜け出すことができない。すべての社会の連絡を断絶しない限り、これは明らかに取ることができない。人は自分の知らない分野で世論に導かれやすい。だから多くの本を読むことができ、伝播学を見て、マクスの本を見てみましょう。たとえば今日であるニュースを見たコメントに書きたい。このもらった情報はすでに N 手の情報である。マイナスの影響もある。世界は悪いものが混在していて、純粋なものはない。良いものを求めるときは、可能な代価を負担する。弁証法としては、歴史を参考にし、独立した分析をマスターしたら、大体よく見ることができる。情報を知った後に定説を立てずに、感情を思考に影響させないようにしましょう。1つの方向の多層で考えると、現状を飛び出して、傍観者姿勢を見直すと、新たな認識がある。重要なのは思考の過程であり、表現することは重要ではないと思う。また、インターネットや日常生活で熱の問題や議論について議論することが多い。日常生活の中で、コミュニケーションを増進し、意見を交換することもできるかもしれない。ネット上の争いは意味がない。

メディア利益の成長するために

現在社会一般人はニュースの生産者や伝播者となり、今スマートフォンやカメラ以前より進化したすぐ撮影とか録音とか。様々な事件に見た人は一般民衆であり。だからメディアの個人化は、情報の伝播内容の氾濫を激化させる。大衆として、メディア情報を正しく理解し、批判の意見を提出し、嘘の情報に対する免疫力を向上させることが必要である。まず、メディアで構築された擬態環境を理解しなければならない。メディア情報は「真実」を構築し、その内容は完全に客観世界の真実なコピーではなく、工夫を凝らしたものであり、政治、経済、文化など多くの要素の融合である。次に、情報の真偽を理性的に見分けることができ、メディアが報じた情報を盲信し、自分の理性的思考を駆使し、各情報に対し自分の見解を発表し、批評的な意見を提出しなければならない。暴力情報、ゴミ情報、などをメディアで見た最後に、その危害性を認識し、これらの良くない情報に対する免疫力を高める。多くの人々は、常に自分の知識を豊かにし、理論的な結果を築いてこそ、情報を正しく解析し、情報を活用し、メディアを活用して自己を発展させることができる。

授業について感想

半年ぐらい先生と一緒に勉強することはとても楽しいと思っている。毎日に発表したり他人の意見を聞いたり自分の日本語能力が伸ばれると考える。繰り返す直したレポートはわかりやすくなった。相手でも自分の意見を納得できる。次の学期でも日本語授業に頑張りたい。

中国の駐車問題と私

学科：総合政策学科

名前：戎芸

今年は二年生になって、総合政策学科に入った。この一年間は、三年生まで順調に進むため、色々な研究テーマや目標などを決めなければならないと思う。自分が三年生の時、公共政策フィールドワークを選びたい。それからゼミの選択もこれを基づいて、進みたいと思う。

春休みの時、一ヶ月ぐらい帰国した。一年生のとき、自分がやりたいことを書いた。その中で、この四年間できるだけ多くのところに行ってみたいと書いた。色々な文化が体験できるし、その所の制度やルールのスペシャルな点を探せるし、面白くて有意義なことだと思う。そして、両親との時間を大切にしたいから、母と一緒に旅行した。3月の時、武漢市という桜の観光名所に行った。ちょうど桜が咲く季節だったから、観光者が非常に多かった。この町との距離を関係せず、周辺の町からの人も、遠く町からの人も、車で行ったことが多い。特に家族旅行として、車で移動する場合がもっと便利だと考えられたから、観光地のところは、車の数も溢れている。今回の旅行を通じて、町によって、違う文化や管理制度などの事に対し、いくつかの考えが出てきた。さらに、日本と比べて、たくさんの相違点があると思う。

車の数が溢れていることからもたらす問題は、一番大切だと思われるのは駐車面のことである。自分の観察結果や今までの経験から考えると、この面では、中国と日本は大きな違いがある。中国での駐車できる場所も少ないし、駐車代も高い。道側で止まる場合が多くて、普遍な状況である。前が書いていた観光地のところも、公共駐車場が全然足りないから、その近くの道側で止まる。春節の時、家族みんなと一緒に近くの町にいる古城に車で行った。その古城は田舎にいる観光地で、管理者がいないため、地元の居住者が各自の管理地域を分け、観光者から無断な駐車代をもらう。こういうルールが規定されていないけど、仕方がないことである。そちら以外で、駐車できる場所もないし、観光地からも遠い。

現在の中国では、地下駐車場や屋上駐車場が主流の傾向だけど、観光地のところ、特に自然的な観光地や古い建築を中心とする観光地の周りは、こういう駐車場を作ることは実現しにくい。なぜかという、自然環境の美観を壊すことや、古い地盤が弱くて、大きな工事をすると危ないことなど、たくさんの現実的な問題があると考えられている。それで、観光地の周りは、ほぼ平面的な地上駐車場になった。しかし、地上にも色々な制限がある。政府から町づくりの企画や他の交通手段による不便や影響などの原因で、なかなか進まないと思う。

それから、日本で立体駐車場のことは何回も見たことがあるけど、中国では一回にも見たことがない。その原因について、興味を持つようになった。例えば、国土面積の差は区別なのか。日本のような狭い国で、どうやってできるだけ多くの車を止まれるのか、これは確かに良い対策案だと思う。それから、環境や人口や町づくりの企画など、他の色々な要因もあるはずなのだと考えられている。これらの要素で、どんな影響をもたらすのか、研究したいと思う。

授業からもらう意見で、法律的な面や経済的な面も考えるべきだと指摘された。例えば、立体駐車場

が少ない理由は地上にはどんな制限があるのか、政府より他の政策が出てくるのか。それから、これらのものは開発者にとって、どのぐらい利益をもたらせるのか。自分が興味を持っている領域は公共政策だから、主に政治的な面から考えたいと思う。そして、これらの問題について、対話相手と交流した。さらに参考として、自分の父親にもいくつかの問題を聞いた。多方面からの意見やアドバイスをもらい、以下の通りである。

対話相手について：李億成さん・友達・21歳・関西学院大学総合政策学部在学中

自分が書いている内容は公共政策に関することで、億成さんもこの部分に対して興味も持っている。テーマメモで書いていた内容どおり、駐車問題のことは特に注目されている。億成さんの出身地はペキンで、中国の首都である。近年以来、快速的な発展に伴って、駐車問題や他の公共的な問題はどんどん厳しくなっている。地元の人として、これらの点に対する体験と考えは私よりもっと深刻だと思う。そして、同じ出身国の人として、よく自国の現状と繋がるができると思う。以上の理由で、億成さんを対話相手にすることを決めた。

対話過程

まず、いくつかの問題を提出した。それから、これらの原因に対して検討した。最後に、結論が出た。

・なぜ中国では立体駐車場が少なく、ほぼないだろうか。

大きな原因は三つあると考えられている。コストが高いうえ、利益が甘いから、政府のサポートがなければ、やる気がある会社が少ないと言われた。そして、それらの設備を買うためかかる資金だけではなく、使う途中の補修代もすごく大変な支出である。例を挙げると、今ダブル型の立体駐車設備は一台約5万ゲン(84万円ぐらい)かかる。もし十台ぐらいの設備が必要だったら、少なくとも50万ゲン(840万円ぐらい)かからなければならない。今中国の北京の最低駐車標準を基づいて考えると、1時間で3ゲン(50円ぐらい)である。この時間帯を過ぎると、20分ずつ1ゲン(17円)追加する。しかし、駐車用のエレベータは一回だけ使うと、電気代は2.4ゲン(40円)かかる。そして管理者の給料を加えて、一回駐車するコストはただ3ゲン(50円ぐらい)である。

今中国の既存な条例や規定により、このような設備は特別設備に属している。これらの特別設備に対しては、厳格的な検査標準と補修の規制がある。しかし、その標準を満たす駐車設備が多くない。それで、故障と事故を防止するため、設備が持っても、現実に投入することが恐れられている。

その一方、現在中国人のドライバーさんがもう国内の交通管理や駐車方式に慣れたから、立体駐車場はあまり注目されていない。直接的に道側で止まることより、疑問せずにもっと長い時間かかる。何分間しかなくても、大体同じ料金なのに、より多く時間かかることが嫌がれている。そして、立体駐車場が普通な駐車場より狭いから、技術が甘いドライバーにとっては、つらいことである。これも立体駐車場を選ばない理由の一つになっている。

もっと深く考えると、今大事な発展段階で、この駐車問題より、より一層深刻な問題がある。そして発展することに伴って、ますます増えている。どの問題が優先すべきか、経済面に次第だと思う。それから、他にも、環境を守るため、交通機関を使うことを励ますことや、路面の荷重量に配慮することなど、色々あると思う。

従って、現在中国の国情と繋がって考えると、立体駐車場の発展は制限があるということは私たちが考えられている。

・中国は現在、駐車問題に対して、どんな政策が出てきたのか。

色々な政策があるけど、中国は近年以来、主に「スマートパーキング」という政策を推進されている。

スマートフォンのGPS技術やGIS技術とつながって、自動的に駐車場を探したり、スマホのアプリで駐車料金を払ったりすることが実現された。この政策は駐車場の利用率と個人的な時間利用を最大化できる。

この政策の利点は、進出の速度を上げることだけではなく、さらに、各自の需要により、特別な駐車位置が提供できる。例えば、技術が弱い人に普通な位置より幅広いところを進められることや、すぐ出る人に外側の駐車位を探すことなど。特に現在の情報化社会を背景にして、スマートフォンとの連携が、この技術の応用として、人たちに受け入れやすいと思われる。

・中国では、民営駐車場があるのか。

民営駐車場というのは、ある人がそのところの使用権を買って、駐車場を造ることである。今中国では、このことを実現する可能性が低いと思う。これは一つ目の問題との共通点があると思う。造ることは資金や時間がかかるし、コストを回収することも難しい。利益面から考えると、確かにこれらの問題点がある。

対話相手とのコミュニケーションを通じて、たくさん知らなかったことが分かるようになった。確かにこの駐車問題を研究したいというきっかけは旅行中の不便がもたらしたけど、観光地の駐車問題だけではなく、さらに社会的な駐車問題を注目して、解決すべきである。しかし、今学生として、まだ色々な不足があると思う。やはりどうやって観光地を中心として、駐車問題を改善、さらに解決できることを考えたほうがいいと思う。以上の理由で、これからも上述の点に対して、もっと詳しく研究したいと思う。

授業についての感想：

今学期は前学期と比べると、時間が速かったと思う。なぜかというと、テーマメモを書く時間が短縮されていると思う。二週間一回で提出するし、他のクラスメートからもらう意見の機会も少なくなる。しかし、こういう方式のおかげで、他人に頼らず、もっと自分で考えられることが実現された。それから、三年生の基礎として、研究したいことを確かめることは有意義だと思う。今の段階では、自分が迷っているし、そして、将来については、まだ色々な不明点を持っている。この一学期の時間を把握し、ちゃんと自分がやりたいことを考えることは得がたいと思う。

同じクラスの人でも、他のクラスの人でも、みんなが研究したいことをどんどん分かるようになって、やる気も浮かんでいる。この影響を与えられる自分も、これからもっと頑張りたい気持ちを持つようになった。来学期も今年度のテーマを基づいて、より深く研究し、成果を出すよう、勉強したいと思う。

ゲストハウスと私

氏名：鄭太泳

はじめに

最近のニュースで日本での桜パッケージとして、観光者数が多く増加したという記事を見たことがある。日本に来る観光客は、中国、韓国など色々な国から増加する趨勢であり、大阪梅田に行っても、外国人が本当に増えたことを体感することになった。観光をしに行くとき準備しなければならない事ではいろいろあるが、その中でも最も重要だと考えるのは断然宿泊問題だと思う。

私は今回の課題の研究テーマとゲストハウスについて研究したいと考えている。きれいなゲストハウスを運営することが私の小さな夢でもあるからだ。

友達と日本に遊びに来たときにゲストハウスで宿泊をしたことがあるが、そこで出会った他の外国の人たちとロビーで夜遅くまでお酒を飲みながら楽しく会話したことがあった。単純宿泊業ではなく、文化交流の場所にもなることができると思った。そして、様々な訪問客のニーズを反映した新鮮なゲストハウスもたくさん増えたので自分の好みのゲストハウスを選び、楽しむことができる。

ゲストハウスをネットカフェと比較する人もいるが、それぞれの目的が少し違う。ネットカフェは基本的に宿泊が目的ではなく遊びにフォーカスを合わせたものだ。マンガカフェから派生されたことによりさらに、パソコン利用が可能である。時間帯によって価格が大きく変動され、人気がある週末のピークタイムにはかなり高く、深夜には価格が安い。この様に人が少なく、価格が安い深夜時間を利用して宿泊をする人もいる。

私もアルバイトで他の地域への派遣勤務をするようになった時に深夜時間帯を利用したことがあるが、基本的に宿泊を目的とした施設がないため、楽に休息を取ることにはできなかった。もちろん、日本を何度も訪問した、経験の多い旅行者なら比較的料金が安いネットカフェで泊まることもできるかもしれない。しかし、荷物もたくさんの旅行の初心者には勧めにくい。

また、ゲストハウスと民宿との違いもあるが、民宿は一般家庭の部屋一つを借りて実生活を共にその国の家庭文化を体験できるようにした形だが、ゲストハウスはいくつか部屋に数人が一緒に生活する共同宿舎の概念で二つの違いは明確だ。

ゲストハウスは、旅行者が比較的安い価格で快適に休める席を提供する上で、旅行ルートや観光名所情報などのシェアまで提供できる。そしてゲストハウスで出会える他の旅行者たちとの交流も可能だという点が最大のメリットだと思う。

私が持っている外国人の観点からの知識をベースとして、外国人たちが好むゲストハウスではどんな条件が必要かと深く研究してみたい。

対話の対象

21 歳の女性。韓国の大学の在學生で、来年に日本へワーキング・ホリデーの予定がある韓国人の友達

日本旅行の経験が 5 回あり、ゲストハウスを利用したことがある。

日本旅行に大きく興味を持っている。

男の人とは違って宿泊問題に敏感な女性たちのゲストハウスの利用中のトラブルなど、女性顧客のニーズを把握したいと思い、この人を選んだ。

対話

5/24 木曜日の対話の相手は韓国にいたので face time を利用して対話進行

対話時間は、1 時間程度

匿名で A 氏という

A 氏は、ゲストハウスに関する対話を本当に興味深く思っており、ワーキングホリデーに行くとしたら、ホテルやゲストハウスで仕事をしたいと言った。A さんは日本語がまだ下手なので韓国語が可能な強みを活かしたいと思っている。

福岡に A 氏と A さん友達、女性 2 人で旅行に行ったことがある。ゲストハウスを利用したときに文化の違いから来たものかもしれないが、セクハラを受けたことがあるといった。そのゲストハウスでは 1 階のロビーがラウンジの形になっていて自由に酒を飲んだりして、初めて会った人でも対話しやすい場所だった。ところでゲストハウスの男性のカウンターの職員と一緒に酒を飲んだ。職員が勤務中に酒と一緒に飲む雰囲気までは良かったが、だんだん性的な話が出て連絡先を露骨的に要求する状況まであったという。その時はこれが日本の文化なのかと思って、雰囲気を冷ましたくなく仕方なく連絡先を交換したという。「深刻な表情で」これが本当に日本の文化が合うか何度も私に聞いた。

もしかしたら韓国人が運営するゲストハウスでは、こうした文化の違いからもたらされる不便さはなさそうだった。しかし、A 氏は、文化的違いから来る経験も悪くはなかったため、今後の日本を知って行くためにいい経験だったと笑いながら話した。しかし、大多数の初めての日本に旅行する人や女性の旅行客ならできれば安全な宿泊施設を利用したいはずだと言った。

ゲストハウスを建てれば、やはり場所が最も重要なようだ。大阪に旅行した時に、駅から近いゲストハウスを予約したが、実際に行ってみると、駅は近いけどその路線が観光地とは合わなくて結局、タクシーを利用した経験があった。

ゲストハウス側で客を空港でピックアップサービスもあるという話をしたのに良い反応を見せた。ほとんど旅行客は、宿泊施設まで行く時、道を迷う場合が多くて苦勞を多くするためだ。

A氏は、Airbnbなどの宿泊施設をインターネットで登録、予約しやすくなったが、このようなサービスを利用しなくては営業が難しいだろうと思うと話した。加えて、韓国人ならSNSを利用した広報効果が大きいだろうという。フェイスブックやインスタグラムで、きれいでかわいいゲストハウスの写真を見ると日本旅行をいきたいという気持ちが強くするという。そして韓国人が運営する所なら、予約や問い合わせも楽にすることができ、利用時にも本当に楽しそうだと話した。

これからどのような形のゲストハウスがあれば良いかという話では、定まった形のゲストハウスはよく分からないが、利用したゲストハウスをまた利用するより、他の様々なゲストハウスを利用してみたいし、いろいろな形のゲストハウスを利用してみたいからと話した。

対話の結果

結論的に、Aさんとの対話では安い値段で利用する宿泊施設であるため、施設面では大きく期待しないけど、場所と職員の印象を重要な要素と思っていた。場所は当然な要素と考えたが、施設より職員の印象を大事にしていたのは意外だった。

要するに、ゲストハウスというものは、空間を活用した事業である。寝室の提供を目的として、多人室の客室と共用バスルーム、トイレなどを備えた宿泊施設だ。主に実利と便宜を追求する若い観光客が多く利用する施設だ。

しかし、現在日本の観光産業発達で観光客の増加で需要は年々増えているが、宿泊施設は足りない状況だ。特に最近は観光やショッピングを中心として、宿泊料は最大限節約しようとする観光客が多く、ゲストハウスに対する需要が増えている。

旅行者たちがゲストハウスをたくさん利用する理由としては安い費用面もあるが、外国人たちと疎通、交流の場を作ることができるという点もある。多人室の客室のゲストハウスで初めて会った外国人観光客同士で旅行情報を共有しながら交流することが、観光文化として定着した。交流の場を期待し、ゲストハウスを利用する若い観光客も多いようだ。

私が考えるゲストハウスの重要な要素の一つは広報だ。そのためにSNSのようなインターネットコミュニティを通じて、情報共有することが必ず必要だと思う。今後の研究では、SNSを利用して、ゲストハウスの接近性をもっと楽にするためにはどのようにするのがいいか考えてみたい。

終わりに

私に関心をもっている分野は SNS、コンテンツの上でのマーケティングと経営だ。これに該当する様々な分野はたくさんいると思うが、ゲストハウスを選択した理由はなんだろう。一つ目は所有することができるという点だ。ゲストハウスの所有という点は会社のオーナーとは少し違って愛着が生じると思うからだ。そして、基本的な形式が無いため、便宜提供に問題がない範囲に限って、私の個性そのまま運営が可能という点だ。そうした点で気軽に楽しみながらできる環境と雰囲気が出来ると思う。このような軽い環境でコンテンツを活用したマーケティングをいろいろ試してみたい。外国人向けなので、国際的経営マインドが必要とするものであり、それに興味がたくさんある。

私は夢というのは好きなものの積集合だと思う。私が好きな要素が集まっているその場所が夢というところではないかと思っていた。旅行、人、感性、交わしたことについて喜んでいる姿を見ることの楽しさなど、多くの好きなものがたくさんいるところがゲストハウスだという結論が出た。

また、ゲストハウスは収益を越えて楽しい気持ちで運営しなければならないと思う。金銭的な要因を超えて、人との出会いと交流が好きならより楽しい気持ちで運営を持続できると思う。単に収益を目的でゲストハウスを運営するならば、継続的に発展させ難い事業だと思う。

オシャレなインテリアとセンスのあるデザインで構成された誰でも泊まりたい宿所、なるべく多くの人好む空間を作りたい。さらに最近のゲストハウスは、多様なテーマとイベントを通じて、単なる宿泊施設を越え、出会いと疎通の場所に変化している。旅行のほかにも他の思い出を提供できるゲストハウスを作りたい。そして満足する人たちから私も楽しみを感じたい。

感想

今回のレポートは自分が興味ある分野について深く考える契機となった。私に関心をもっている分野なのに、私との関連性を文章で表現するのはけっこう難しかった。しかし、レポートを作成しながら、または他人にアドバイスを受けながら気付かなかった部分について少しずつ頭の中でイメージ化できるようになったと思う。

そして、これから先のゼミの選択において本当に助かった。レポートの中間発表をしながら研究テーマと関連した先生を確認させてくれることで自信が生じた。授業中に他の学生にアドバイスを受けた時間は本当に良かったが、できれば、先生にもっとたくさんのアドバイスを受ければよかったと思う。

これから私が研究したいこのテーマを中心に、多くの国に行ってみながら、国際経営に関して深く勉強をしたい。今、計画している米国または欧州留学にとって大きな力になるだろうと確信している。

VRとはコンピューターシミュレーションを利用して3次元空間の仮想世界を生み出し、使用者が視覚などの感官に関するシミュレーションを提供し、使用者がまるで自分のような状況を感じているように、使用者が位置を移動する場合、コンピュータはすぐに複雑な演算を行って、正確な3次元の映像を再現して、臨場感を与えることができる。VR技術は主に医学(仮想人体模型を構築するにより、シミュレーション手術を実施でき、最優秀の手術計画を行える)、ゲーム(リアルタイム性と相互性を保つとともに、迫真力を向上させる、自らその場に臨むことができ、より良いゲームを体験でき)、室内デザイン(家の構造、デザイン、スタイルを直観でき、デザイナーが自分の思い通りに仮想の部屋を構築して、自由に部屋のスタイルを変更でき。)などの領域で運用されている。

最初とVRを接触したのは武漢のVR体験館である。特質なVR眼鏡をかけてから自らその場に臨んだ。まるで現実のようだ。いつも接する3D、4D映画は異なっていて、それは自分に“見る”でなくて、自身に“入って”の環境の中であること。私が体験したゲームは、8000メートルの雪山の上で一人の栈道を歩くゲームだった。風は頬を吹いていた寒さ、雪が身に舞い落ちて冷え込んだ感覚、栈道はふらふらとした刺激感、いろいろな要素を揃えた故に8000メートルの雪山の栈道に歩くことを実感させた。VR装置を利用してあとという間で自らその場に臨んで、雪山の山頂に置かれて風雪こもごも至る栈道に歩く。勢い迫真感でアドレナリンを分泌させ、足を震わせる、まるで切羽詰ってこの栈道を渡さなければならない。最後でびくびく栈道を渡った。体験により、VR技術の強さを味わった。

父は建築家であり、小さい頃から建築に関することを馴染みがある。またVR技術は建築領域でも使われている。昔はBIMを利用している。BIMとは建物のライフサイクルにおいてそのデータを構築管理するための工程である。3次元のリアルタイムでダイナミックなモデリングソフトウェアを使用して建物設計および建設の生産性を向上させる。BIMは確かに建物形状、空間関係、地理情報、建物部材の数量などきちんと伝えるが、VRより視覚的に差がある。昔BIMを通じて建築計画を立てた。建築工事は複雑な大型のシステムであり、主に(1)工事の主体は固定したため、生産は流動性があり。建築工事中の空間の配置と時間の配列は合理的秩序が不可欠である。(2)建築工事の生産周期は長い、工程が多い、総合性が強い、仕事先の多様性、多くの工事は高空または地下で行われる。(3)建築工事を実施中で、人的関係は複雑であり、彼らの協力関係も複雑になる、これは建築工事の仕事が複雑から、その完成するために工種の異なる人間の交流と協力を必要になる、各種な材料、機械と施設を加えて工事は更に複雑になる。建築工事は各種の特徴があり、工事計画、工事現場の管理、工事作業に困難をもたらすことになる。BIMは対応できないため、VR技術のシミュレーションの過程を通じて、実際の工事中に存在している問題点を早期発見して解決策を行うことができるため、VR技術は建築工事で多方面に活用される。例えば、普通の設計図では一般人にとってただ部屋の構造を読み取れる、図面から情報を吸い出すことはなかなか難しい。VR技術を導入して、実際に現場に居られる状態になり、水道と電気の配線は一目瞭然である。または好きに部屋のスタイルを変換する、家具の位置を変更するなどいろいろなことができる。

建築業界において多く使われたCAD(コンピューターを用いて設計をすること、あるいはコンピューターによる設計支援ツールのこと)は欠点がある。一般的な建築構造の設計には、構造形式の選定、形状サイズの仮定、模型化、構造分析、検算、図面描画、材料計算などのプロセスが含まれている。建築工事の中で一番早い適応するソフトはCAD技術の構造デザインである。現在設計に対応するCADシステムは主に3種類に分けられている。第一種類、様々な設計プロセスに対応するシステム。例えば、構造の形式の選択、構造分析、設計、製図、材料計算などのシステムは、各プログラムは様々な構造の形式を処理することができる。第二種類、統合化設計システム。このようなシステムの自動化レベルは一般的により高いため、少量のデータを入力するだけ、統合システムで設計の全過程を完成させること

ができる。第三類、汎用 CAD システム、例えば AuToCAD、Microstation など。このようなシステムは、基礎の図形処理機能を持つ、各工程の設計図を描けるが、このようなシステムの作業効率は通常より低く、ソフトの進級することが必要である。現在の CAD システムは大部分がグラフィックサポートソフトに基づいて構築されており、画図と分析計算は分離している。絵の段階で単純に製図して、コンピューターの補助デザインは設計者の思想を図形で表現する(特別には施工図を描画するための)であり、全体的ではなく、方案の選択、具体的な設計、分析計算から施工図を制作するまで各方面の支援設計の全過程。人々は設計者の知識、経験およびで考えるのを望んで、コンピューターの分析、計算、比較と判断を通して、方案を如実に表すだけではなくて、その上またその修正案によって数量化の後のデータと結論、設計者はデータにより方案を修正するなど。これは製図と構造計算の一体化である。現在のソフトウェアはすでに製図と計算互いに結合するという目標を発展しているが、しかし、現在のところは両者がそれぞれの機能を持つ。現在のところのこの種類のソフトウェアの欠点は操作が定めて制限が多くて、操作が複雑である。

対話相手：父

父は建築業界に 25 年をやってきた、業務の幅は広がった。例えば、各発電所（風力発電所、生物質発電所、火力発電所）、一般高層ビル、橋、住宅地、舗装道路など。仕事先は全国に含んで、いろいろな場所で汗を流した。項目の責任者を務めてから現場によく赴いた。

質問：建築業界は VR を活用しているか、なぜ VR を使う

答え：今の建築業界において、最先端の技術は VR 技術だ。我が社が VR を導入してないが実際に他の会社に体験したことがある。例えば、設計図を見ると、単にパソコンの画面を見て、あるいは紙製の設計図でも、その中にある情報を吸い出すだけ。VR 技術を利用して、見られるのはただの画面ではなく「現場」だ。デザイナーにとってかなり時間を節約した、君は多分分からない、普通の建築プロジェクトにとって最終効果図は 15-20 枚ぐらいが欠かない、規模が大きい工程なら 30-40 枚ぐらい。しかも、最終効果アニメーションは 5-14 日の時間をかけて製作してきたよ、人件費や製作時間はお金にすると、大体何十万円が必要だ。もっと精良なアニメーションの決着は秒に換算する、一秒は 3500 円にするケースが多かった。しかし、それぐらいのお金を投入した上で結果として、甲方は単一の角度から建築物の完全体を理解する。もし甲方は他の情報を希望する場合は、例えば、壁の材料、内部の構造、天気と環境により建築の変化、建築材料の外観など、伝統的な最終設計図と最終アニメーションでは完成かねない。

まとめ

建築業界において、特に工夫しなければならないものは 2 つがある、一つは建てた建築と最初展示した図と違いこと。2 つは工事の品質が制御するのが難しく、難点は統一して計画案配して、資源を統合すること。BIM+VR の相乗効果が業界においてかなり助かる。システム化 BIM プラットフォームは設計プロセスを建てる情報化、3 次元化を、同時にプロジェクトの管理能力を強化する。VR は BIM の 3 次元の模型の基礎の上で、具象化と可視度を強化する、仮定の模型を通して展示して、使用者のために可視化の印象を提供することができる。BIM+VR の組合せは新しい業務の形態が、極めて大きい引き上げ BIM の応用の効果が発生するのを推進する。工事の中で、複雑な構造の工事の方案設計と施工する構造計算は難点である。BIM+VR を利用して、仮想する環境の中で、周囲の環境、構造部材と機械装置などの 3 次元の模型を構造して、システムの中の模型に動態性能を持たせて、インタラクションの可視化の環境の中で工事の方案に対して改正することができる。同時に、VR 技術を利用して異なる方案に対してことができ、短い時間の中で大量の分析をして、それによって工事の方案の最適化するのを保証するだけではなく、大いに工事の企業の入札の競争力をも増加する。最後に、VR の認知によって建築設計を実現することは、建築設計の未来の本質を想像する最高の表現である。

日本語授業への感想

今年春の日本語授業は去年より聞く、書く問題がよく出てきた。主に月曜日のレポートを書く、今のレベルで字数もだんだん増やしてきた。そして、3年生時日本語授業のレポートは更に字数を増やしていくと考えられる。自分に
関心がある所を資料または文献を調べる。いわゆる、資料の集める力を育成する。卒論まで日本語の授業で皆さんの
レポート書く力を鍛錬させるのは春学期月曜日の日本語授業の目的と思う。もう一つは木曜日のvtrを見て、聞き取
れた内容をまとめる、または意見文を書くなど。vtrを見る時、確かにほとんど理解できるが、ほんの少し所の文法
的の箇所が分からなかった。それに私は自分の日本語また上達してないと思っている。授業が終わったけど、また家
にまた youtube で日本に関する社説やドキュメンタリーなどを見ている。新聞やマスメディアの報道は私にとって難
しい言葉がよく出る。それを聞き取れるように練習している。最後に春学期の日本語授業は自分の日本語能力を伸ば
した、ほんとに先生に感謝する。

参考文献:

<https://baike.baidu.com/item/%E8%99%9A%E6%8B%9F%E7%8E%B0%E5%AE%9E/207123?fromtitle=vr&fromid=764830&fr=aladdin> 虚拟现实

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%90%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3> バーチャル・リアリティ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/BIM> BIM

<https://www.zhihu.com/question/29413252> VR と BIM

<https://wenku.baidu.com/view/675c6b9b227916888586d702.html?from=search> VR と 建築

<https://wenku.baidu.com/view/9298bc35f524ccbff0218411.html> 建築工事の流れ

コミュニケーション能力と私

➤ 根拠

私は去年の4月に入学した。日本の大学に入学する前は日本語学校に通っていた。そして、お住まいも外国人だけのシェアハウスだった。それゆえ、日本人の友達は一人もいなく、毎日外国人の友達と過ごしていた。しかし、たまには日本人の学生との交流会には参加し、日本人の学生と会話をしたことがある。その時は、あまり気にならなかったけど、今、自分は大学に入って日本人の友達が少ないことに気づいた。また、自分の周りの留学生を見ても自分と同じく日本人の友達がいないという事が分かった。

逆に考えてみれば、日本で留学しているからこそ、もちろん日本人の友達が多くいるはずだと思った。しかし、実際に日本人の学生と会話をしたら、あまりにも上手くいわずに会話が止まってしまい、話が詰まらなくなる場合が多い。それは、やっぱり日本人と私たち外国人との間に壁があるのではないか。母国じゃない国で暮らしている私たちには分からないことがいっぱいある。特に、日本人の若者が使うスラングには連れていけない時、二人との間にコミュニケーションミスが起こる。

➤ きっかけと目的（研究したいこと）

ある時は、あなたは「留学生、あるいは、外国人」私たちは、「日本人」というグループに分けて考えている日本人がいて会話をするときには単なる質問をして終わるのもある。例えば、「どこから来た？」「日本語いつから勉強した？」「なぜ日本に来た？」などである。そんな時は、お互い質問をしたり答えたりして会話が終わってしまう。こんなコミュニケーションも悪いとは言えないけど、それからは関係がなくなり、仲良く続く人は少ないのだ。それゆえ、私はこれからコミュニケーションについて研究していきたい。

一年生の時から今までコミュニケーションについてのたくさんの授業を受けてきた。まずは、直接に日本人とのコミュニケーションを勉強するのではなく、コミュニケーションと言う概念をもっと詳しく勉強したい。それから、日本人のコミュニケーションスタイル、あるいは日本の文化から来たコミュニケーションを研究したうえで、他国との違いなどを探しながら私たち留学生はこれまで何が足りないのか、何が間違っているのか、どんなところをだいじにしていけば、“日本人” “外国人” という考え方がなくなるのかを研究していきたい。

➤ 将来への考え

私は将来 在日本ミャンマー大使館での公務員か国際機関と関わる仕事かこういうたくさんの人と関わる就職をしたい。そちらかにしても卒業後は日本で仕事をして経験を得たい。だから、日本人とのコミュニケーション能力は もちろん、たくさんの人にアプローチをするより良い方法が必要となってくる。また、これから日本人だけではなくそれぞれの国から来た様々な性格を持っている人々と関わっていて将来のなりたい自分への役に立つ研究をしていく必要もある。

➤ 対話相手結果

前回対話相手二人を考えたけど、結局二人ともにお話をした。

1. 関西学院大学（総合政策学部）3回生の先輩「マリン」との対話

彼女は子供のころ、外国に育てられて英語もペラペラしゃべれる方である。彼女と出会ったのは一年前だった。知り合いのインドネシア人の友達に紹介してもらい、今まで仲良くしている。

まず、私は彼女に「マリンさんは外国人とコミュニケーションをとるとき何か気になったこととかある？」と聞いたら、彼女はこう答えた、「アクセント！いつも、日本語でも英語でも私と違うアクセントだったら、どこの国から来たんだろうか考えてる。それと、文法が日本と違う言語が多いからな」と気楽に言っていた。

私はそれを聞いて、確かに彼女は英語も日本語も上手に話せるからそう言ってくれたかなと思った。

また、「外国人と日本人との二つのコミュニケーションの中で何か異なることある？」って聞いたら、彼女は「日本人は話すとき、遠慮気味で話すけど、外国人はずばずば言って分かりやすい！日本人遠回しに言うよ。」と少し笑いながら言っていた。

これを聞いたら、私は「日本人は恥ずかしい」という言葉が思い出した。それは、結構ほとんどの外国人に言われている言葉ではないか？しかし、私が個人的に考えたのは「なぜマリンさんはそう言っていたのか？彼女も日本人であるのに恥ずかしくないのか？」と疑問をもっていた。しかし、知りた過ぎて聞いてみた。彼女は「私は小さい頃から日本の学校に行っていなかったし、親戚もアメリカ人だから、まあ、大体わかるでしょう?!」と笑いながら言っていた。

2. 関西大学（経済学部）一回生の友達「ジョ」との対話

彼と出会ったのは、二年半前で元日本語学校の友人である。彼は中国人なので、少し質問を変えて「ジョさんは日本人とコミュニケーションをとるとき何か気になったことある？」と聞いたら、彼の反応は激しかった。「日本人の友達がいない！」だった。

私はそれで「じゃ、なぜ日本人の友達がいないの」と言い返したら、少し私と同じ疑問が出てきた。それは、「国籍が違ってグループに入れてくれないよ」だった。彼はちょっとがっかりして言っていた。

また、「日本人と話すときと外国人と話すとき何が違うとを感じる？」って聞いたら、適当に「雰囲気が違う。外国人だから」と言って、私が「どういう雰囲気？」と聞いたら、あまりちゃんとした話が出来なくて「感じるだけだよ」と言ってくれた。

➤ まとめ

二人ともに約一時間かけて話したけど、全部覚えられなくて、「そうか。なるほど」と考えたところだけを書き込ん。二人の話聞いてみた後、私は研究テーマを「日本人とのコミュニケーションと私」ではなく、「コミュニケーション能力と私」に変えた。なぜかと言えば、やっぱり今私の問いは日本人とのコミュニケーションが問題ではなく、もちろん国籍から来た文化の違いでコミュニケーション仕方が異なることもあるけど、大事なそれはそれぞれ違う性格を持っているからこそコミュニケーション仕方が違って行くのだ。

私は今回お二人にもお話をしたことは本当に良かったと思う。二人は全然性格が違ってそれぞれ持っている考え、意見も全く異なる。マリンさんの場合は、親戚がアメリカ人であったり、子どもの時から海外で育てられ、これまでたくさんの人と出会って、彼女の性格は明るくてわくわくしているタイプだと考えられる。彼女も日本人は話すときは遠慮気味で話すと言ったけど、それは日本の文化から来たという事が分かった。この間彼女と他の日本人の人とご飯を一緒に食べた時、彼女は何も気にせず普通にみんなと喋っていた。

だから、私もこれから“日本人”と言う考えをなるべくなくしたい。今までの自分を振り返り見てみれば、日本人と話すときちょっと不安に感じて、いつも“日本人”と喋っていると考えていたのが多い。それで、自分の周りにいる仲のいい友人に気づかず、遠くにいる少しだけ話して離れていく人々のことが気になった。

また、ジョさんのことを考えてみれば、彼は私と同じく考えすぎているタイプだと思う。彼は、彼自身があまり人と話すのが苦手な性格である。彼が言った「違う国籍だからグループに入れてくれない」という事はからも自分は外国人であるというアイデンティティーをずっと心掛けているのではないかと考えた。

それゆえ、私たちは違う国籍の人とコミュニケーションをとる場合は自分は何である相手は何であるという自分を属することを考えずに自分なりにアプローチした方

がいい。人はみんな違う国で生まれ育ったため、各国の文化の影響が及ぼす恐れがある。その文化から伝わったコミュニケーション仕方を私たちはそれぞれ持っているのだ。だから、それが私たちの中の壁である。それを気にしている間はその壁もなくなるらない。

最後にクラスメイトの意見を踏まえて書いたら、やっぱり人々はたくさんの人と仲良くしているわけでもないし、自分と同じ分野にいる人だけと仲良くしていることが分かった。だから、これからたくさんの人と仲良くするのはなく、どうなたならどういうコミュニケーションをとったらいいかに基づいていきたい。それが、将来なりたい自分への向かっている道だと思う。また、今自分が学んでいることと研究したいことを関連してみれば、日本人とのコミュニケーションの方向ではなく、コミュニケーションと言う一般方向に向かっていることに気づいた。だから、今の自分の事を見詰めながら、研究を行っていきたい。

➤ 授業に関する感想

自分が研究したいことをこの春学期を通して、深く考える機会だったと思う。私はこれまで研究していききたいことを本気で考えたことがなかったため、ちゅんとした研究テーマは立てなかったと思う。しかし、これから自分は何に興味を持っているかを知り、それを通して秋学期の時にゼミを考えていけるようになった。

授業についての改善案としては、毎回4人または5人ぐらいのグループに分けて、話し合うより、一人ずつみんなの前で15分間ぐらい今までやってきた通りに発表する方がいいと思う。なぜなら、少人数で話し合うと時間がいつも余っているし、同じ国の人が集まったら、つい母国語で喋てしまい、話がずれてしまう。だから、みんなの前で出て自分の研究したいことについて発表したら他のクラスメイトもみんな聞けるようになると思う。グループに話すより前で発表する方が学生にもしっかりさせると思う。

経営と私

リシュンカイ

李 春海

わたしは今年の春に一度帰国していた。友だちの集まりや遊びはもちろんのことだが、同時に疑問も多かった。例えば、なぜ地元の店はお客さんがそんなに来ないのに、店はつぶれないのかという疑問を考えはじめた。どういう客層が来るのか、どういう料理を出しているのか、何が売れているのか、毎日どのくらいの営業額があれば、店は倒産しないのか、利益とコストの均衡はどうやって保つなのかの様な疑問が生まれ、私が経営を考えるきっかけとなった。

地元の商業街で、一日中観察して、彼らの店に来るお客さんの数は思うほど少なくはないだった。地元はシンセンの中心から少し離れた人口の多い町であり、交通の便利さと、街から離れた所に企業や工場があるため、町では若者や40代の人口が多く、彼らのおかげで、地元の商業システムが成り立っている。商業街の店を一日の時間を使い、観察しながら、店の経営は成り立つのか、また、どのくらい儲かるかを計算していた。

わたしはいつか自分の会社を持つことが夢である。わたしは誰かの下で働くつもりはなく、なぜなら、自分が努力して出した成果を他人に譲ることができないからである。また、他人の下で働く場合は、上司の配慮もしなければならぬし、自分のアイデアや仕事も思うようにうまく進めないだろうと考えているからである。

卒業後、わたしは中国に帰り、地元でレストランを開きたいと考えている。わたし

がレストランを地元で開く理由は二つある。一つは、地元では外国から戻ってくる留学生向けに、「留学生ローン」が置かれている。「留学生ローン」と言うのは、地元シンセン政府が、外国の大学を卒業した留学生を地元にもどってもらい、シンセンで起業するための援助金である。「留学生ローン」を借りたら、わたしが起業する資金が集められるそうと考えたからである。二つは、自分は地元の町をよくしているからである。幼い頃からずっと住んでいる町で起業することで、町の文化や今までの変化をしているし、自分のよく知る地元で起業することで、地元の文化や変化を応じて、プログラムを立ち、リスクを最低限にすることができるからである。

なぜ、わたしはレストランを開きたいと言うのは、大学に入る前の受験勉強の時に、先生が話していた「第一産業」のことは印象に残った。人類の「第一産業」のことだった。「第一産業」とは自然界に働きかけて直接に富を取得する産業が分類される。人間は生きるために、必要なのは「食べる」ことが不可欠な行動と言える、「第一産業」と人間が食べるために生まれた産業とも言える。「食べる」ことが人間にとって、不可欠性を考えて、わたしは「食べる」と言う人間の意志をいかして、レストランを開こうと考えている。

地元では企業や工場で働く若者や40代の人口が多いため、時間帯別にメニューを考える必要がある。例えば、朝は出勤の人が多いため、気楽に食べる「中華まん」や「パン類」を中心し、昼では、炭水化物豊富な食事を提供する、ファーストフードや食配達の機能を揃える必要がある。午後以降は品種豊富な「ミルクティー」や「紅茶」を出して、人々がゆっくり過ごす場所を作ることにもできる。夜は少量な炭水化物メニューを出したり、若者に人気のダイエット料理を出したり、たとえばサラダ料理やカロリーのない料理を出せると考えている。また、夜になったら、種類豊富な広東省デ

デザート「糖水」を出すのも良い選択である。「糖水」と言うのは広東料理の最後にデザートとして出される甘くて温かいスープまたはカスタードの総称である。広東料理に独特のもので、他の地域の中華料理には見られない地域独特な食べ物である。このように、メニューを時間帯別に作るつもりである。

次に、店はどうやって料理を提供するのか、その形式を考える。たとえば、店内の設計をオープンキッチンにすることで、御客さんの目の前で調理し、お客さんの食欲を高める方法を使う。また、お客さんにどんなサービスを提供したらお客さんが喜んで店に来るのかを考えて行きたいつもりである。

わたしの対話相手は彼女に頼んだ。卒業後地元に戻り、彼女はわたしと一緒に起業することを決めた故に、彼女といつも相談していた。わたしのことはよく知っている、もちろん、わたしは将来卒業した後帰国し、地元で起業することをはがっていることもしている。一緒に起業するために、彼女は自分なりに考えていて、調べていたはずのことはである。彼女との対話することで、わたしが起業したいと言うことに、彼女はどのように思っているのか、彼女としての立場や女性の考えを知りたいと思っているから、彼女を選んだのである。

「対話」方法：オンライン電話

「対話」時間：夕飯後

最初は雑談のように、わたしが卒業して、地元に戻って、レストランを開こうと言う話題から入った。彼女はわたしの計画をよくしているため、例えば、「なぜ地元で

レストランを開くのか」、「なぜ卒業した後日本に残るではなく、中国に帰るのか」、
「なぜ何処かの会社に入るではなく、自分で起業するのか」のような質問をしていた。

対話の途中から書く。

「わたしは地元シンセンで、レストランを開くつもりだが、どう思う？」彼女に質問する。

「とってもいいと思う。シンセンの物価が高さや人口の多さを考えると、多くの人口がもたらすメリットは大量の消費であること、また、肉や惣菜の仕入れは他のところに行き、安い値段で買える、とっても儲かりそうだと思う。だが、外来人口が多いため、みんなが好む料理の味は違うし、シンセンだったら、競争にも激しいし、メニューは慎重に考えないとダメだと思う。」彼女はニコニコしながら、答えていた。

「時間帯別メニューについてどう思う？」彼女に質問した。

「いいと思う。時間帯別に需要が違うし、お客さんが欲しい食べ物も違うし、時間帯別メニューの発想がいいと思う。ただし、一つのレストランなので、料理を同じジャンルメニューを揃えたほうがいいと思う。例えば、メニューを全部広東料理にして、時間帯別に朝を「中華マン」、昼と夜を広東料理にして、午後は「午後ティー」にする、20時以後はデザート「糖水」にするように変わるだけとか。」彼女が答えた。

「自分で起業すると、リスクが高すぎるし、責任は重いし、大企業に入るより、自分で起業することは本当にいいのか？」わたしは少し深刻な表情をしながら、彼女に

質問した。

「個人では、自分の旦那さんが企業に入って、安定な仕事してもらいたい。でも、自分の店を経営するほうが儲かりそうで、どちらもいい面悪い面がある。ただし、若い時にやりたいことや挑戦したいことをやらないと、あとが後悔するだろう、また、挑戦したあと、成功したらはなによりだが、仮に、失敗しても、また別の仕事や道を選ぶので、わたしはあなたを支持するよ。」彼女は無表情で答えた。

「わたしのレストランはどうやって、料理を提供するのか」彼女に質問した。

「料理の提供方法は二つある。伝統的なやり方で、従業員を雇う方法と、ロボットを使う方法である。従業員を雇うと、人件費が発生するが、接客の対応が上手にできる。逆に、ロボットの場合では、人件費はないだが、充電やメンテナンスにかかる費用があるし、なりより接客が1番の問題になる。ロボット技術が進歩したら、ロボットを使って、接客という方法もいいかもしれない」彼女は両者のことを比較しながら、少し考えていたから、答えてくれた。

「店内の設計はどのようにするのか？」彼女が答えた後に続いて、質問した。

「店内は個室とパーティーをするスペースが必要だ。個室とパーティーができれば、家族や友だちの集まりができるし、パーティー会場を借りる予約が来そうだ。パーティーの時、仮にメンバーの幹事しかこの店をしらないなら、一度の集まりで、他のメンバーにもこの店を知るようになるだろう、良い宣伝になるからだ。また、店の壁では、オススメの料理の写真を貼り、お客さんが見て、すぐこの店のオススメ料理がわかってくれるだろう。料理の写真をみたら、食欲が湧いてくることも想像できる。」

彼女はワクワクしながら、話が止まらなく、ずっと話していた。原因は彼女が美術と設計を専門しているからだろうか。

「わたしがレストランを開くって、成功率はどれくらいあるの？」最後の質問のため、全体の質問と答えを振り返って、彼女がわたしへの自信はあるのか、彼女はわたしが起業することにどう思っているのかを質問した。

「難しいと思う。今はまだ計画している途中で、実際にやらないと、どんな問題が発生するのかもわからないし、資金面の支出や、ブランドの宣伝などの問題もあるし、問題やテーマはまだ山ほど残っている。」彼女は前の質問するときのワクワクした調子と表情がなくなって、答えた。

今回の対話は1時間以上していた。たくさんの質問をしただが、いくつ答えしか取扱していなく、多くのは途中のやりとりを要約して、答えに入れたのである。今回の対話を通じて、自分の考えはまた甘いと思った。これからは計画するときに、「実行」ということにも考える必要があると思った。

今回の対話を通じて、「自分はこれからどうするか。」を認識した。これまで、自分の将来については、明確な計画を立てていなかった。だから、今回の対話を機に、全てを「ゼロ」に戻してから、卒業後の計画を考える。明確な時間を決める、例えば、「1年計画」「3年計画」…などのように目標を決めて行こうと思っている。日本で「私の経営」を考えることで、地元のない経営スタイルが見つかるかもしれない、地元のない料理の種類を参考にすることで、自分の視野を広げるだろう。

また、レストランを開くために、アルバイトを飲食店にする、直接に店の「内部構造」を研究し、なるべく多くの時間を使い、周りのレストランや飲食店に行き、彼らはどうやって、営業するのか、どのようにサービスを提供するのか、どういう風なメニューがあるのか、などのような事例をデータにすることを考えている。

今学期の日本語授業を通じて、私の経営のことを理性的分析することができたのである。「経営と私」は私自分のことだが、今学期、先生は日本語授業のテーマとして、みんなと一緒に考えることで、ほかの人の経験や、ほかの人のアイデアを参考になってもらった。自分の助けにもなってくれることで、今学期の日本語授業に参加して、良かったと思う。

日本語授業を受けるときに、三年のゼミのことを考えて、ゼミ先生のことをもっと知りたいと考えている。

情報の伝えと私

一映像と文字の区別

総合政策 李夢昊

昔ネットで「北九州殺人事件」という事件経過の詳しい説明をみたことがある。この説明で犯人の心理活動の丁寧に書いた。以前私は日本は安全な国と思う。新聞でこんなことを見ると、自分と関係ないと思う。でも、新聞以外元々詳しい説明を見ると、わたしに大きい衝撃を与えた、自分は日本での安全問題を改めて考えた。新聞中にはたった字面で何人が死んだか、犯人は捕まったのかと言う衝撃がない言葉である。こんな新聞の目的は二つがあると思う、第一は世の中の人に知らせるため、第二は元々重要なことである、それは我々は普段安全な国や場所にいる。自分外側の危険はあまり意識できない、私たちに警告するもこんな新聞の目的である。それ以外事件を記録すると映像も非常に重要だと思う。

現在社会は図や映像だけを見る社会である。技術の進歩によって言葉と文字を中心とした形から図像と映像に変化している。世間の事情を了解するルートは文字に電子メディアに変わる、でもネットの進歩に対して本や雑誌が消滅しまう、そこで文字と映像どちがいいのかを考えた。

現在我々はよく映画をみることができ、テレビやネットなど、でも映像の中にもいろいろな分野がある、映画やドキュメンタリーとかたくせんの表現形式があって、その中に私一番興味深いのはドキュメンタリーである。ドキュメンタリーとて事件を表現すると新聞より良いと思う。それで、現在で沢山の映画作品は事実の事件を改編すると作られた。こんな映画作品は事実より酷い場合があるし弱い場合もある。

ポーランドの映画監督、クリシュトフ・ケジェスロスキー氏は、「誰の人生も物語いっぱいある。現実でそんなことがあるので、なぜわざわざ製作する必要があるのか？それらを撮るだけでいい。」と言っていた。でも現実すべてが記述できるわけではない。これはドキュメンタリーの最大の問題である。もし誰か近づくほど、あの人は遠く離れるこれはとても自然が反応である。ドキュメンタリーを撮るとき、自分注目する人々を記録すると思うほど、相手を表現する意欲は低くなった。でもこの上でドキュメンタリーと映画作品のも区別がある、ドキュメンタリーは、主に真実性と事実性に基づいており、私たちの隣に起こる真実の事実を表現し、事実の尊敬しながら記録する。映画はすべてはドキュメンタリーではなく、アートの形式で記録するである。これはもう事実じやない。一方で、映画もドキュメンタリーも二つは知識を創造するながら、歴史を示している。でも現場の撮影が完了した後、撮影された画像は物語の素材になった。つまり撮影したのは事実となるより、むしろ素材を編成すると物語になっています。ドキュメンタリーと映画は実際に同じところがある。二つも物語を話すのである。そこで映像の中でドキュメンタリーは事実をもっと近いである。

それで、最初から戻る。私は文章を見ると衝撃を受けたと話した、一体どちか良いのかを検討しつもりで。世の中にはたくさん有名な映画作品がある。のんな作品なぜ有名なのか、大きい原因はのんな作品の中には強力なテキストがあるので。しかし、全ての文字は映像に適用するわけではない。でもテキストは映画より豊富な情報量を伝えることができることは事実である。確かに映像は人々にも直接の感覚に与えることができるが、でも言葉は人々に想像力に与える。

そこで文字の力を言いたい。中国昔「蒼顔はもじをつくって、夜は泣き呼ぶ鬼がある」という言葉がある。この言葉で文字の力がみえる、文字は一つ奇妙なことである、文字説明で文章と同じ状況にいるように感じられる。文字を読んで自分が想像した感覚は映像より印象がのこれる。一番文字と似てるのは言語である、文字は「固まった言語」も言えるでしょう。言語と比較して、文字のの利点は正確な再現性がある。文字がある紙は議論より優れている、

もしかしたら、誰か大統領より大きいものがいたら、これは憲法である。憲法は間違いなく文字の一つ種類である。だから文字の力は大統領よりも大きいである。人と言え、悲しい小説を読むと泣いている人もいるし、悪い人の新聞記事を読んで怒る人もいる。これは文字の力である。

文字は映像より強いですが、現代社会のスピードは早いので、人たちは普通図や映像しか読まない。それで、現状ネットのために多くの変化が起こって、ネットを読みも発展している。ネットの有名なネットワークは多くは映像関係のものである。現在映像を載せる道具は多くはネットである。しかも、ネットで大量な図書がみえる、いつかすべての紙の図書がインターネットで見つかるまで、私たちは伝統の紙の本を徹底的に消えることになるかもしれない。でも、ネット上の文字は大量に存在しているのに、多くはニュースやファーストフード文化などを提供している。ネットは新しいものに対する反応が速く、ニュースの伝播においては有利である、でも、本を読むは深い思考が必要な作品の読むは有利である。もちろん、ネット上の情報の更新が速くて、その上で多く情報を載せていることができる、ネット上の情報は映像を主にする。映像を情

報を伝えるスピードが速く、情報の伝播は映像の方がよいである。でも、ネット上の情報は偽物があるかもしれない、しかし、紙で作って新聞に載せる記事のほうが正確である。

本も情報を伝えるの方法の一つである、人を話し言葉を文字に変わって、本の中にはほとんどは文字である、人は本を読んでいる時文字は目を通して脳内を届いた。も一度言葉に変えた。すなわち、言葉と文字は同じものである。

さらに、文字を読んでは、人の想像力を鍛錬して、想像力をアップして。本を読むと映像をみのは人の脳内である区別がある、映像は音と視学を見て、もらった情報を脳内へ伝えて、そして、理解の部分に到着する。私たちこれで情報を理解できる。しかし、文字は違う。はじめ文字も映像の一部である、文字は映像として脳内に伝えて、そして、理解の部分に到着、人は文字を理解して、文字に伝えるの景色や物語を想像して、想像したものを映像を理解してとに戻る。そうして、文字を読んで脳の能力を鍛錬してができます。

話し相手

総合政策二年生 陳さん

聞き手

現在は映像をしか読まない時代である、若者たちは本はあまり読まなくなった。のれによってどう思いますか。

答え

今、学生の学業が重く、小学校から高校まで、勉強に関する本がたくさあり、本を読む時間があまりない、そして、現在ネットの進歩によって本の役割を減るになった。

聞き手

中国現在は雑誌や新聞などもあまり見えないになった。でも日本には人々はよく雑誌や新聞などよく見られる。これは何の原因ですか。

答え

中国のネット今は発達である、雑誌でもらえる情報はネットでもらえる。又は、中国の若者たちは雑誌を読む習慣はないで、日本の若者たちは小さいから雑誌を読む。雑誌や新聞などを発達するの雰囲気がある。

聞き手

普段本や文章を読むルートは何ですか。

答え

スマートフォンや電子書で読む、スマートフォンのアプリで電子書籍をよむ、電子書はネットで電子書籍を買って読みます。

話し合う結論

本は文字の一つ表現形である。でも、現在、人々は本の読む量は減っている、この現象で文字は現在社会での存在感が弱くなるかもしれない。陳さんの会話により、現在人々はなぜ本は読まないのかを検討した。

現時点は人たちは一人当たりの紙の本の読書量、一日減っていく、特に中国に厳しい状況になっている。この中にはいろいろ原因がある、一つはあまり時間がない、家庭を養うために、生活のストレスは厳しくなる。多くの人は毎日長く仕事をやっている、残業も常態である。仕事は多すぎて、読書の時間がなくなった。これは人たちが読む数の少ない原因の一つである。もう一つ重要な理由は受験教育の影響で、小学校から大学まで、私たちはずっと強制的に勉強のために、本を読んでいる、多くの人は本を読むことに抵抗している、読書を恐れる状態にしている。さらに、私たち読書の目的性が強い。私たちが本を読むの目的は、試験を通じて証書をもたらえるためである、昇進する機会を獲得する。だから、中国はほとんどは勉強するために本を買う、本の中で楽しいことを得るためではなく、読書はより高い点数を得るために、有名な大学に入るために、将来的にもっといい仕事ができる。だから、現在子供は点数のために勉強させる、子供は試験に関係ない本を読むと批判する。子供に本を読むことに興味がこれではなくなった。もちろん、多くの子供たちは本を読むことは反感を持っている。だから、子供は本の読む量は減少した。しかし、スマートフォンで情報をもたらうは本より楽しくてはよいです。子供はネットやスマートフォンで夢中になった。

だから、スマートフォンばかり生活している時代には、紙の本を読んでいる人が少なくなったは明らかに感じられる。

授業の感想

レポートの書き方はわかる。日本語でレポートの書き方がわかる。

刘格

修正 1 2018/04/23

修正 2 2018/05/07

修正 3 2018/05/14

修正 4 2018/05/28

修正 5 2018/06/11

最終 2018/07/02

データ分析と私

中国税関輸入 2017 データから中国の産業の弱さを見る

近頃、データ科学家とデータ分析エンジニアが社会需要急増、それに応じた各職が超高賃金でも人材の発見は容易ではない。データ科学とい学科と開設している大学は全世界中 10 カ校以内と数えることは原因の一つ面、世界中大手会社既に数あるの人材を拒否できない賃金で確保。こうした背景で私はデータ科学という知識に興味があり、自分がインターネットでの無料ビデオ授業を見ながら、勉強し、実行してみた。

2018年3月以来、中米貿易戦が始まり、1ヶ月間の後、中国テクノロジー社 ZTE が取引禁止令が出された。

今回の貿易戦はどのくらい時間かかるか、どのくらい適度に激しくなるのか、いつ終わるのか、誰でも見当がつかない。一方で、言わずに心得があるのは今から10年程度に渡って、このような各種各様名乗った摩擦や紛糾は少なくない予想出来る。中国税関データを通し、中国の産業の弱さまたは非常に他国依頼しているところはどこかのがわかるでしょ。弱さを知った上でアジェンダを計画する際に有利になるのでは無いどうか。

中国税関公式サイト¹を登録すると、2017年中国の輸入主要項目金額は以下のよう。 「2017、我が国貨物貿易輸入輸出総額27.79兆人民元、2016と比べ14.2%増、2年連続下降局面が捻転。その中、輸出15.33%兆元、10.8%増、輸入12.46%兆元、18.7%増。」

機械および電子製品は現在、輸出の主要な力となる。2017年の中国の機械、電気製品輸出は8.95兆元で12.1%増加し、中国の輸出総額の58.4%を占めた。農業国から工業国への移行の目印には、工業製品の輸出が第一位を占めていることなのである。より複雑でハイテクノロジーな機械・電子製品の大量輸出が深化した工業化時期になってきた特徴である。

それ以外いくつかのハイライトは自動車輸出の伸び率は27.2%、コンピュータ輸出は16.6%、携帯電話の輸出は11.3%増加なのである。なぜなら現在、海外では、中国製の家電製品や携帯電話を見るのは驚くべきことではないが、海外の道路ではいくつかの国を除き、中国製車が走っているのは稀事。

また、伝統的な労働集約型製品の輸出総額²は3.08兆元で、輸出総額の20.1%を占め、6.9%の増加であったことは注目に値する。一般的に、我々はすべて、中国の労働コストが増加するにつれて、低段産業が外にシフトし始めると考えている。しかし、実際に、輸出データから見ると、中国の輸出を占める労働集約的産業の割合は20%前後で比較的安定しており、2014年には20.4%、2017年には20.1%であり、基本的に変化はなかった。

2016年10月、中国の蘇州天元服飾有限公司（中国で最大のadidas、Giorgio Armaniなどのブランドの服装加工製服輸出商社）と米国アーカンソー州は、2018年に契約を締結することを発表した。アーカンソー州には2千万米ドル出し、ロボットでの主にTシャツを生産製造と縫製工場を投資。はに使用されるロボットの数が多いため、各Tシャツのコストはわずか33セントで、ほぼ2人民元である。2017年7月、唐新天元会長はメディアとのインタビューで次のように語った。³ 「この工場の製服ロボットは22秒

¹ <http://www.mofcom.gov.cn/article/tongjiziliao/fuwzn/ckts/201802/20180202711259.shtml>

(中国人民共和国商务部)

² <http://www.customs.gov.cn/customs/302249/302266/302267/1069460/index.html>

(中华人民共和国海关总署)

³ <http://finance.sina.com.cn/china/2017-09-01/doc-ifykpuui0097230.shtml>

でTシャツを生産でき、毎日8件のTシャツを生産する予定、世界中最も安い労働市場でさえ私たちと競争はできないだろう。本当に嬉しい。」

中国の工業化はちょうどある時点で追いついてきたかもしれ無い、なぜなら、日本、韓国、台湾が労働集約型産業に従事していた時点にとちょうど一致するかもしれない。科学技術の進歩度と生産ラインの自動化の程度は、人件費の上昇コストを相殺できなかった。だからこれらの国がは中国、東南アジアに労働集約型産業をシフトさせなければならなかった。中国はこの良い時点を追い越し、ロボット工学、スマート機器、人工知能技術を改善と人件費の上昇を打ち消すが出来、比較優位を維持し、労働集約型産業はそのまま中国で保ち、中国の労働集約型産業の輸出シェアが近年安定していることがこの理論を説明できる。

また、MachineTool（机床）業界は、最も心配されており、勢が最も弱い。なぜなら、他の最先端工業品それぞれの中で、旗艦会社が出来、ハイレベル鋼鉄材、液晶ディスプレイパネル、自動車（自動車部品）、飛行機などの産業分野には、中国はすでに大手企業（宝鋼集团有限公司、上海汽車工業集団総公司、吉利汽車、中国商用飛機有限責任公司）を持ち、産業クラスターも形成しており。国から更に自社共に研究費が沢山持っており、節となる技術の突発はただ時間の問題である。でもMachineTool（机床）業界は長期的な低い利益率と低い給与、人材流失などの問題に悩まされており、同時に投資欠如で有力企業の不足。現在、MachineTool（机床）業界全般的に低迷のである。この状況説明出来る事件は業界トップ4位と言われる4中国の大連机床機械会社⁴は、2017年11月に破産と再編の判決を受け、現在の負債は224億円で、会長が指名手配されている。

中国税関輸入2017データから中国の産業の弱さをまとめて見ると。

1：石油とガスベースのエネルギーは、中国が輸入する最大量の商品であり、成長を続けている。例えば中露の石油パイプラインを建設するために、中国は250億米ドルのローンをパイプライン建設に供与した。天津のLNG輸入施設を建設するために、中国は136億人民元を投資した。他には電気自動車の補助金があり、可燃氷の投資は設備投資10億元を単位とする規模のである。また、シェールガスを例にとれば、外国製品を代替するための国産化した機器の開発に投資する必要がある。シェールガス開発の坑道

⁴ <http://finance.caixin.com/2018-05-25/101256644.html>

破砕プロセスでは、多数の橋栓が必要であり、平均坑井ごとには 20 以上の橋栓を使用する必要がある。前の橋梁は、一つごとの橋栓の場合は 15 万円、橋梁合計は 300 万円で、国産化した開発後、一つごとの橋栓のコストは 2 万円に削減され、合計コストの 90%以上が節約された。国際的なパイプラインから海上輸送、インフラ整備、掘削コスト、掘削・鉱山設備の開発に至るまで、数千億人民元、さらには何十億人民元の人民元に投資する必要がある、資源の開発するためかなりの代価を払った。

2：中国の農産物の輸入は、大豆のみ輸入するとほぼ同等と言える。中国の農産物の輸入は、総輸入の割合が約 4%しかないが、この中に大豆は半分である。

3：中国の産業全体の水準は、輸入工業製品から見る事ができる。輸入額が最も高いこれらの製品が中国は依然として国内生産を必要とし頑張るべきと言える。エネルギーを例にとると、中国のシェールガス採掘レベルと関連する鉱山設備技術は、米国と比べられないが、しかし、それは日本、ドイツより強く、PetroChina、Sinopec、CNOOC は全てハイテク企業であり、ペトロチャイナの研究開発投資額は年間 100 億元を超え、中国でもトップ 10 である。中国が完全に後退している領域では、すべてが国家戦略的支援を受けている。輸入高級工業製品トップ 10 の 3 つ：集積回路、液晶ディスプレイパネル、および「2 トン以上の空重量を持つ航空機」、それぞれの会社があり、達成するためにサポートする。例えば、近年の中国企業の開発成績は良くないが、中堅・高級工業製品のトップ 10 輸入工作機械は、2009 年に開始された国家主要科学技術プロジェクトの特別支援のために、中国の CNC 工作機械の全体的な技術水準は外国とは逆である。近くに引っ張られた状態。

4：上位 10 の輸入中およびハイエンド産業製品、種子選手が形成されている。米国では、2017 年 6 月に発行された「PharmExec」誌は、「PharmExec のトップ 50 企業 2017」のランキングを発表した。このランキングは、2016 年の主要製薬企業の売上データに基づいている。世界第 1 位の米国ファイザー社の医薬品売上高 459 億 6,000 万ドル、今年の為替レートによると、世界で 50 番目に大きい米国 Ferring Pharmaceuticals の売上高は 213400000000 ドルで、約 141 億元であった。そして、中国のどの会社も世界でトップ 50 に入った事は無い。多くの国内企業は既に世界のトップ 50 の製薬企業の門前に立っており、その大半は 20%から 30%の高い成長率を維持しており、3 年ごとに倍増している。その強さを決定する研究開発投資を例にとると、過去 3 年間（2015～

2017年)のBOEの研究開発投資額は33.19億元、41.39億元、67.7億元で2年間で110%増加し、技術的ギャップを継続的に狭めること発生中。

5:工業のアップグレードは長期的なもので、10年から20年にかけては必要とみられる。

歴史的な経験の角度から見れば、製造と下游のブランドが中国に集中しているため、一旦産業技術の突破ができれば、産業チェーンと超大規模製造の利点を生かす事に通し、中国の産業高度化が画期的なものになるのである。

進国の技術優位性は中国企業に対しての最大のメリットであり、大規模な産業クラスター製造、客の効率かつ迅速な対応、超大量生産、低コストの点では中国企業の利点なのである。中国企業は、中国の広大な市場に依存し、中国市場での大規模な生産を量から利益の実現をし、製品コストの大幅な削減の実現が出来る一步、海外輸出時に低コストの優位性を利用する同時に市場を獲得する。

中国企業との競争に直面して技術的優位性を失った欧米企業は、破産しているか、中国企業に買収されるか。このような話は毎日発生している。

こん回の自分でのデータ分析して見た結果、データサイエンスに興味を持つようになった、今データサイエンスが開設している強い大学院はフランスしか無いと調べた。そこに彼氏と一緒に学習しに行きたいと計画している。

対話相手

Carson Edmonds / 24歳 / 米国人 / 中日英仏独五カ語出来 / 専門 プログラミング

対話概要

それぞれが国際情勢の意見と見方を交換し、文化の違いと教育環境の違いによって、多少細かいところに合意できない以外、どんな立場で立って考えるのが問題発生の原因理解のキーポイント。

対話結果と結論

1. 問題を考える立場が全ての問題の性質が決める。例えば、Carson が自分中国政府側のならば、中国今の全ての今可笑しいだと思ふ現象が理解できるようになると言った。私が米
国政府の立場で考えれば、今の貿易戦の態度ももっともっと堅くしなければならないと考える。

2. 二十一世紀の石油と比喻されるデータは、まだまだあるべきの重視されてない。個人
レベルではこの波に乗れば、現実的に実用的に考えたら、キャリアであると経済的であると
有利になる。

授業感想

半学期の日本語授業を受ける事を通して、かなり日本語能力の向上が出来たと感じ
る。

2 クラス

担当 横野 さゆる

中国の農村教育における問題点の改善に

欧陽文静

1. きっかけ

去年の夏休み、私は中国に帰って、農村の小学校に行ったことがあった。それは今回の対話相手である友達が「私の職場に来てみない」と誘ったからだ。農村の学校の教学施設は都会よりよくないとわかっていたが、私が行ったその学校の環境は想像以上悪かった。学校の校長先生に聞いたところ、農村教育における経費は増加しつつあるが、多くの農村にはまだ普及していないため、まだ厳しい状態である。私が見た限り、危ない校舎は多く、椅子や机が不足、あっても古くて粗末で教室の中には黒板、机、椅子の他に何も無い（参考図書やオルガン、地図といった学習教材が何も無い）状態がほとんど状態だった。これを見た私は、ショックをうけた。なぜなら、私は通った学校の教学施設はよかったから。私は良好の学校で教育を受けることが当たり前のように思ったにもかかわらず、中国の農村部には、安心して学校に通えない学生がたくさんいる。

また、私はそこで子供たちとゲームしたり、教室に入って、教師たちの授業を見たりすることができた。子供たちは真面目で、教師も熱心に教わっていた。ただ、その中、一人の学生が泣いていたことを気づいた。授業後、担任の先生と一緒に彼に聞いたら、母親と祖母で育ててきた彼は、ずっと貧しい生活してきた。そして、彼の母親はその日、生計のため、都会に仕事しに行った。これから、祖母一人で彼を育てることになる。この事情を校長先生に報告したら、このような「留守児童」（両親と離れて暮らす16歳未満の子ども）は農村地域に少なくないと分かった。助けたいけど、一人二人の力は有限だと考えられる。

2. 研究の目的

この現状を見た私はこれを機に、私はそのような学生が、将来に希望を持てるような環境を作るため、中国の農村教育の問題について研究し、解決策を考えたいと思うようになった。

3. 現在の問題点

現時点で私が考えている中国の農村教育において主に三つの問題が存在している。一つ目は農村における経費問題である。農村教育の経費問題は現代中国の農村教育にとって積年の問題である。2010年7月29日に公布された「国家中長期教育改革・発展企画要綱（2010-2020年）」でも「国家財政から支出される教育経費の対GDP比を高める」を提出された。しかし、中国政府がこれまで支出された教育経費のうち、農村学校に投入された経費は都市学校によりはるかに少なかった。都市の学校と比べ、農村学校は教学施設や教材などのハード面と教員の総合的なレベルなどのソフト面の両方とも整っていないため、農村教育はかなり厳しい状況である。二つ目は農村地域の留守児童の増加。両親と離れ、年寄りの祖父祖母や親戚で育つ子供が多い。これにより、子どもの心身の成長発達に大きな影響を与える。それに、学校側との交流は難しくなっているため、子供の教育には困難である。三つ目は教員配分の不平衡である。現在多くの農村学校は学生人数と関係なく、同

じ人数の教員が配分されている。例えば、同じレベル農村の学校であっても、教員対生徒比は何倍の差もある。それによって、教員の仕事の量や教育の質も大きく変わるだろう。

したがって、現在の中国の農村教育における問題、どうすれば解決できるのを考えていきたい。そのため、今まで政府の対策はなぜうまくいかないのかも研究したいと考えている。

4. 対話相手について

今回、私は中国の農村教育の問題について、農村の小学校の教師にやっている友達に SNS で2時間をかけて話し合った。彼女は小さい頃、両親は農村の小学校で仕事していたため、農村で教育を受けた。「そのとき、学校の教学設備は非常に少なかったし、学生も少なかった。でも、そのときの自分はとても楽しく過ごしてきた」と彼女は言った。(ちなみに、今の勤めている農村の教学環境はもっとひどいと教えてくれた。) それに、そこでかわいい子供達に教えた両親の姿を見て、彼女は両親のようになりたいと決めたそうである。だから、彼女は大学時代勉強しながら、教師の資格をとった。そこで、大学を卒業して、農村の学校へ行き、国語を教えている。自分今やっている仕事はやり甲斐があると彼女は言っていた。

5. 対話内容

私は彼女と彼女が務めている学校及び中国の農村教育における問題について議論した。以下是对話内容である。(文体統一とわかりやすいため、話す内容を書き言葉に調整してある)

私:「中国の農村の学校と言ったら、多分多くの人は学校がボロボロで、教学施設も少ない、学生数も農村に務める教師も少ない印象を持つのではないか。それはなぜと思うの。」

彼女 : これは学校の教学環境の問題である。実は要因として、政府からの農村教育の投資は、多いと言えない、地方に届いたとしても、官僚に取られることがありうるため、まだ多くの農村に届かないと思っている。その結果、教学施設の問題は解決できず、教学環境は厳しい。一方、政府の資金を届けている学校には、教学施設の問題により、ある農村の学生が減少する現象があるため、学校の運行が問題になっている。そして、農村人口は都会に移行し、多くの農村学校は廃棄されている指摘もある。こういった農村学校は廃棄されていることで、都会の学校数は制限しているため、45人を入れるはずのクラス60人も超える現象がある。また、農村人口は都会の戸籍が持っていないため、当地の国公立学校に入りにくい、民間の学校しか教育を受けることがない現象も存在している。

私: そういえば、去年の夏休みに、君の学校に行っただしょう。その時の A 学生 (前文言及した泣いた子供) は今どうなっているの。農村はこのような留守児童の教育はどうしたらいいと思うか。やはり親の教育も重要ではないか。

彼女 : そうだね。今は農村の留守児童の増加も問題になっているよ。教育は双方性があると考えられる。それは家庭教育と学校教育である。その子のような学生は少なくはない。両親は生活に迫られて、都市に仕事をするため、自分の子供を家の老人や親戚に預けるこ

とが多い。多くの農村の人たちは文化や知識が不足しているため、学校の教育しか頼りできない。それに、子供の教育にあまり関心がないため、留守児童たちの教育も問題になっている。今私の職場では一つ面白そうな数式がある。それは、「 $5+2=0$ 」である。「5」は月曜日から金曜日の五日間を意味する。「2」は週末の二日間を意味する。説明すると、学校で五日間の教育を受けたのに、週末2日間家にいると、家族は子供の教育を重視せず、結局何も勉強しなかった。

私：やはり親は子供の教育をあまり重視してない面もあるよね。その意識を高めることも考えないといけないね。

彼女：そうだよ。私たちの力だけは全然足りないと思うよ。私自身も何人の親に相談したが、経済的問題があって、忙しい、子供の教育に関心の余裕があまりないと答えられた人が多かった。私は精一杯に教えようとしても、力が不足を感じるのだ。なぜならば、師資のアンバランスなのであるから。農村学校の数が多い。しかし、私たちのふるさとにより、政府の政策は農村の学校の学生数に合わせるのではなく、農村地域に同じ数量の教師を雇っている。学生が少ない学校、教師は対一になる可能性もある。そのため、やる気がなく、本気に教える教師が存在する。教育の質は悪化する。一方、学生数が多い学校、教師の仕事量は多く、ストレスを感じる。それに、農村教師は国家による補助があるけど、教学活動やイベント参加する機会がないため、本気に学生に教えたい教師たちは教学の質はなかなか高めない声もあった。私もそうだった。私は教師になって、年間ずっと、定められている職場を仕事していた。教師間の交流会に参加することや自分の尊敬している教師の授業のやり方を聞いたかった。しかし、チャンスはなかった。だから、私みたいな農村教師に対して、このようなチャンスを作るための政策を出してほしい。

6. 結論の見通し

これらは私と対話相手の話し結果である。これらの問題に解決するには、今の段階で大体の方向性を考えている。例えば、政府と家族と師資の面から考えたこと。まず、農村教育における資金はどのように農村地域に確実に届ける問題の改善法。また、留守児童に対して、教育の双方の協力と家庭面から、子供の教育を重視する意識。そして、農村教員の配分の不平衡問題により、教師の質を上げていくことの必要性と考えられる。

7. 今考えている改善策

私は自分現時点で思った問題と対話結果を考えた上で、国家財産に農村教育における経費の政策は難しいと思い、留守児童と教員配分のアンバランスの面から考えていきたいと思う。

まず、各自治体は各農村の状況（義務教育受けられる年齢の子供の数）を把握した上で、農村小中学校の分布を調整し、多くの小中高学校を合併する政策である。学生が近距離に通学できるように、学校の近くに人数に応じた寮を設置するのである。こうしたことで、師資も調整できる。交通不便地域で、寄宿しない学生が途中で退学する学生を防止するためには、必要な教学点を保留する。寮を設置することで、他の学生や先生との交流を増え

るため、親にあまり関心がない留守児童にとって、生活面や心理的にはいいことではないかと私は思っている。また、学校を合併することで、学生を集めて、教員の分布を調整し、教学しやすいのではないかと考えている。

それに、農村教育を振興するために、給与面で待遇改善も必要と考えている。中国では、農村教員の質と社会地位を引き上げの措置は不十分である。農村教員は独自の手当は保障提供する必要がある。農村は都市に比べ、経済面や利便性も劣っているため、農村教員は社会地位や待遇を恵まれない。また、同じ教員であろうとしても、農そ教員は教員である職業は憧れない。そのため、農村教員の積極性を引き上げるためには、政府は農村教員に対して、都市の教員より待遇を提供すべきだと考えている。それに、各地域では、農村教員と都会教員たちが定期的に交流会を行い、相互に教学上であった問題を相談し、解決方法を話し合う。そして、教学経験を交換しながら、教学の質を上げていく。また、月一回程度、都市と農村の教員は職場を変えて、相手の職場で教学する政策を考えている。違う立場や環境で教学する感想を交流会で話しあうようになる。

8. これから

私は偶然に農村の学校を訪ねることができ、農村教師である友人と議論したりすることで、中国の農村教育における問題を意識し、改善策を考えていた。考えながら、このレポートを書きながら、私は中国の農村教育問題は一つ大きな課題であって、すべての農村教育問題の改善を一緒にしてはいけなさと考えるようになった。

だから、今後私は農村の貧困さや人口を基づいて、農村のレベルを分けて、考えて生きたいと思っている。そして、農村の子供たちは普通に教育を受け、子供の笑顔を見せたいため、各農村の状況に適切である改善策を考えていきたい。

9. 授業の感想

最初は自分が研究したいことは全然わからなかったが、この授業でレポートを書きながら、だんだん自分が研究したいことを見つけるようになった。また、ほかのメンバーと話し合いながら、アドバイスももらうことで、私は研究したいことを明確になった。先生にも皆さんにも感謝している。

また、去年も 4000 字くらいのレポートを書いたが、それは一年をかけて完成したから、それほど難しくないと思った。今年は日本語の授業ではなく、ほかの授業も内容的には難しくなっていると感じた。時間をかけて工夫することが多いと思うようになった。

都市化におけるスラム街問題の研究

オンシン

- 初めに

「都市スラム街」は都市社会における病理現象の一種である。都市化の進展における必然に生じる問題でもある。

産業革命以降、就職や福祉医療・教育の機会が都市では集中し、より成功の可能性を求めやすいので、19世紀から、日本や欧米をはじめ、人々は生活の拠点が農村から都市へのシフトをし始めたのである。都市への移転によって都市部での人材の不足を補い、経済の活発化を実現された。しかし、それは都市化が持つ一面に過ぎない。都市へ移転による都市生活に不適應で、無職して収入がないため、生活が安定できない、貧困状況に落ち込んでしまうスラムバーと呼ばれる人々が数多く存在している。スラムバーらは都市に過密定着・集住によって、都市スラム街が形成したのである。

- 「都市スラム街」の問題意識：

「スラム」問題との出会いは「our lives: real slum dogs」というドキュメンタリーからだった。世界各地域で規模大きいのスラムを主題として、スラムの住民の生存状況の写実されたこのドキュメンタリーは高校時代の模擬国連活動で紹介されたものだった。中での一部の内容は都市スラム街の貧困の成因に関しての提示を含まれたので、これに対する問題意識が初めて出来たのである。社会病理現象のひとつとしての都市スラム街問題が、どこの国の都市化の進展中で必然的な問題である。こう言ったことを理解するうえに、自然に自分を生まれ育った中国のような途上国の実情を合わせる思いを頭の中で浮かんできた。なので、スラム街の成因の検討をして、教訓を得ることで、今の途中国に位置づけて同じ問題を起こさないような解決策を研究しようと思う。そして、既存のスラム街での状況がこの以上に再び悪化することを食い止めよう。

また、こういった問題意識がさらなる進めさせていたのは関学を出願した時だった。スラム街の解決策を総合政策学部の志望理由として選んで、関連知識について幅広く調べていた。やはり調べれば調べるほど、スラム街の問題に関わる幅が想像以上に広いと自分は認識していた。なぜかというと、スラム街は単なる貧困に関わって経済問題のみではなく、都市公共政策及び計画など、様々な問題を絡んで直面しなければならいためである。

都市化の進展に伴い、工業化が進む労働力需要が発生して農業に従事する労働者は農村部から都市へと流入するというのは何処の国の都市化の常態である。だが、今の途上国の都市部には人口に見合うだけの雇用が不十分で、国家による社会保障・福祉保障が充実とは言えないため、安定的収入を手に入れるのは一部の人しか満たされない。すると、規模大きいなスラム街が生まれ、都市化によって都市貧困問題は以前より深刻化になっているのである。

- 話し相手について：

対話対象は日本の東海大学の社会貧困問題を教える先生だった。うちの父の友達で気軽に会話でき、先生からもスラム問題に巡って様々な知識をいただき、本当にいい勉強になった。先生は訪問学者としてブラジルで滞在したことがあり、Rio や Sao Paulo のスラム街が集中するところで住民の生活状況について何度もリサーチを行ったので、今回はブラジルの都市スラム街問題を中心として話した。ブラジルの世界でも深刻化になったスラム問題の経験を検討して、途上国に啓示をもたらすことを啓発的に話し合った。

- 対話内容：

対話内容は主なる二つの部分に分けられている。まずは自らが疑問を抱える点をスラム街の成因として先生に伺い、そして先生はブラジルのスラム街の実情を合わせて中国を始めての途上国のことを質問された。対話の進行は以下の通り：

まず事前で調べたところは、国連人間居住計画の統計結果によれば、世界のスラム住民の数が 21 世紀の 10 億人から 2030 年には倍に増える恐れがあるということである。ここで、なぜ経済や福祉政策は激々完備していく国際社会でスラムの数が伸びていくのかということに対して非常に疑問を抱いていて、先生に聞いた。先生はブラジルで訪問した経験と実感できたものを紹介されながら、ブラジルのスラム形成原因を展開して話した。原因として以下の四つである。

- 1) 土地占有の不均一である。ブラジル国内の大量な土地は少数人で占有してほとんどの農民は大地主に支配される。農家が苦境を落ちてしまい、土地を持たない貧農になってしまうと、都市へ移転せざるを得ないので、再度に農村に戻ることができなく、

- 2) 就職難。国内の経済成長率が伸ばせないため、失業と就職難は問題である。すると、大量な労働者の就職先が不正規で、賃金と労働環境等の保証できずというのは都市部の貧困がよく存在する一因である。
- 3) 公共政策の不完備。例えば、教育は公共政策として重要な一部であり、貧困から脱出させる最も的手段でもある。しかし、ブラジルでの教育においての問題は、教育水準などのソフト面と言っても、教育施設のハード面と言っても大きな格差を生じることが、貧困からの脱出には障害となっている。
- 4) 都市計画の不均衡。最低限の賃金水準より低いのはブラジルのスラム住民の収入状況である。住宅の購入をできず、居場所できていない状態で、土地を不法占有して極貧層が居住する過密化したスラム街問題が発生する。ブラジルでの都市スラム街の説明を背景として、途上国の発展との類比によっての対話が始まった。

先生：「世界の途上国が自らの発展性格或いは特徴があって、今の中国はどうだろう」と先生は聞かれた。

私：「そうですねー、やはり中国がブラジルとの歴史的な背景は違って中国は別にブラジルのように昔の植民地や貴族等級などの社会意識がないと思います。中国は都市化や産業の移転はここまで僅か10年ぐらいで、しかし元々の人口数がすごく多いので、都市部の受容能力の限界があると思いますけど。」と返事した。

先生：「今のブラジルの話を聞いて、中国と違っていても、同じ部分あると思えないんじゃない」と突っ込まれた。

私：「すごく似ている問題点があると思って、特に都市部における就職難や公共計画を整えていないということは途上国ですごく目に立っていることだと思います。」

先生：「だよー、なので、ブラジルの都市化の経験から今中国のような途上国に啓示として色んなことあるはず。例えば公共政策、都市計画など、その中で特に都市部と農村部の二重構造という問題。二重構造ということは、経済学にもよく使われている言葉だ。社会学におけると、格差を意味する。つまり、都市部と農村部との間、産業、経済の発展によっていろんな面の格差を生じるということ。私は知っている限り、中国の場合は戸籍制度によって公共サービスを受ける差別がよく生じる。温さんが一番知っている中国を初め、途上諸国

のことを考えて、スラム街現状を改善だけじゃなくて、形成の予防意識をすべき」

私：「確かにブラジルの経験を生かせば、今の途上国に役にたつと思います。」

今回先生と話し合っって専門知識を踏まえて再検討していく必要があることを実感した。

● 対話の見通し：

世の中で「スラム」問題は貧困が要因として扱うことが多い。特に経済面に着目して経済策を中心とする研究者が多い。だが、今回の対話によって、スラム街の形成の原因は社会経済というこの一つの側面に止まるわけではなく、インフラストラクチャーという物理的な面にも計画されるべきである。そして、既存のスラム街に対しては、完全に撲滅することではなく、現状に立脚してスラム街をアップグレードすべきという考えもできた。スラム街の形成原因のアプローチを通じて、都市部、農村部という両方を同時に踏まえながら、ブラジルの都市スラム問題から見た失敗の経験を検討した上で啓発を考えて源からスラム街の形成を食い止めるということを決められた。

そして課題の取り込みとして、これからは上記の視点から出発し、2年生の段階で基本知識を備え、人に伝えるようなレベルを目指している。公共政策関わるゼミに入る予定があるので、やはり農村と都市の諸政策の格差をスラム街問題の切り口として絞って研究するつもりである、

● 授業感想：

一回生の時の日本語授業と異なる今学期の授業では、言葉だけを交わす伝える能力を養うことではなく、文章を通じてやりたいことを説明する切実性を求めるのは目的である。そして、それぞれの分野でのテーマの接触によって、自らの視野を広げてきたと気がする。特に、一つのテーマに絞り、課題の趣旨を伝えながら、論理的に説明するかどうか或いは納得させるように説明することをチャックすることができ、皆の考えを含めて自分が改めて見直していくと、より全面的に物事の把握能力を身につけられると思う。

今まで研究したいテーマの完成は、非常に啓発的な過程を経た。クラスメートから様々なアドバイスをもらって自分の問題を反省しながら改善していくことも感心していた。また、人によって物事の扱い方が異なり、見方が共通わけではない。そのため、専門あるいは同じく興味の方との交流が必要となっている。その方とのやり取りによって、自らによる肯定されたことの視野や考

え方を変化させられることではなく、むしろ、同じテーマに対する知識が身につけられ、視野を広げた上に、考え方が全面的になれると意味する。この意味から見ると、レポートは私の単なる自分が完成されたものではなく、みんなの知恵を含めて努力の結晶だった。

日本語授業のやり方と考え方を生かしてこれから三回生のゼミの準備を試みようと思っている。分岐点のあることを遭えば、話し合いを大切とする解決手段として生かしようと思っている。

今学期はお疲れ様でした。

中国のアフリカ進出からみた世界の経済戦略変化

アフリカの持続可能な成長に貢献するための進言

総合政策学部 2年 孫政勝

●チャイナ危機と中国による海外経済進出の必要性：

資本主義を発展させるために、常に新しいフロンティアを開拓し、そこから持続的に利益を上げなければならない。つまり、資本主義の経済というものは、自国である宗主国を中心に、周辺であるフロンティアを広げることによって、利潤を上げるシステムである。私は留学生という立場から、青年時代まで暮らしていた中国の社会と日本社会の間に、来日当初から、ある違和感（矛盾）を感じていた。それは、社会的に資本主義のはずである日本は中国以上に社会主義的な国であり、一方、中国はアメリカより格差社会になりつつあることを感じた。中国政府の二元政治は、国内に抱える様々な問題が解決してないにもかかわらず、経済発展していくことができたのは、14億人の人口と農業社会から工業社会への転換したことが上手く進めたからである。私は、ある意味で、70年代から始まった改革開放のタイミングが本当によかったと個人的に思う。しかし、2017年に入ってから中国国内では、国民生産総値がすでに飽和状態に達しているため、今後の中国経済は、現状を維持したままに、どう変換していくことによって、グローバリゼーションが進んでいる世界情勢の中で生き残れるかに関して、私に関心と懸念を持っている。中国の歴史を振り返ってみると、自然災害や人為的不況による農民一揆が起こるたびに、必ずと言っていいほど、国体が変わってしまう。中央政府が間違った政策（税金の取り扱いなど）によって国政が衰退してしまうという傾向が歴史上で繰り返している。さらに、中国では、地方と都市部の収入や教育資源による格差が全体的に広がっていて、港町、工業産業化している地域ほど高収入となっているため、内地にあるゴーストタウンと呼ばれるほぼ廃棄された市町村、中国全国あちこちで現れている。一方、農業でも、格差が広がっている。広大な国土を持つ中国では、意外と農作に適している土地の割合が低く、ほぼ内陸にある限られたエリアに集中している。しかも、経済による格差問題を理由に1970年以後、農家の減少が顕著に減少している。それに従って、今後の数十年間、地方と都市部による格差問題を解決しない限り、中国の経済がいずれ破綻するばかりでなく、天候不順など自然災害や、アメリカとの貿易戦争などによって、国自体が減ぶことにつながるような緊急事態も起こりうる可能性も十分あると私は予想する。それを避けるために、如何に中国が国内社会の安定を支える食糧や工業社会をサポートする自然資源の確保と国内に過剰した人的労働力を海外に輸出させることが今後の課題となる。

●国内の現状からみた中国の野望：

アジアの巨人である中国はこの10年間、世界の工場と莫大な市場規模を背景に、凄まじいスピードで成長してきた。しかし、その裏には、貧富による格差問題、環境の汚染問題、官僚の腐敗、少数

民族による独立紛争、超高齢少子化による福祉問題など、現体制内では到底解決できない問題も数多く残っている。一党政権であるが故に、それらの諸問題は根本的には解決できないと私は思う。今後の中国にとって、内部紛争を避ける最も有効な手段は、中国国内で作った安価な、大量な商品を世界中に投げ売りすることだと私は考える。国内の雇用を大量に作り出すことで、社会の安定を図ることができるからだ。そのため、新しい市場を探す必要性が迫られ、完全なる資本主義的な社会に変換しなければならないと私は考えている。

中国のアフリカ進出はまさにその一環として、いま世界中に注目されている。自国を中心とした経済圏の確立に向け、「一带一路」の構想を推進しようとしている。その構想が実現できれば、国内だけでなく、世界における中国の影響力もさらに拡大すると予想されている。この「一带一路」の構想で重要な役割を果たすことになるアフリカでも、中国側が巨額の投資を行っている。一方、対照的に、高度成長期が終え、外国での影響力が年々縮小していく日本が危機感を募らせているというニュースが国民に伝えられた。

●アフリカ開発と中国の狙い：

アフリカ投資に関し、専門知識がどうしても必要になってくるので、相手を見つけるまで、随分苦労していた。今回対話相手として選んでいたのは、長年父親の友人で、ある大手商社のアフリカエリア責任者であるA氏だった。A先生も20年以上アフリカに住んでいまして、2016年に開かれた第6回アフリカ開発会議に招かれたアフリカ投資における日本側のベテランである。まず、中国勢について、2000年に入ってからアフリカでの中国企業の存在感が増えている。現在、中国系企業がアフリカの色々な国に進出し、主に水力発電、道路建設と言ったインフラ整備に従事している。たとえコンゴ共和国で、インフラ整備をサポートする形で中国系企業が参入し、早いスピードで農業と医療などをも行っている。中国企業の特徴として、コストはそれほど高くなく、それなりの技術を持っているため、日本や欧米に比べ、競争力（需要性）が高いとA先生との会話によって、はじめて知った。また、ほとんど国営企業であるため、中国の国策に沿った形で中国政府と連携を取りながら、開発投資を行っていくため、現地での利益を上げやすい。その結果、アフリカ諸国は中国にインフラ整備や人材の育成を要請し、その代わりに、中国は必要とする自然資源（鉱石と石油など）を得て、本国に賄っている。また、国内では人的市場が既に飽和状態になった中国側も、そういった人々を海外へ送り出している。中国政府にとってのアフリカ進出は、資源の獲得と雇用創出を両立できる絶好のチャンスになっていることもA氏との会話でわかった。

一方、ODA援助が高い評価されているにもかかわらず、日本の海外への援助額が年々減少していることも会話によってわかった。その原因の一つとして、ODAの拡大を求めない国民世論にある。今後の日本政府も支援の原則として、日本国の経済や外交に貢献できるような項目に集約する形で、官民連携によって事業展開していくことにシフトするだろうとA先生が話した。また、日本外務省がケニアで実施した世論調査で、約5割の住民が中国を支持していることに対し、日本はわずか1割しかなかった。中国が巨額の資本を武器にアフリカでの経済進出による信頼度の向上に影響があるとみられる。ただ、中国はインフラ整備などの工事で本土から大量の労働者を送ってきたため、現地の雇用

にまったくつながらないといったことや、現地のモラル低下につながったことも問題視されている。

●選挙からみた米中覇権争い：

2016年にトランプ氏がアメリカ大統領に当選したことをきっかけに、アメリカの対外政策が大きく変わった。一方、2018年の中国でも、習近平氏が国家主席の任期を廃止する憲法を改正させ、自らの力と権威を一層示した。米国はアメリカファースト主義を取ることによって、東アジアのみならず、アフリカでも、いままで築いた世界の構成勢力のバランスが崩れ始めたと言える。国際的地位の向上を求める新しい帝国主義を代表とする中国とアメリカを中心とした自由資本主義陣営の間では既に激しい貿易戦争が始まっている。

●アフリカ開発の問題点と解決：

2000年に入ってから、新しい世界の秩序を巡って、米中の中で起こっている争いがますますエスカレートしていく最中に、如何に自分の国民を守りながら、主権国家として生き抜くことが、今後アフリカ諸国にとって、最大の課題になると私は考える。中国寄りではなく、アメリカ寄りでもない中立的な立場を貫く、つまり米中両陣営を上手く渡り合うことで、最善策を模索していくことが賢明であると言いたい。

また、アフリカ進出は、確かに開発面から高い伸び率が期待されているが、整備しなくてはいけない問題点もたくさんある。まず、電力、農業や道路整備などと言ったインフラの未整備所が数多く残っている。それらを開発するために莫大な資金が必要である。政情の不安定性も大きなリスクである。内戦が絶えないアフリカでは、まだまだ政治的なリスクが潜在している。それに、アフリカの現地政府が自国の経済政策を昔の欧米従属関係から中国資金優先政策に切り替えたとしても、資源で製品と交換するような旧植民地的な構造を根本から変えたことにならないと私は考える。国民の生活基準を上げるために、先進国のみならず、インドや南米諸国のような新興国をも招き入れ、技術移転などで中長期的な開発戦略を立案し、自身が持っていた優勢である自然資源を武器に社会の構造を変えるようなブームを積極的に、自発的に起こすことで、いままでの相手に利用されただけの立場から主導権を握ることによって国益を最大化に変えることも重要だと思う。しかし、豊富な資金源と膨大な人口市場を後ろ盾に、本格的にアメリカを取って代わろうとしている新興中国が、ヨーロッパ、アフリカを巻き込んで、人民元を中心とした新しい国際的金融秩序を積極的に作ろうとしていることも事実である。今後世界の覇権をめぐる、米中両国がアジア、ヨーロッパに限らず、アフリカでも激しい利権争いを行っていくと私は予想している。アフリカ諸国は、小国でありながら、外交的に中国とアメリカの勢力陣営図に入らず、結果主義的な、利益重視的な中立の立場を取ることこそ、米中の間をうまく泳ぎ回るためのカギであると私の結論である。

文字数：3922

日本語 2 クラス半年間の感想文

総合政策学部 2 年 孫政勝

半年間はあっという間に終わりました。一年生頃と違って、会計士の授業も始まったので、日々結構忙しいですが、日本語クラスの先生と友達がいつも励ましてくれたことに感謝しています。

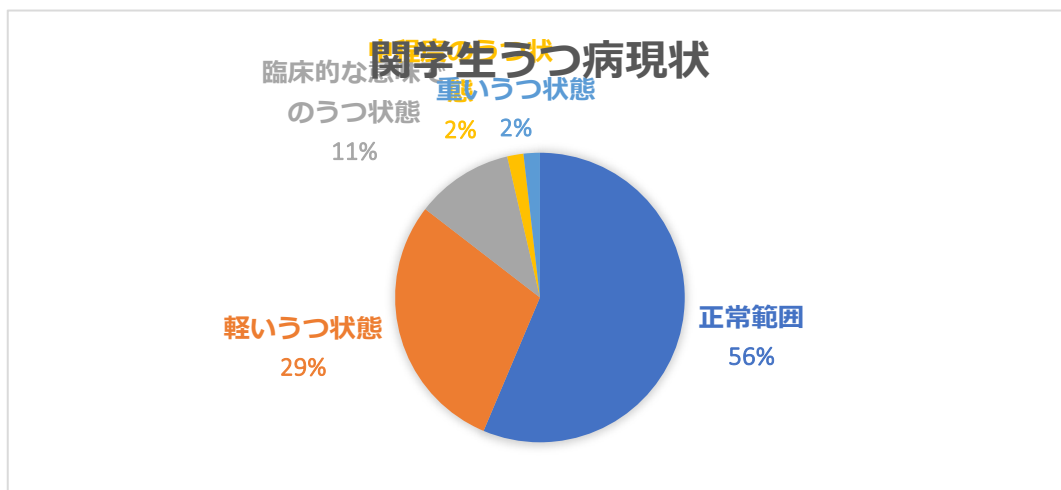
世界中では、いまだに貧困問題や差別問題を完全に解決したとは言えない最中に、私はこの世界をもっと良くするために、健全な経済活動が必要であると感じています。米中による貿易戦争が既に始まっていますが、それも、最終的に自国の経済（自国の影響力）がよくなるための一環として、勝負が付くまで、必要不可欠なプロセスであると思います。アジア経済の成長もこの争いに巻き込まれる恐れがある。日本社会の不安定さも今後ますます増えていくと私は考える。10 年ほど前の就職氷河期を思い出した。身近の幸せとは社会的に経済が豊かになることではないでしょうか。リーマンショックのような世界規模の金融危機を回避させたいという気持ちで、自分はいまここにいる。関学生として、公認会計士として、将来、アジア問題を研究し、経済戦略参謀を目指している。

長文で申し訳ないです。以上、私の半年間の感想であります。

私は心理学に対して興味を持っている理由いくつかがある。その一はで言うのは中国の子供たちの学習環境である、中国の子供たちは、高圧的な環境の下に育てら、小学校から高校まですべて基本的に大学受験テストのために勉強し続けている、その環境の下、学校の先生や、保護者などは、子供の考え方や、感情を、あまり重視していない。そのため、子供たちはいつも自分の感情を表わさず、いつの間にかそれが病気になった、自虐傾向が現れる。そしてその結果青少年の自殺率はどんどん増えている。だから、心理学の普及と教育はすごく重要なことである。

2つ目は、現在の社会の高圧的な環境の下、今私たちの周りには、意外と鬱病にかかる人は多くいるが、これはどうやって判別するのか、正直いうとこれは極めて困難な事である。人の考え方はそれぞれなので、鬱病にかかる症状も違う。ある人は、すぐに消極的な状態を表し、精神状態も悪化することが明らかに分かる、こうタイプの人に対しすぐに医者に診断する事は可能である。しかし、一番恐ろしいのは、表面から見ると、精神の方面から見ると、健常者と全く区別できない人で、そういう状況の場合だとすると、よほどの心理学の専門家が周りにいないと見つけることは困難である。

実際にこれはあった事ですが、中学時代、クラスの中ではすごく仲がいい友人がいました。その友人はとても外向的な性格で、友達の間でも人望があり、じつに朗らかな人だと思われていました。しかし後で考えたら、完全にそのような人ではありませでした、あれは2013年12月11日の夜の事である。夜中に突然電話がかかって来ました、友人からの電話である。ちょうどその時私はゲームを遊んでいたもので、あまり彼の様子を気にせず、簡単に雑談しただけで、電話を切りました。しかしその翌日、友人のSNSを見ると、非常に長い文章をホームページに書かれていました。最初からおかしいと思ったが、その後凶報が来ましたが、あの友人は昨日夜自殺したメッセージ。その時私はふっと思いました。昨日友人が電話を掛かできた意味がよくわかりました、あれは多分、救いを求めていたかもしれません、もしかしたらその時、私が友人の異常な行為に気がついていたら、そんな惨劇にはなられなかったかもしれません。もしそのとき、ゲームに集中するのではなく、もっと友人の事を考えたら、自殺する地に落ちないかもしれません。もしそのとき、心理学の知識を備わっていたなら、この異常の状況を感じることが出来ます。これによって、友人が救えるのだから？私はそう思いました。このような悲劇によって、私は心理学の重要性をわかりましたである。



これとともに、私は去年にも学校中にアンケートを取って、大学全体のうつ病の割合について調べたのである。この図から見ると正常範囲の学生は56パーセント、残る40パーセントのなかには、15パーセントの人はうつ病がかかっていることであるし、なぜそんなにうつ病の患者数が多いのか？学生はなぜうつという病気になるのでしょうか。これも近年大幅に増加するうつ病の上昇率に関連する

今回は話し相手とともに、学生のうつ病が多発現状について話したいと思っている。今回私が選んだ話し相手は中学時代からネットで知り合った友達である。とりあえずCさんという名前をつける。この人は大学時代から心理学特に社会心理学についての専門家である。今では中国科学院で博士をとっている。そしてこの人の指導先生は中国の有名な社会心理学の専門家であり、この関係を通じて。私は冬休みと夏休みみのときはよくCさんの研究室へいくことである。そして、当然研究室の先生にも私のこと知りました。そして特に心理学という研究はよくアンケートを回収する、そのきっかけで、私は中国の心理学についての資料はいつも手元に置いているから、これは貴重なことである。当時では、私も心理学を勉強しようと思っていたけれども、最終的に落ちた時、私は非常に心痛かった。しかし研究室の先生とCさんは私を励ました。だから、今回の話し相手は友人のCさんである。今回は主にうつ病の問題について、特に中国人大学生の現状について話したいと思っている。

次から対話内容についてまとめたいと思っている。この対話の時間は深夜の3時から朝の6時までの時間に行った。会話の途中ではいろんな冗談も含まれている。これらを消してまとめたものを作成しました。

私：近年では、中国の大学生の自殺率が年々増えるのが本当なのではないでしょうか？それと近年では大学生の心理問題によって、学校中にいろんな事件が起こったのが世間で一般的に知られている、例として（2013年4月復旦大学投毒案）をあげた。これらの事件を多発するにはCさんはどう思いますか？

Cさん：現在大学生の思想教育を反映したこれらの流血事件は、我々は単純にすべてが学生の問題と認識するのではなく、これらの事が発生する根本は教育や社会問題を含む複雑な物である。まず、上記の例では、これらの学生は、同じ寮の友達の一部小さな紛争によって、自分がコントロールできず、理性を持って考えていない、そして最終的に自分自身を傷つけるだけでなく、他の人にとって災害につながる。私たちは学生の人生観、世界観、価値観を正しく理解し、常に楽観的な態度を維持し、人生における挫折と不幸を直面させましょう。自分自身の能力を成長させ、謙虚さ、忍耐、寛容、信頼などを学び、個人的な栽培に注意を払うのがポイントである。2つ目は、学校の観点からには、大学生のイデオロギー、政治的教育をさらに強化し、地理的要因、学年の違い、家族の性格や性別特性、全面的なカウンセリングと個別のカウンセリングの組み合わせに注意を払う必要がある。家庭教育と組み合わせることで、社会や学生の変化に対応したカウンセリングにも注意を払う必要がある。最後に、社会的な視点から見れば、今の家族内に一人っ子が多く、家族や社会は一般的に高い期待を持っている。教育方法の違いは大きいので子供に対する圧力も強くなり。その影響は、大学生が極端の方向へ導くことになる。

私：今の大学生は大体どのような心理問題があるのでしょうか？

Cさん：大学生の心理的健康に影響を及ぼす多くの要素があり、主に大学生入学、新学期の混乱、恋愛の悩み、対人関係における矛盾、雇用圧力などの心理的問題に反映されている。

私：学校は学生の精神的健康のためにどのような具体的な措置をしましたのか？

Cさん：学校方面では、大学では大学生の精神保健教育カリキュラムを設置しています。学生相談所ではカウンセリングルームを開設し、専門カウンセラーを雇い、ガイドとしての役割を果たしました。現在の作業成果から判断すると、上記の学生のメンタルヘルス教育は良い結果を達成しています。もちろん、学生のメンタルヘルスカウンセリングは固定されておらず、時代の変化や学生の変化に合わせてなければなりません。

私：あなたたち発表されたデータから見ると北京の大学生のうつ病の有病率は23.66%に達し、深刻な心理的問題を抱える学部生の割合は年々上昇傾向にあり。北京の16の大学が実施した調査によると、精神疾患のために学校を中退した人は、学生の総数の37.9%に含まれている、これについてあなたはと思いますか？

Cさん：あなたが思う大学生が「深刻な問題」を感じる理由は、大学生という集団は人々に注目されているということである。人々の見解では、大学生には問題はないはずで、自殺率でグループ団体の心理健康を策定するのが間違っていることである。私が知る限り、大学生の自殺率は、110万人のうち2人の間で、普通の人の23%よりはるかに低く、同じ年齢の他のグループのうちよりも低い。だから単純に報道されるのが、単純に注目度が高いだけである、数字が高いですけど、実際の自殺率はそんなに高いではない。

私：そういえば、医者自身が自分を救えないという言葉は必ずきいたことがあると思う、これであなた自身にとってほんどですか？あなたが心理学を勉強した以来、自分自身が心理问题と
かあるのでしょうか？

Cさん：そうですね、これはたぶん本当と思う。心理学を勉強した以来、複数の患者を見て患者の気持ちは一体どのように思っているのか、実際というと私のよくわからない、しかし2年前私もうつ病になった。あの時進学の問題考えて彼女と別れた。あれ以来半年毎日屍のように歩いているのが今でもきちんと覚えている。最悪の時は1ヶ月どこでもいかずずっと家に寝ていた、ほんとにお笑いの話ですけどだと医者だとしても自分がうつ病にかかる時は自分では絶対救えない。最後は私自身が学校の診療内科行って治療しに行きました。心療内科へ行くのが決して恥ずかしいことではない。行かないほうが自分にとってよほど辛いと思います。でもね、薬の効果はやはり1番重要だと思う。

私：なるほど、いろいろ勉強になりましたほんとにありがとうございます。これほどにレポートの制作のために本当に役に立ちました。夏休みの時北京に帰ったらご飯おごるわ！

Cさん：何か質問があったらいつでも私に相談してくれ、最近結構暇ですから。ではレポート作成した後、私もぜひ見てみたいな。

対話についてはここで終わる、次は全文の見通しをまとめたいと思っている。今回私は主に大学生の現状や問題について質問しましたである、それとCさんの答えもきちんと説明したと思っている。この後では私は研究したいのは、日本の学生は、あるいは日本の学生グループ団体はどのようになっているのか研究したいと思っている。中国との関連性とかあるのでしょうか？同じ所違うところ必ずあると思う。学生の心理教育研究の分野は、心理教育は心理カウンセリングに限らず、大学生の学習、生活、仕事のあらゆる面で実施されるべきである。大学生の精神上的問題は、研究、生活、仕事、に反映されているため、心理カウンセリングや授業教育に限らず、学生の学習にも適用する必要がある。このようにして、私たちは大学生の心理的な質を向上させるという目標を達成することができるかもしれませ。したがって、大学生の心理的健康教育に関する研究では、心理学研究の最新成果から学び、一般心理学、教育心理学、社会心理学などの最新の研究成果を組み合わせるべきである。その成果は、大学生の健康教育の研究に統合されている。これらの新しい成果への言及は、大学生の心理的健康の研究において非常に重要な役割を果たす。

最終的にこの授業について、私はまた非常に有意義な春学期を過ごせましたである。今学期の授業にも去年と違いいろんな勉強ができましたである。特に1年生の時みんながよく言われたのは、あんたが描いてるものが読み辛い、もう少しわかりやすく書いてもらえますか？などの話はよくありました。しかし今学期では私は一般面から私が研究したいものについて説明しませんでした。これによって今学期のレポートは去年に比べるとよい評価をもらいました。

それと今学期もまた別のクラスのクラスメートも仲良くなりました。また明日きのとき一緒に勉強しましょう！

1. はじめに

私は大学で環境について勉強したい。環境分野とは言え、私は最先端に立つ技術開発者になりたいわけではなく、あくまでも環境と関わる技術、制度、経済などについて「広く浅く」勉強するつもりである、そして将来、日本で就職し、現場で経験を積んでから起業するつもりである。

2. 動機

私は日本に来たこの二年間、故郷であちこち建築計画があったので新しい住宅がたくさん現れた。町のことを考えると、たくさん住宅ができたことで、新しい人たちが入ってくることは悪いことではない。むしろ経済的に有利だと私は考えていた。それに、住んでいる地域は少しずつ発展していることも普通に考えると実に素晴らしいことであろう。しかし、ある日の夜、私は親との散歩中、口の中からが変な感じがした。その後、時々軽い喘息症状まで出てきた。調べたところ、原因は $\text{pm}2.5$ であった。そして私は環境問題と経済発展の関係について関心を持つようになった。

3. 中国の現状

中国は今特に問題視されている環境問題は大気汚染、水質汚染、ゴミ問題、この三つである。

● 大気汚染

大気汚染は今中国最大の環境問題だと言われている。その種類はたくさんがある、例えばフロン類などによるオゾン層の破壊、温室効果ガスによる地球温暖化、そして近年、新聞記事に挙げられてきた $\text{PM}2.5$ 、特に $\text{pm}2.5$ の場合、体に侵害する時間が遅く、気づいた時に既にひどい状況になっているケースが多い。統計データによると中国で毎日4000人ほど $\text{pm}2.5$ によって死亡する。そして大勢の人が心臓病、肺がん、喘息などを患っている。今の中国政府はこの状況を認識し、改善するためにいろいろ工夫したが、明らかな改善は見られなかった。

● 水質汚染

中国は世界で一人当たりの水資源の最も少ない13国の一員にもかかわらず、七つの水源の中42%はもう汚染していた、それに加え、その汚染の根源は未だに解決していない。確かに水質問題は現時点ではそんなに深刻ではないけど、これからの数十年どうなるか、水質汚染の問題は他の国もあるが、世界で人口が一番多い国の中国にはなおさら解決しなければならない課題である。

● ゴミ問題

中国ではほとんどの地域にゴミ分別のルールはない、だから、処理するときすごく問題となってくる。結局、毎年正規の手段に沿って処理できたゴミは全体の10%しかなかった。そして、残された90%の中、一部は焼却、湖に捨てる、穴を掘って埋めるなど環境を汚染するような違法的な手段で処理される。もう一部は全然処理しない、そのまま積み上げて、最後ゴミの山となる。実際、中国でいくつかの地域の村の近くにゴミの山が存在するというようなことは何回も新聞記事に取り上げた。

こうなってしまったのは経済と環境のバランスが崩れたからと思う。私たちの日常を支えている生産業や農業や工業には、健全な環境があってこそ成り立っている。よって環境

汚染により、経済活動はもちろん、深刻な場合は人間が生きにくく環境になってしまうかもしれない。だから、その現状を少しでも改善するためにも、私は環境保全と関わる仕事をしたい。

4. 今の考え

環境は確かにすごく大事なことであるが、だからといって国の発展を止めるわけには行かない。20世紀、今の先進国たち、汚染による環境破壊はひどかったので、空気、水、土地の汚染防止技術、省エネ化技術などが開発された。それでも21世紀になった今も、様々な環境問題が存在している。先進国の皆さんは環境問題に関して改善できるものは着々と改善しているが、発展途中国では今でも無茶な開発をしている。例えば中国みたいな発展途上国は未だに環境対策が遅れている国が多い、このような国では経済が成長すればするほど環境技術が必要になる。こうすれば環境ビジネス市場の門が確実に開くであろう。

5. 将来のため

環境をよくするためには21世紀のポイントは環境保全ための商品であると私は考える。例えば今中国の現状に対し、改善できる技術は少なくない。大気汚染も、水質汚染も、ゴミ問題も現代の技術では改善できるはずであるが、国は高度な技術を持っていないことや制度面の抜け穴があることなどによってなかなか改善できない。何より、国民は普通に暮らしているので、事態の深刻さは全然理解できていない。環境にやさしい製品よりも安い商品を選ぶ。今はそうだけど、十数年後の多くの人は事態を認識できるであろう。そのため、私にとっての商品は技術的なものでもいいし（高度な環境技術あるいは製品化したものの自動車、家電など）、ただ宣伝だけのものでもいい（環境問題を宣伝するための文化、観光商品など）。

実際、日本のエコシステムという会社は江蘇省蘇州市の政府系企業と合弁し、中国の土地汚染に対し調査・コンサルティング・行政対応から浄化までの総合的なサービスを提供した。また、環境機器メーカーの荏原製作所も、中国で浄水・廃水処理、ゴミ処理の環境ビジネスを展開し、廃棄物焼却所や汚水処理場の建設などで実績を上げている。このような環境先進国と発展途上国の企業の間で行うビジネスは今後ますます増えると私は考える。

だから、将来のために、今の私にできることは大学で環境について全般的に勉強することである。そのあと、現場で経験を積んでから起業し、環境知識を使った経済活動をする。

6. 対話の相手

相手はセブンイレブンのオーナーである。彼は昔、コンビニの正社員になったことがある。そして、結婚後、ほかの会社（プライベートの話なので）で就職し、定年まで働いた。その後、妻（店長）とコンビニをやり始めた。彼を選んだ理由、彼は環境問題に関心があるかどうかではなく、彼の人生経験である。彼はバブル時代の人間で、たとえ環境問題に関心がなくても、20世紀の日本は企業公害がひどかった故に、ずっと会社で働いたサラリーマンとして彼は環境問題について何も知らないわけがないと、私が判断した。

話の内容

● 環境について

セブンイレブンは今環境への取り組みはどんなことがあるかについて私は単刀直入に彼に聞いた。彼が言った内容はすべてが新時代の技術とも言えるものであった。まずレジ

袋は以前より薄くなった、同じ原材料なら今ではもっと多い袋を作れる、それに丈夫さも保証できる。弁当の包装も同じ原理で、薄くなったゆえ、原材料の使用量は以前より減った。また、販売期限切れ商品を加工し、動物の餌にする。店の照明全部 LED 化。あと、物流に使っている車、今は全部ではないが、とりあえず環境にやさしい車両があるということを確認した。他にも店で販売している商品、実は環境のために色々工夫している。彼は今セブンイレブンで行なっている環境への取り組みについてたくさん喋った。口が止まらないほどに私に店の状況を伝えていた。そして昔話として彼の昔の勤めた会社状況も私に教えた。以前の会社は環境保全のために、何度も議論したことがあった。特に地球温暖化の防止について、会社側たくさんの対策を実行した。例えば、CO2 の排出量を減少するために、作業用の設備の更新や使用している燃料の転換など色々あった。話を聞いた限り、彼も環境問題についてかなり関心を持っているような感じであった。

● 経済活動について

定年したのに、なぜわざわざコンビニをやり始めたのか、普通ならば定年したあと楽しく余生を過ごすのではないかと、私はこんな問題が失礼だと承知した上であえて彼に聞いた。

もらった返事は普通であった。「なりゆき」という言葉で形容すべきであろう。対話の中で私は感じたものは起業への熱意ではなく、唯唯のなりゆきであった。普通に結婚し、普通に働き、普通に定年し、暇なので普通にコンビニをやり始めた。コンビニの場所は以前はローソンであった、ローソンは経営が悪いためつぶれた、そのあと、彼がその場所でセブンイレブンをやり始めた。

次に、私は冗談みたいな口調で彼に失敗を恐れないかと聞いた。

失敗を恐れたら、最初からやらないよと彼は白いロッカーを開けながら笑って私の質問に対して答えた。そしてロッカーから取り出したものは、神戸市セブンイレブン売上額二位の賞杯であった。同じ場所で以前のローソンは倒れるほど売り上げが低かったのに、つい「すごい」と私は口にした。

最後オーナーから収穫した成功の種は運勢と先見の明であった。もちろん、努力や経営者としての素質も大事だけど、しかし、時代の運こそが一番人を作る。オーナーの場合は自分がやり始めたあと、周囲地域に複数の高層マンションができたからであった。

そして私は思う、「先見の明」とは、将来の事柄について見通す力や見識の力量などを意味することである。しかし、常識から考えるとこの力を持っている人はごく稀でしかない。しかし、この世で起業によって成功する人は別に少なくないだろう。ならば成功するために確実な方法はやはり努力と運勢であると私は思った。努力して顧客やビジネス相手の心理を理解し、チャンスが来たら、逃がさないようにつかむ。これこそが成功の基本だと、オーナーさんと話してこう思うようになった。

7. 対話の見通し

オーナーと話して分かったことは昔から日本のたくさんの企業はすでに環境に配慮していることである。まるで当たり前のようにそれぞれの企業モデルに合わせた対策を作られている。それはすごいと思う、もし中国の企業もこんな環境保全の意識があったら、どれだけいいことか。今の中国は少しずつ環境政策を改善しているが、つまり厳格化しているが、日本ぐらいまでには多分何十年の必要があると私は考える。今から十数年、卒業後の私は環境と関わる企業に就職し、そしていつか起業するつもりであったが、オーナーの話聞いて、ある方向を決めて努力し、焦らずにそのまま「なりゆき」を見守ることも重要だと思うようになった。

8. 授業の感想

この授業を受けてよかった点は異なった意見を多く聞けたことである。そして授業を受けるうちに、曖昧だった自分のやりたいことはどんどん見えてくる。実現できるかどうかは分からないけど、大学生のうちに自分のやりたいことを実現させるよう考えるのはもう成長と言えらると思う。ただ、今回のレポートは自分のやりたいことの実現方法について特に要求されていない、なので、ただ私の考えすぎかもしれない。また、レポートを書くために独自の調べによって学んだことが多い、その中に多くは今まで知らなかったことである。対話の相手との交流中に凄く役に立った。

1人メディアの展望

ハンゴンホ

現代社会ではメディアはなくてはならない存在として扱われるようになった。そして、消費者のメディア利用形態の変化によって「1人メディア」が流行り、1人メディア産業が注目を受けている。自分が直接制作した動画を積極的に流通する「1人メディアクリエイター」そして彼らを管理する企業のMCN産業の登場など、私は今、新しく、注目を受けている「1人メディア」産業の展望と1人メディアを活用したマーケティングについて研究したい。

まず、「1人メディア」とは個人が多様なコンテンツを生産および共有するコミュニケーションプラットフォームで、新しい形態のコミュニケーションである。代表的にYoutube、TwitchTV、FaceBook、Twitterなどすべて1人メディアに属するものである。この1人メディアは既存の一方的な伝統メディアと違って、双方向性と相互作用が大きくなり、特に実時間にコミュニケーションができ、情報の共有と拡散が早い特徴を持っている。

私がこの「1人メディア」について興味を持ったきっかけは単純に娯楽と思った1人メディアが「Asia Model Awards」というところから、世界でクリエイターという職業が認められたからである。「Asia Model Awards」とはアジア最大のモデル祭りで、有名なブランドのファッションショー、ビューティーショー、K-POP講演など、華麗なパフォーマンスやアジア最高のトップモデルだけではなく、俳優、歌手とファッション、ビューティー関連の産業が参加し話し合えるアジア最大規模のエンタテインメント祭りである。そこから、はじめてクリエイターという職業が認められ、有名人の間で賞を受ける姿を見て、“一人メディアがすごく影響をもつようになったな”と思い興味をもつようになった。そしてこのような「1人メディア」を利用した産業の登場やマーケティング、広告にも利用することを見て、どうしたら「1人メディア」をもっとうまく活用できるか興味が生じた。1人メディアは双方向インターネットの大衆化とスマート機器の誕生。また、インターネットをどうして簡単に動画をアップロードし、これを他人と共有することができるYoutubeなどのサービスの拡大と技術的要素も簡単に学べるようになった背景から、1人クリエイターの市場希望が広くなりつつ、動画の制作支援と配給を担当する新しい産業分野MCN (Multi Channel Networks) の登場で大きな影響を与えるようになった。MCNとは多様なチャンネルから収益を創出する意味で、多重チャンネルネットワークで、クリエイターの放送政策を支援し、広告を受注し、収益を配分する形態として、芸能人が所属社で活動する概念と似たものである。市

場調査企業ZenithOptimediaによると全世界のインターネット動画広告市場規模が162億ドルで前年比較29%を増えると予想し、今後にも20%ぐらい成長する可能性があるとした。また、1人メディアを活用したマーケティングの実例として「はじめ社長」というクリエイターが自分が出たアプリを紹介した後、そのアプリは全体2位、翌日全体1位を達成するほど、大きな人気であった。また、実際にテレビ番組のホームショッピングでしか広告をしなかったある企業が「1人メディア」を活用して広告をした結果、前年度と比べて売上が30%ほど増えた成功例もある。

このように最近ではTV媒体の利用時間の減少しつつ、デジタルメディアの利用時間は増加していることから多くの企業はデジタルメディアに投資している。このように今のMCN産業は世間に注目をうけている。私はこのMCN産業の可能性を高く評価している。将来にはもっと大衆化し、年齢関係なく、テレビのようにほとんどの人々が「1人メディア」に興味をもつようになると思っている。それで、私は将来にこのMCN産業をつうじて1人メディアを活用したマーケティングとその関係をつなげるマネジメントの力を身につけたい。また、この1人メディアが今後、どのように成長するか展望について研究したい。

また、私が1人メディアの対話相手として選んだ人物は私の妹である。私の妹は今中国で言語と美容の勉強をしていて、このようなメディアについての知識は少ないかも知れないが、私と同じに1人メディアに興味が多く、普段からライブやコンテンツをよく見るからである。私は妹と1人メディアについて様々な話をして、今まで知らなかった1人メディアの力についてももう一度知るようになったと思っている。私はまず、妹に「1人メディアの意味知っている？」と聞いた。なぜなら「1人メディア」という言葉はライブや放送と同じものだが「1人メディア」という言葉はあまり使わないので知らないこともあると思った。しかし、「当たり前だろう？」という妹の返事に「あ、そう」と話したが、相手を間違っていないと思い、少し、安心した。

そこから私と妹は本格的に1人メディアについて話し合った。最初に私が聞いたかったのは妹が「1人メディア」についてどのように考えているかだった。妹は「1人メディアは革命だ！」と言って私はびっくりした。その理由を聞いたら、今の時代で、1人メディアみたいなものがないのである。現代社会はテレビより、スマートフォンやPCをより多く使い、テレビより信用でき、自由で、どこでも楽しめることができると言った。そしてこの1人メディアの長所について話した時出たものが、韓国で2107年にあった大統領弾劾事件だった。他の言葉では「ろうそくデモ」と言って、全世界から注目を受けた事件であった。何で1人メディアからこの話が出たとすると、実際この「ろうそくデモ」が国民たちに注目を受けたのは1人メディアの力が大きかったのである。人々が映像とライブでデモの現状を世間に知らし、国民たちの認識の転換と事態の深刻性と変化を直接目撃するようになった。それで、現在のメディアは権力の道具ではなく、相互コミュニケーションができる大衆的で、民衆的な道具として意義を持ちはじめた話から、今の1人メディアの可能性とその重要性についてももう一度考えるようになった。そして、私たちはこんな話までして、考えたら、「1人メデ

メディアは思ったよりすごいものだな」とお互い感心した。すると私は「ではマーケティングとして1人メディアの活用についてどう思う」と聞いてみたら、妹の答えは「お、めちゃいいと思うよ、でも短所も多いな」と肯定したが、少しの心配もあった。1人メディアの活用の長所を見ると、制作の費用が低廉で、制作にもやすいのである。前で話したように高度の技術が必要ではなく、だれでも挑戦しようとしたら、作れるのである。また、1人メディアは既存のメディアと違って多様なコンテンツがあり、個人の個性を生かした放送は忠誠度が高いファンを確保しやすい。また、スマートフォンの特徴上視聴率をすぐ確認ができ、低費用で、高効率の広告ができるのである。しかし、まだ、MCN側のパワーハラが問題視されているし、一部のクリエイターは刺激でセンデ煽情的な放送で、イメージが悪くなることもある。

そのように今の1人メディアは長所も多いが、短所も多く、「1人メディアの展望」はまだ、不確実である。注目をうけているが、対象が若者に傾いているなど、成長はしているが、市場の拡大ができていない状況で、今後の課題になっている。

私は今回の妹との対話をとおして本当に重要なことを多く学んだと思っている。今で、短編的に考えた「1人メディア」について様々な方向から考えるようになったきっかけになったと思う。そして、今「1人メディア」がどのぐらいの可能性のある産業か分かるようになった。現在では「1人メディア」が完全に活躍する舞台が整えていないが、多くの人々に認められ、注目を受けている今、未来に「1人メディア」が大衆化するのには時間の問題である。私はこのような「1人メディア」について研究し、マーケティングとして使える活用法と、マネジメントの力を身につけたい。

今回の日本語授業ではこのようなレポートについて考え、書いたことから自分の将来についてもう一度考えるいいきっかけになったと思う。今回のレポートのテーマは自分が大学から研究および勉強したいことだった。1年生の時も大学でやりたいことをテーマとして似たようなものをしたが、その時には将来の自分までは考えず、今の現在だけ見ながらそんなに深く考えていなかった。しかし、2年生からはメディア情報学科を選択し、私がこの分野から“何を勉強したらいいか?”、“将来に何をすべきか?”など、専門的に考えるようになった。また、このレポートを書きながら感じた点も多かった。例えば、私は「1人メディア」について単純に面白くて、興味を持っていたものだが、これが大きな影響力をもつようになり、レポートのテーマとして使うとは思ったこともなかった。また、調べたら調べるほど意外なところも多く、活用方法も多いなど、もっと多様な方面から考えるようになったと思っている。

島国の地域開発による発展

マン セイケツ

1. はじめに

世界の先進的な国や地域などでは人口がたくさん集まっているという特徴がある。これは経済が発展している表現とも言える。しかし、たくさんの人口は与えたのは経済発展だけではなく、問題も起きている。例えば、人口圧に耐えられないという現状(人口密度

の上昇、住む場所が不足、交通渋滞)がある。なぜなら、地域は「限界」が存在している。

つまり、地域の容量は無限ではなく、限界が超えられてしまうと地域は生活環境を提供できなくなる。特に発展している島国と地域に大きな影響がある。なぜなら、島は領土が狭くて、資源も凄く限度があるが、労働力が足りないため、海外から来た労働力に依存しているという現状がある。例えば、島国のシンガポールを例にする。シンガポールの人口は

560 万ぐらいで、国民はシンガポール人口の60%を占めていて、9%は永住者、他の30%は全部外籍の労働者である。なので、外来労働者はシンガポールの経済活動を支えているとは言える。しかし、国面積ただ719.7平方キロメートルのシンガポールは、労働者

に住む場所を提供するのはなかなか大変だと思う。つまり、島自体は人の生活場所を提供し難いが、海外から人が来て欲しい(経済を支える労働力として)。しかし、良い生活環境を提供できないと、島に来る人が減るし、島を支えている労働力が足りなくなってしまう。更に、現住民たちは良い生活を追求する為に、島から移民することもあると思う。

また、実際に15世紀からヨーロッパ諸国は産業を発展させるために、植民地を作り、労働力を探して来たということがあるから、島の労働力不足が昔から今までも深刻な問題だと考えられる。

そこで、今回で研究したいのは、どうやって都市計画によって、島の人口圧の問題を解決し、島の発展を持続(海外労働力があるように)することである。例えば、住宅を増やす、埋め立つなどの方法を利用し、島の容量を拡げることである。つまり、人口を対応する為に、島自体を改造し、まだ利用していないところを開発することである。

2. 動機

動機は、自分は住んでいる町の香港は人口圧に影響されている。1100 km²の面積で、700万人が住んでいる。人口密度(2018)は世界順番の4番になっている。そして、一番問題になっているのは住宅不足の問題である。今香港には約20万の人が、面積8平方メートル

以下の家に住んでいる（平均には 5.7 平方メートル）。そういう人たちは毎月には平穩な給料をもらっているが、良い生活環境がない。そんなところに住みたくないから、近年外からの移住も少なくなってきたという現状がある。私は住んでいる場所「ジョーダン」は、香港においても人口密度が非常に高いところである。週末になると、人口の津波はきりがない。特に夏の時、高い気温と人圧によるヒートアイランドがあるから、運転せずに出かけることができなくなってしまう。偶々道で歩く時に「そんなに多くの方は本当に住めるの？住めるとしても、きっと大変だろう」と考えたことがある。しかし、人が少なくなっていくのは決して良いことではないと思う。なぜなら、昔の香港は中国の唯一の港として発展していたが（昔海外からの輸入品は全部香港を通りながら、また大陸に輸入する）。今は政策（上海を貿易の中心として発展させる）の影響で、その唯一性が薄くなってきた。だから、経済を維持するために、再発展の道を見つける必要があると思う。そのために、人口は欠かせない。なので、今の香港はもっと地域を開発し、たくさんの人の居住問題に対応する必要があると思う。もっと生活場所と生活環境を提供することによって、今すんでいる人たちは続いて住むこと、それと海外の人もっと香港に移住するになる。経済発展を支える労働力を維持しなければならない。なぜなら、不景気に伴って人口数も失ってしまったら、島としている香港はなかなか再発展し難しいと考えた。

3. 対話の相手

今回の話し相手について、関西学院大学総合政策学部都市政策学科のTさんを話し相手にした。

4. 選んだ理由

その理由は3つがある。まず一つは、地域開発の一つの手段として、自分ももっと住む場所を増やす考え方を持っていた。そこで、住宅を増加することはもちろんで、住宅の内部空間を広げることも一つの方法として考えていた。つまり、建築のデザインによって、住宅空間を広げることである。Tさんは建築分野を勉強しているから、聞けることたくさんあると思う。2つ目は、今回の話し相手は建築会社の人脈をたくさん持ちちらしくて、建築会社から新しい時代の建築はどんなデザインを求めているかを知ることができるかもしれないと思う。なぜなら、新しい時代の建築デザインを知ることによって、先に書いた自分の考え方（住宅内部空間を広げる）はこれからの時代で手段として有りかどうかが確認できる。3つは、建築会社から、地域開発はどのぐらい規模の工程かがわかることである。

5. 最初の対話

対話を二回に分けていた。最初の一回目は文章について簡単に紹介し、20分ぐらい話した。一回目で話すときはいくつの質問とアドバイスが出ていた。まず、一つ目は島の問題を研究するなら、一個の島に絞ることである。全ての島が同じ問題になっているわけではないから、開発の手段もそれぞれ違うため、一つの島にしたなら、もっとわかりやすくなる。二つ目は、どうしても大範囲で島問題を研究するなら、香港みたいな例をもっとたく

さん出すこと、たとえば、どこの島どんな似ているような問題が起きているか。三つ目は、今まで成功した開発の例を探すこと。成功した地域を例として挙げて、自分が研究したい問題を支える。

6. 対話について

二回目は5/23に大阪梅田で1時間を話して、重要な話だけをあげる。

7. 対話内容

最初に出たのは質問である。

Tさんから「地域の開発することによって、本当に町にとって良いことでしょうか。

海を埋め立てや山に住宅を立つなどのことは環境にすごく影響を与えるから、自然が破壊されると、住む人が減少するがある。特に、現代の人たちは自然と町との共生を望んでいて、自然がある住む場所を重視しているという現状がある。もし自然破壊によって、人が減少したら、逆方向になってしまうことではないか」。

その問題について、自分の答えは「もちろん、地域開発は環境に大きな影響があるし、結局、環境の問題による人口の流失も起こるかもしれないが、私たちは見なければならぬのは今の問題だと思う。問題はいくつの段階があるから、将来の問題に心配をかけて、今の問題を放っておくと、結局問題が一つも解決できなくなってしまう。それと、町の発展は常に問題を見つけながら発展を進むから、1つずつに問題を解決していった方がいいと思う。」

それから、何点自分が気づいていなかったことが話すによって出た。

Tさんから『一つは、前文のデザインによって住宅の内部空間を広げることで、実際にこの方法は住宅を増やすよりコストが節約できる。例えば、5人が住める空間を7人に広げるのは大きな作業ではない。一方、住宅を立つのはコストがたくさんにかかる。つまり、内部空間を広げることは最適な住む場所を増やす手段かもしれないことである。』それと、「2つは、地域開発はたくさんの労働力が必要から、地域開発によって、またたくさんの人が来ると考えられる。」と言う話が出た。

最後はアドバイス。

Tさんから、「実際に研究するのは香港のことか島のことかを明確することである。

島なら、もっとたくさんの他の例が必要。例えば、今まで成功した例や今で開発している例など。香港なら、最初にした島の話の範囲を縮小する必要がある。特に最後はタイトルを決める際にもし島のテーマで、内容全部は香港の話になると、香港は例か、正文か勘違いしやすい」。

8. 対話まとめ

地域開発と環境の矛盾問題は質問として出た。それはやはり無視することができないポイントだと思う。なぜなら、今は環境問題を重視している時代だから、環境を守りながら

経済活動を行わなければいけない。だから、考え方として、全文で書いていた埋め立てや住宅を増やすなどの手段を変える必要があると思う。これから、建築デザインの方を中心の手段として、人口問題に対応していくと考えている。つまり、直接に地域を広げるより、内部の住宅空間をデザインによって広げるという考え方である。

それから、自分は考えていた解決方法はいくつのメリットがあること（自分気づいていなかった）。例えば、コストの節約、地域開発によって人をひきつけること。

最後は研究対象（地域）を絞ることである。最初から香港の開発か、島の開発かという問題になっていたが、今回の話によって、「島の開発」を研究するに決めた。絞る手段としては、人圧問題がある島の例を探すこと。つまり、香港で起きた問題は他の島にもあるという関連性を結ぶことである。

9. 授業感想

自分は研究したいことを書くことによって、どの部分の勉強が不足か、もしくは、これからどんな勉強を進んで行こうかが分かった。例えば、わたしの場合。地域開発をすれば、今回のテーマの問題を解決できると思ったが、実際に地域開発をするのは非常に難しい。どこでどのようにするか、環境との矛盾関係、誰か資金を出すなど、様々な問題点がある。だから、研究したいことを本当の研究になれるために、これから、何をもっと学習するかが確認できた。また、クラスについて。担任先生は前学期と同じなので、交流しやすい満足感があった。メンバーの方は、日本語レベルが高い方が何人いるから、完全に日本語で授業を過ごすことができた。

10. 参考資料

visitsingapore. . http://www.visitsingapore.com/ja_jp/.

香港政府一站通 GovHK.. <https://www.gov.hk/sc/residents/>.

1. 動機

福島第一原発事故発生以来、マスコミとSNSで流されている非科学的なデマや、偏向報道と虚偽報道、或いは誤報道による、世論の原発に対する印象が段々悪くなってきた。原発・放射線に対して不安・不信感の強まるに伴う、「原発廃止」の声も日々高まってきて、一辺倒の局面になってしまった。やがて、台湾における野党と社会運動団体の活躍を通じて、国家エネルギー政策までも大きく影響を与えた。

このような社会現象に対して、最初私は主流意見に流され、反原発の側であった。しかし、『流されぬ』という家訓を思い出した私は「反原発」このことに対して、疑問を持った。「単純な恐怖を理由とし、原発を反対するのが本当に良いのか?」、「原発のことを知らないまま反対するのが本当に大丈夫なのか?」、もちろん答えは否だ。だから、私は「原子力のことをもっと深く勉強したい、自分の力で現状を解説出来たい」という自己目標を設定していた。

2014年から、私は「反原発」の議題について、自主研究を始めた。それから、私は民間科学団体に積極的に交流をし、国立清華大学と台湾電力主催の研修に何回も参加した。こういった様々な研修活動をした上で、私は「やはり原発は大規模稼働すべきだ」という結論を導いた。

ここで、何故私は原子力を推進しようとする三つの理由を挙げる：

① 反原発は経済発展に深刻影響する

2017年8月15日に、台湾では全国的な停電事件が起きた¹。

何故電力は不足に至るのか。実は、電気というものは貯蔵困難という物理制限があるため、「即発即用」しなければならない特性がある。だから、**図1**に示したように、給電システムには、「ベース電源」(石炭火力・原子力・流込式水力)、「ミドル電源」(天然ガス・石油火力)と「ピーク電源」(天然ガス・石油火力・揚水式水力など)以上三つの分類がある。ちなみに、発電システムに「貯・発電」できる電源は揚水式発電しかない。

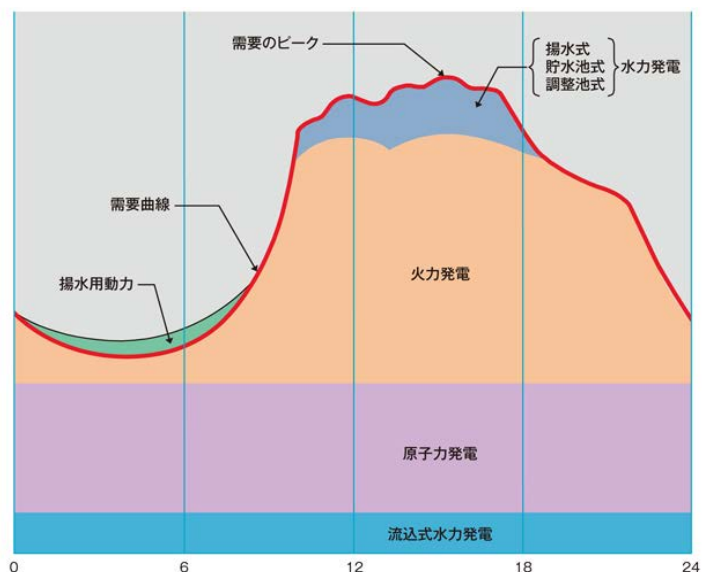


図1 エネルギーミックスの理想形

(出典 電気事業連合会)

台湾の現与党(2016~)は十数年前から第四原発の建設を妨害し続けた反原発派である。彼らは野党時期(2008~2016)からマスメディアで輿論を操作した。そして、与党になった彼らは、電力需要が成長し続けている状況の下で、「2025年まで現役の原発を全て退役させる」という政策を出し、未稼働の第四原発(工事完成率約99%)を無理矢理退役させた。やがて、日々成長続けている用電需要曲線が2017年真夏の8月15日に、電力供給曲線と交差してしまって、全台湾合計668万戸が停電した。

台湾電力の資料によると、2016各発電手段の毎キロワットアワー(kWh)の発電コストは石

¹ 日経新聞・台湾経済相が辞任 大規模停電で引責・2017/08/15

炭 1.09 元、石油 3.61 元、天然ガス 2.12 元、原子力 1.14 元、風力 2.25 元、太陽光 9.49 元であった。もし現政策に従って、現稼働中の原子炉（未稼働の第四原発含まれず、年間満載発電量は 400 億キロワットアワー）を天然ガス（単位コスト差額は 0.98 元）で入れ替えると、毎年発電コストだけで、約 392 億元（為替 1:0.28 の場合、約 1400 億日本円）の差額が出るのが分かる。また、全く発電したことがない（収益はまだゼロの状態）第四原発を廃止することは、いわゆる、元々会計上は「資産」（デビット；借方）として見なされていた第四原発は、この「廃止」により、「資産減損」（クレジット；貸方）として見直されることがある。言い換えると、建設当時の 3000 億元（同上、約 1兆714 億円）は、この「廃止」の決定により、台湾電力の「債務」になるのだ。国営企業とは言え、破産危機は現在も、台湾電力に迫っている。

もう一つの例は、2011年の福島第一原発事故直後に、日本の民主党政権が「原発ゼロ」政策を出した。当時は毎日約 100 億円の天然ガスを原発の不足分の代わりとして焚き増やし、年間合計 3 兆円ほどの燃料費が流出し続けた²。その後、日本の経済は図 2 に示したように、連続 3 年間の赤字と、過去最大の赤字に陥った³。それに、経済に対して影響は単なる燃料費の高騰だけではなく、電気料金の上昇と停電リスクによる産業空洞化の恐れもあった⁴。

産経新聞 2013 年の記事には、当時日本のエネルギー供給状況について、「供給余力は乏しく、不測の大規模停電が起きてても不思議ではない状態だ。」と言及していた。今から見ると、まるで台湾の現状を予言しているような分析だったと、私は思っている。

簡易に纏まると、経済重視の現代工業社会にとって、安価、そして安定した電力供給は基本中の基本である。「三十年を一単位として計画する」と言われているエネルギー政策に対して、我々は決して、理性的に、科学的に、慎重的に構築しなければならない。

② 反原発は環境保全に深刻影響する

地球温暖化を防ぐために、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を抑えないといけないという認識は、すでに一般常識として、常に皆の心の中に存在しているだろう。しかし、IEA（国際エネルギー機関）のデータによると、2008年⁵全世界の電気のエネルギーソースは「石炭 41%、天然ガス 21%、水力 15.9%、原子力 13.4%、石油 5.5%と、その他 2.8%」であっ

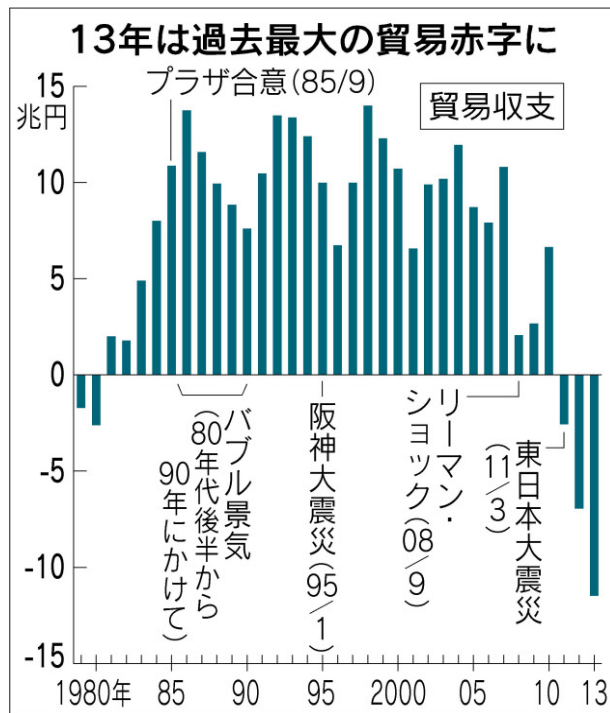


図 2 2013 年まで日本の貿易収支状況
(出典 日本経済新聞・20140127)

² 産経新聞・日本のエネルギー 「ゼロの呪縛」を解こう 原子力を基軸に再構築せよ・2013/01/07

³ 日経新聞・貿易赤字、3年連続で過去最 13年度 13.7 兆円・2014/04/21

⁴ 日経新聞・空洞化と電力危機 輸出国の台崩れる・2012/01/26

⁵ 参考資料『IEA 世界エネルギー展望 2010』に載せたのは 2008 年のデータである。

て、火力発電は未だも全体の6割以上を占めている。こういった化石燃料に高度依存の現状に対して、国連特設の機構IPCC（気候変動に関する政府間パネル）からの報告書には、「原子力とほかの低炭素エネルギーで、温暖化を防ぐ・緩和する」という方向を示した。

「なぜ原子力を用いないといけないのか？」という疑問も結構多いと思うが、実は前文に書いている「ベース・ミドル・ピーク」の分類法と関連している。発・配電が調達し易いミドル電源とピーク電源は必要な存在であるため、石油と天然ガス火力発電は完全に排除できないが⁶、「一日24時間・一年365日」安価で供給しないとけないベース電源の石炭火力の場合だったら、二酸化炭素不排出の原子力で「完全に」置換できる。仮に原子力を大量稼働して、石炭火力発電を全部入れ替えれば、火力発電全体の約6割以上の二酸化炭素排出量を回避できる。言い換えると、原発を反対すること自体は、逆に温暖化を加速しているのだ。

③ 反原発は国家安全に深刻影響する

「エネルギー政策を選択し決定するために、最も基本的な軸であり、『第一のルール』となるのが『3つのE』です。」（精神論ぬきの電力入門 P.51）この「3つのE」というのは、いわゆる電源供給安全 (Energy Security) と、電源経済性 (Economic Efficiency) と、電源の環境適合 (Environment)、以上三つのことである。図3に示したように、2011年の福島第一原発事故直後に、民主党政権が日本の原発を「ゼロ」にしたため、2013年のエネルギーミックスは、1973年第一次オイルショックの時と比べ、より化石燃料に依存する体質になってきた⁷。

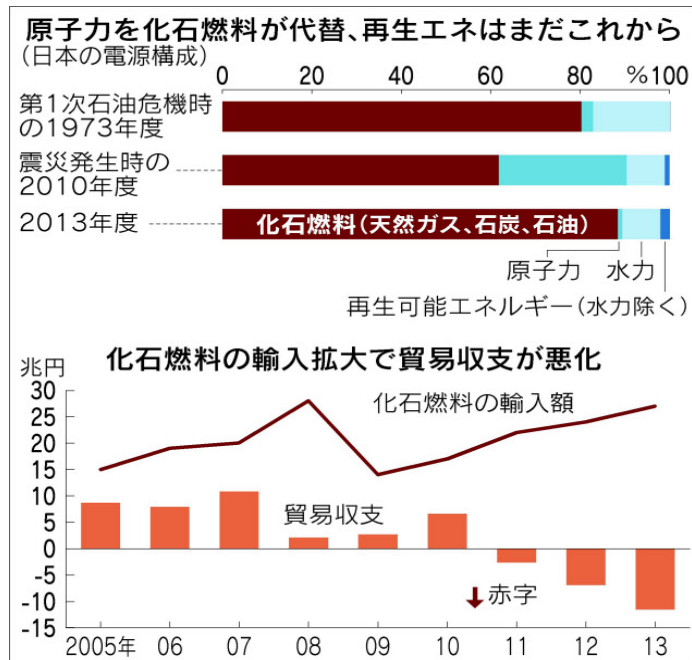


図3 東北震災発生後原発ゼロによる化石燃料の依存 (出典 日本経済新聞・20140617)

2013年現在、発電量が人為的に調整不可能な再エネと流込式水力を除いたら、残り約9割の発電量を占めるエネルギーはほぼすべて輸入を頼んでいる。それに、火力発電の中に発電量が一番伸びたのは、「増設し易い」、「石炭より比較的に環境に優しい」という特性を持つ天然ガスである。しかし、天然ガスは液化天然ガス(LNG)にしないと輸送できないため、輸送と貯存手順は大変複雑で、備蓄量を維持するのも困難である。また、天然ガスは発電に使うだけでなく、都市ガスの供給も天然ガスを用いているのだ。こういった一種多用の反面にあるのは、国家安全に対して致命的な弱点である。何故かというと、仮に東アジア地域に戦争が起こしたら、海域・航路封鎖によるLNGの補充が困難になり、或いは化石燃料の全てが断絶状態になる可能性も低くないだろう。いわば、「備えあれば患いなし」、電源供給安全を確保するため、こういった最悪の状況を予想すべきだ。もし、化石燃料を一辺倒のように依存す

⁶ 既存の貯・放電技術は完全にミドル・ピーク電源を置換できないため、現在の手段は減量しかない。

⁷ 日経新聞・電源、化石燃料88% 「石油危機」超える・2014/06/17

るではなく、一回燃料を仕入れだけで、少なくとも一年半以上連続的に発電できる⁸原子力を確保出来ていれば、国家安全もより一層保障が得られるだろう。

2. 対話の相手について

私が選んだ対話する相手は私の親友であり、研究仲間である傅さんだ。私たちは2016年に台湾電力の第三原発に研修を受けたことがあった。そして2017年9月中旬の時にも、福島にある会津学鳳高校と福島高校で生徒たちにインタビュー活動を行った。また、福島県浜通りの帰還困難区域一部、国道6号線にある福島第一原発との最接近点と、「新しい」避難解除区域で放射線線量測定など、様々なデータ収集活動をしたことがあった。もちろん、彼女を対話の相手とする理由は単なる友人関係であることではなく、この研究テーマは沢山の背景知識が必要するからだ。ちなみに、私たちの活動報告も、防護協会の隔月刊に登載されている⁹。

3. 対話の内容・概要

最初、私は今回の対話目的（日本語授業に関して概要）を彼女に教えた。私の説明を聞いたあと、彼女は先に「つまり、君はこういう状況に対して、一体どうしたいの？フクシマの風評被害であっても、台湾の電力不足問題であっても、或いは地球温暖化問題であっても、今の私たちが実際に現状に対して、ほんの少しでも、影響出来ることは反原発派のアホ共と戦うしかないでしょ？」と、笑いながら私に質問した（意思を尋ねた？）。彼女のこの質問に対して、私は「それはそうだけど、このまま反原発の『民衆』と論戦をやっても、誰も知らずに終わってしまうでしょ？より効率的で、手を汚さない手段があるかな…」と言い返した。

彼女がそう言った理由は、私もなんとか理解できる。私たちが知り合ったきっかけは「核能流言終結者」（英訳：Nuclear power Mythbusters）という社会団体の集会であった。我々は台湾の現与党がまだ野党であった時期から、反原発派の社会団体らと論戦を何回も何回もやった「主戦派」だった。しかし、停電事件が発生したことを知ったあとの私は莫大な無力感を感じた。台湾の企業家方たちさえもこの狂った政府を止められないのに¹⁰、このちっぽけな自分は近い将来を逆転できるのも笑えない冗談だけだと考えた。

「近い将来に対しては影響できないかもしれないけど、今から知識と影響力を貯まり続け、或いは世間の動向を読める能力を身に着け、ある日に機会を掴めれば、我々も本当の『有権者』になれるかもじゃない？…新しいエネルギー（核融合炉）の開発は金だけではなく、皆からの支えがないと何にもならないし…時代と政治的に間違えた私たちはこうやるしかない（反原発派と論戦）と、私はこう思っているけどね…」と、彼女はまた笑いながら語った。それに対して、私は「俺もこう思っているよ、核融合炉の開発完成まで、温暖化を防ぐ唯一の有効手段（核分裂式原子力発電）をまもるべきだと思うの。でもな、今までの論戦はもう『飽きた』というより、これ以上手を汚したくないなあ、俺は。…やっぱ教授たちのように、記事とかを投稿したほうがいいかな…」と自分の意見を言った。「いいではないですか、全部ではなくても、ある程度の専門知識を持つ文系人の役割を果たして、社会に貢献できる一つの手段だね。良くやったら教授たちのようにテレビにも出ら

⁸ 1年半とは新品核燃料の目安。核燃料サイクルが認められている日本は十年間以上耐えるだろう。

⁹ 中華民国放射線防護協会・輻防簡訊第147期・2017/10/15

¹⁰ 日経新聞・台湾の電子部品3社、大規模停電に懸念表明・2017/08/18

れるかもね!…(下略)」と彼女が私の意見を賛成(?)した。

確かに、私もまだ諦めたくない。今はまだ無力かもしれないが、塵も積もれば山となる。興味だと言え、一応研究でもあるし、諦めずにやり続ければ、私も丘になれるだろう。それに、影響力を貯める方法について、今の私は一つの考えがついた。それが「新聞社に記事を投稿する」ことである。こういった手段で世間に少しでも影響を及ぼす、そして毎回毎回記事を書く同時に、私も当時の自分が持つ問題意識を再確認できる。いわゆる活用しながら勉強することである。

4. 対話による結論

今回の会話を通して、簡易にまとめると、私は昔の自分がやっていたこと(反原発派と論戦)を完全に否定したとは言えないが、これ以上続かないことにした。何故かという、反原発派の主張の中に、約二分の一がデマと虚言、四分の一が単なる誤解、本当に価値ある正論は僅かな四分の一だけだ。こういった現状に対して、我々ずっとやってきた「論戦」の主は、「デマと虚言の撲滅」と関連している。科学とデータでデマと虚言を撲滅する論戦とは、いわゆる他人の既存概念(誤導された一般民衆)や、既得権益(再エネ業者や、自称環境団体)、或いはイデオロギー(政治的反原発者)を打ち破ることが多いのだ。また、原発議題とはかなり広い分野の知識を身に着けないと話が進めないため、相手を説得するときも、相手に正しい情報や知識をいちいち教えないといけないのだ。しかし、既存概念だけをもつ一般民衆はともかく、台湾の「政治的反原発者」はかなり多いのだ。そういった場合は「優しく説得する」ではなく、根深なイデオロギーと戦うしかない、難攻不落の場合も少なくないのだ。

こういった状況に対して、私はもう飽きた。このような「無意味な戦い」はあくまで人生を無駄している。「手を汚さなくてもいいではないか?」、「別に悪役をやらなくてもいいではないか?」と、私はこう思いついた。人生は一度きりなものであり、私はまだまだほかのやりたいことがある。だから今回の対話を機にして、時間をあいつら(イデオロギー強め、対話不能の政治的反原発者たち)に全く使わないことにした。しかし、私はまだ、現状を改変することについて諦めていない。これから私は、論戦の代わりに、新聞社に、紙面か電子版かどっちでも構わない、社説や、コラムくらいちょっとした記事でも、投稿してみたい。ほんの少しでも良いが、私は出来るだけ多く、誤導された人々に良い影響を及ぼしたい。今この最悪の現状を出来る限り改変してほしいのだ。

5. 授業感想

前学年に書いた文章を書き直すことを通して、私は段々文章体の「語感」を掴める気がした。また、私実は2年前から、台湾の大学を中退し、関学の入試と留学査証の手続きをするため、バタバタしていて、少しずつ論戦からフェードアウトし、傍観者の立場に移り来てしまった。具体的な「やりたいこと」を見失い、迷走し続けた。が、今回の対話を機にして、実際に現在の自分が社会に貢献出来ることを絞り出し、見つけた。実に大変嬉しいである。

6. 参考資料

- 澤昭裕 『精神論ぬきの電力入門』 2012年 新潮新書
- 経済産業省 『エネルギー白書2017』 2017年 経済産業調査会
- 経済産業省 『エネルギー基本計画』 2014年 資源エネルギー庁

- 経済産業省 『日本のエネルギー』 2014年 資源エネルギー庁
- I E A 『世界エネルギー展望2010』 2010年 I E A
- 台湾電力 『断然処置についての補充資料』 2013年 台湾電力
- 台湾電力 『台電系統歴年発電量（七種分類）』 2018年 台湾電力
- 台湾電力 『各種発電方式の発電コスト（毎月更新）』 2018年 台湾電力

3 クラス

担当 勝部 三奈子

人事管理を中心とする経営学への研究

王朝

1. 経営学を研究したいきっかけ

私は将来日本か中国で自分の会社を持ちたいと思う。どうすれば自分の仕事さらに企業全体をうまく行かせるのか、多分この先日々直面している一番大きな問題になってくるだろう。もちろん経営なプロになるため、長い時間の勤務からの経験を積み上げる必要があると思うが、経営に関する専門的な知識がある程度備えれば決して損ではないだろう。しかもそれらの知識を身につけたいなら、社会人になってからより、大学時代のほうが最適なタイミングだと思う。

日本に来て初めてのバイトのおかげで、サービス業の仕事の概念を身近で触れることができた。今までのバイト履歴が居酒屋のホールとドンキホーテのレジただ二つのところである。さらにバイト先を変えたいと思っている。なぜかというと、次の職場に行かないと以前やっていた所の違いがわからないからのである。たとえ私の場合では、今やっているドンキホーテの職場の雰囲気は前の居酒屋より確実に良いだと思う。居酒屋の職場のようなやる気なく、人員変動が頻繁的な雰囲気と比べて、ドンキのみんなはやる気満々、満足できずサービスの質をどんどん高めていこうと思っている。個人差もあるかもしれないと思うが、やはり職場の環境が個人に大きな影響をもたらすだろう。この際経営者もしくは現場のリーダーは積極的な雰囲気を作ることによって、職場で働いている人々のモチベーションを引き出すことができる。

つまり、現在の私は現場の一員として職場の雰囲気を感じ、自分のやる気がそれによって左右される。将来の私は経営者として、どのように現場の人たちのポテンシャルを最大限にする環境を提供できるのかを主として研究したいのである。ところがこの研究テーマは経営学のどの分野に属するか、あるいはこれを研究するためにどんな勉強が必要であるかがわからなくて、対話をしてみた。

2. 対話相手の紹介

今回対話相手として選んだのは自分の父である。父は30歳ごろから起業して20年間自分の会社を経営し続ける経営者である。経営学の分野を研究したい私は、学問という範囲に止まらず経営に関する実態も知りたいと思って、父と話し合うことになった。

3. 対話の結果

3.1. 研究動機に関する対話

今回父と話し合っただけで分かったことは、自分が経営学を研究する動機ははっきりとしていないことである。父との会話の最初段階で自分が大学で経営学について研究したいということを言うと、父は「いいよ、経営を勉強するっていいことじゃない？」と驚くことなく平気と答えた。私小さい頃から企業家になりたいとずっと言ってるから、こういう父の反応も私の想定内だ。しかし、だんだん大きくなって、そろそろ理想を実現していくべきところだが、むしろ自分の理想が何かわからなくなってしまった。そのため、今回大学で経営を研究したいと父に伝えた後、逆に自ら「お父さんが私は経営を勉強したい理由は何だと思おう？」と父に聞いてみた。父も一瞬戸惑ってしまって、「そうだ、お前なんで経営を勉強したいか自分でもわからないんだ」と言い返した。それで、父は何のため経営者になったのかと私が聞いた。父は「大学卒業してすぐ起業したわけじゃなくて、その前いくつかの仕事をやってたわよ。それらの仕事をやっていく中で、自分一番やりたい事業を見つけた。やはり自分の考えでこの事業をやりたいので、前の仕事を辞めて、自分の会社を創立した。事業が成功にしろ、失敗にしろ、最後は必ず経験として身につけるから、自分の成長を促すだろう。自分の考えで儲けるお金と他人の意思に従ってやることでもらう給料は違う感じだと思う。俺は会社を運営することを通して自身の価値が実現されるように感じるから、起業をしたわけだ。簡単に言うと自己満足のものかな。」と丁寧に教えてくれた。この話は私の共感を呼んだ。父の話はまさにずっと自分の頭の中に潜む経営者になりたくて、言えなかった理由を言葉で表した。

3.2. 研究目的に関する対話

さらに私は社内環境、雰囲気作りに関する研究をしたいと言った。このことの重要性は父が認めてくれたが、企業風土や人間関係とかの面も絡んでくるから、なかなか難しいことだと言ってくれた。実際に言うとしたら、多くの企業が行われている社内旅行とか、懇親会などの活動だろう。

その後私は「うちの会社の給料は業界の中でそんなに高くなくても、みんながうちの会社で働きたい、さらに会社の成長のために一生懸命働いてくれるということはどう達成するか」というもっと具体的な研究目的を言い出した。

これに対して父は自分の経験に基づいた見解を言ってくれた。実に会社のチームメンバ（社員のこと）の帰属感を高めるために、もちろん待遇面も一つ大きな要因だが、各チームメンバの自己価値がどのぐらい実現されていったかも非常に重要なことである。例えば、管理層ではないのに自分の努力が会社の成長と密接しているとか、自分の仕事が評価されているとかのことがいつも実感できるなら、会社で働くことで自己価値が実現されると言えるだろう。こういうことを達成するために、管理者の責任が大きいと思う。管理者はし

っかりと各メンバーの強みを捉え、彼らが自分の強みを発揮できる仕事や環境に分配することがポイントである。

チームメンバの帰属感を高めるためもう一つ重要なのは、このチームにいたことが私自身をどのくらい成長させるか。例えば、中国にある多くの外資企業は従来から社員たちの研修を非常に重視している。会社の収益から研修の資金を用意し、何らかの形で定期的に社員に研修機会を与えるような人材育成の仕組みが整えている。近年において中国本土の企業もそれをますます重視するようになる気がする。社員は企業で働くことを通して報酬をもらえる以外、自分自身の将来にも役立つキャリアアップに繋がるから、こんな企業こそが就職者にとって魅力的であろう。

3.3. 将来自分が目指す会社像に関する対話

最後に私はレポートで将来自分の会社を持ちたいと書いているが、どんな会社なのか、何を売る会社なのか、クラスメートからの質問を答えられなかったということを父に教えた。父は「心配しなくてもいいよ。何を売るより重要なのはどうやって売るだ。」と答えた。あなた将来作る会社は必ず独占のような会社ではないから、製品があつたら、製品の質とサービスの質を他社と競争する、製品がなければサービスの質だけを競争する。要するに、避けられない競争の中でどうやって勝ち取るのが重要だ。これに対し、「お父さんの経験から見れば、競争の中で勝つポイントは何？」と私が聞いた。私がやっている業界から得た経験という、誠心誠意、一つ一つの取引先の要望を満足することが私の経営方針である。当たり前のことだけど、実は決して容易ではないよ。それぞれの取引先が求めるポイントが違うから、法律かつ業界のルールを犯さない範囲で、より多くの要望と取引先を対応し、満足できる会社が勝つだろう。具体的な経験を言うと、一つの取引先を満足させて、会社のサービスが評価されたら、前の取引先からの紹介で新しい取引先がどんどん来てくれる。だから、目の前の取引先を誠心誠意に満足することが将来の新しい取引先を重視することと同じ意味だ。私の業界だというと実は紹介できてくれるお客の方が利益が出る。なぜかという、うちの会社のサービスを認めるから、他社より費用が少し高くてもうちの会社と契約したいんだ。そしてどんな業界においても、社会の発展に連れ、利潤はどんどん低下するのが一般的なことだ。さらに近年のような早く発展している社会環境で、会社の変化を求めないと利潤は確保もできなくなる。だからさらに同業他社と区別するために、積極的に事業領域を拡大する必要ということがわかって来た。新しい客層を取得することによって利益を確報するために、事業内容の展開が近年集中している仕事である。

4. 対話結果のまとめ

実際の業界のことを詳しく知らない限り、ほとんどの経験は机の上のものに止まっている。仕事をやっている間、業界のことをより詳しくなることで、将来自分がどんな業界で起業することもだんだん明らかになって来るのではないかと思っている。しかしどんな業界においても共通する経営管理の方法や基盤とする知識もあると思うから、研究というより研究したい内容に関する知識を学ぶ方が適切ではないかと思う。

5. 結論の見通し

私は大学で経営管理の中、人事管理の分野を研究していきたいと思っている。将来経営者として自分の価値を実現しようという理想が既に確立されている。ただ今のようなまだ業界に詳しくない大学生段階で、とりあえずどの業界でも通用できる経営の知識を中心に学んでいこうと思う。そこでサービス業にせよ、製造業にせよ、やはり人があつての会社だと言え、さらに日本でのバイトの経験も加え、人事管理ひいては会社風土が極めて軽視ではいけない部分ではないことを気づき、人事管理の分野をこの先研究していこうと決めた。

6. 授業の感想

今学期の日本語授業はまた去年のように修正を重ねながらレポートを完成させるという形が、レポートのテーマも変わったし、完成させるまでの時間も去年の半分になった。大学で研究したいことはぼんやりが、なかなかまともに考えていなかった。レポートを書く過程で何回も普段から興味ある分野の専門書を読んだらいいなあと思っていた。今学期の授業はこれからの研究分野をまともに触れることを促したと思う。

少子高齢化の問題と経済、政治、文化に対する影響

陳鏡夫 チン キョウフ

日本に来た後、社会問題に関する問題をいつも挙げられる例は少子高齢化だと思う。中国も、最近一人子政策の廃止も議論されている。去年、社会学概論の授業の先生がこの少子高齢化の問題について、少し知っていた。まだ、日本語授業で韓国の学生も兵役の面から、少子高齢化の問題を考えることがあった。

まず、なぜ私は人口問題に興味があるか。私はどのような問題でもひとに関わっていると思う。「少子高齢化の問題と経済、政治、文化に対する影響」のテーマにした、経済、政治、文化のキャリアーはひとである、ですので、何か問題を解決したいと、ひとの問題を考えなければならない、で、人の数の問題も考えなければならない。例を挙げると、何か新しい製品やサービスを提供したい、開発したいと、まずはマーケティング・リサーチをするでしょう、これは経済のこと、政治の例を挙げると。「女性が輝く社会」ということがある。日本の伝統的な家族なら、男性が働いている、女性が家事や子供の面倒を見るなどことをする。これも人手不足で、女性たちも働かなければならない状況になった。そして、このような状況は、その問題の中に、経済、政治、文化を全部でつながっているのではないか。実は正しく言うと、少子高齢化に興味があるのではなく、少子高齢化で、もたらした影響を理解したい、分かりたい。

普通に少子高齢化のことを言うときに、経済の視角から説明する、理解することが多いと思う。たとえば、少子高齢化になっていると、人手不足になる、人手不足になったら、大手企業はそんな厳しいではないけど、コンビニ、まだ先週に見たニュースで、町工場が人手不足で、とても困難の状況になってしまった、会社の経営も続けられない。したがって、ある日、ある時点で、小さい工場からの部品、小さい支店が提供しているサービス、最後に、このようなことを統括している大手企業に伝達してきたと、社会に大きい影響をもたらすでしょう、でしょう、今もみんながこのようなことを心配している。

私は普通にこのように経済の問題を理解していく。社会の形態の基礎が経済である。経済が文化に影響する、文化と経済が政治を作る。反対に、政治も文化と経済に影響する。ですので、少子高齢化が経済に対する影響だけではなく、政治、文化と一緒に考えていくと思う。これは単位を取る以外、今年の学習目標だと思う。

対話の相手は立命館大学の経営学部の学生で、劉力源という名前で、友たちである。私の意見はほぼマクロから理解していくことであるので、経営学部の学生からミクロの意見を聞きたい。たとえば、人手不足で、具体的に、企業の中でどのような影響をもたらすか。

交流するために、わたしは加藤久和先生の「人口経済学」という本を見ていた。本によると、1950年代以降に、人口経済学という分野がますます学者の目に入っていた。人口の変動、出生力決定によって、経済の景気に及ぼすことが目立つようになった。

この時間に、1957年に、ライベンシュの著作、「経済的後進性と経済成長」が出版していた。

この著作の中に主な観点は「一人当たり所得の上昇とともに出生力の低下」¹⁾ である。この状況で三つの現象がある。1、消費効用、2、労働効用、3、保障効用。

まず、消費効用を説明する。「消費効用とはほかの消費財と同様に子どもが親にとっての喜びや満足の源泉となること。労働効用とは生産要素として子どもが所得を獲得することによるものであり。保障効用とは親が老齢になったときなどの生活保障として子どもを位置付けることであ

る。」¹⁾ 本によると、経済の発展とともに、収入を獲得するチャンスと金額が充足していて、反対に、もし、子どもを産むつもりだったら、機会コストが上昇している、まだ高齢になったでも、社会保障が十分に整備されていた。したがって、ライベンシュが労働効用と保障効用は低下していくと考えている。これで、両親は子どもを持ちたい意識も低下していくと考えている。

これらの観点はわたしと劉力源、二人とも確かにこういうことと考えている。これ以外、劉力源はまだほかの現象を言っていた。若い人たちが仕事で、結婚する時間と子どもを産む年齢が昔より大幅に上昇していた。これで、妊婦が高齢に子どもを産むと、自身の健康に対する影響も大きくなる。

次は家族の所得から、二つの違うタイプの家族を分けている。ひとつは高収入の家族であり、もうひとつは低収入の家族である。ここで、フリードマンの社会的相対所得仮説について、議論した。「フリードマンは、家族の規模の決定には夫の属する職業集団が大きな影響を与えるとした社会的相対所得仮説を示した (freedman,1963)」この仮説は「同じ所得を持つ夫婦AとBがいるとしよう。このうちAは平均的にみて高い所得階層の集団に属している一方、Bは比較的低い所得階層の集団に属しているとする。このとき夫婦Aの集団は比較的高い消費を行なうとともに、子どもへの支出もまた相対的に多く、子どものコストも高いものとなる。その結果、同じ所得を持つ夫婦であっても、夫婦Bのほうがより多くの子どもを持つことになると考えられる。」¹⁾

この仮説の中に、わたしがある条件を理解していなかった。それは高い所得階層と高い所得階層に属しているので、高い消費を行なうこと。この中の条件は同じの収入での結果であること。わたしの疑問はより高い所得階層と相対的低い所得階層という言葉が少し曖昧の言葉ではないか。極限の状況にすると、両方も富裕の家庭で、ひとつの家族ほうが高い所得階層に属していて、もうひとつは比較的に低い階層に属しているかもしれないが。でも、社会全体から考えると、両方も子どもへの支出はほかの家庭の消費に対して影響がそんな高くないではないだろうか。劉力源はこの支出を簡単に金のことと理解していくのではなく、両親がその子どもへの教育、かかった時間なども、両親の支出と考えられる。

最後に、わたしは経済で、政治、文化に対する影響を討論した。中国を例にすると、昔、普通の家族だったら、姉妹や兄弟は4人、5人がいるもおかしくない。いまの状況は、普通に一人、二人で、ここで、両親の意識は20世紀80年代の宣伝スローガンのように、「少生優生」であること。この意識の変化は経済発展とともに、社会の要求も変化した、これで、個人に対する要求も変化したと考えられる。昔は農業社会で、人口が数は最も重要なことである。現代社会は、工業社会になったので、人口の数より、人口の質ほうが重要と考えているで、両親も自分の子どもの生活がより裕福な生活を期待している。これで、よりいい子どもを育てるために、一人、二人の子どもの教育を専念していて、両親はこのように考えている。

結論

前の例を考えて、少子高齢化問題の影響より、なぜ少子高齢化が問題であるかということをもっと興味深いと思う。

少子高齢化の問題を勉強したいではなく、少子高齢化の状況の下で、現在、世界各国の政策は少子高齢化の問題をどのようなことに理解していくか。

例えば、日本で、少子高齢化のために、経済発展が低下していくという認識が存在している、でも、現実にはただ、少子高齢化だけで、経済発展ができなくなるわけではない。でも、人々がテレビなど媒体から、経済発展ができなくなる原因、いわゆる最も主要な原因は人口が少なくなっ

ている。これで、政府も対応しなければならない。ここに、二つの立場が存在している、一つは民衆の立場である。もう一つは政府の立場である。民衆から見ると、1990年代から、経済が発展していなかった。普通に失われた20年と呼ばれている。では、政府が何か対策を出すべきだ。そして、政府から見ると、これは政治問題である、経済問題ではない。投票されたいので。

しかし、現実を見ると、人口が増加しても、GDPの総量が増加していくかもしれないが、一人当たりの収入も増加していくわけではない。日本の状況を考えると、失業率がずっと低いである、普通に人たちは関心を持っているのは、求人倍率である。これで、仕事があるかどうかの問題ではない、この仕事の給料が高いかどうかの問題だと考えられる。前にある例を挙げた。少子高齢化で、人手不足の状況になってしまった、町工場は経営続けられない状況になってしまった。これは人手不足ではないと思う、その標準の給料で、その仕事をしたい人がいないという言い方が正確だと思う。このような流れを考えると、少子高齢化とGDPの総量に関係あるかもしれない。しかし、私たちの収入と必ず関係があるわけではない。では、今日本の政策は、女性も社会の経済活動に加入させて、GDPの総量が増加するかもしれないか。増加したら、人たちが新聞を見るとき、経済が発展したというタイトルを書いた。これで、与党の得票数も上がるかもしれない。これも、私はGDPが上昇したような新聞を見るとき、下のコメントは実感がないという現象を説明できるだろう。

感想

一学期を経て、自分は何かに興味があるか、研究したいのかのことを、もっと明確になった。

参考文献

- 1) 「人口経済学入門」 2001年5月10日 著者：加藤久和 出版社：株式会社日本評論社

日本に来た以来、たくさんの友達ができた。友達は私に連れて、様々な所へ行って、一緒に美味しい料理を食べていた。ブラジル料理、ベトナム料理、フランス料理などの料理をたべた後で、たくさんのことを感じた。友達は美食について興味があるなので、料理に関する知識を私に教えて、私も美味しい料理を食べることが好きになってきた。時々料理を食べている際、なんでこの料理がこんな味か、文化、気候、地理とのつながりがあるのか、自分はそう考えていた。もっと料理に関する文化のことが知りたいと思っているので、食文化を研究したいと決めた。

世の中では、地域によって、色々な料理がある。飲食文化はひとつの民族の日常生活、または人付き合い物事に接する態度を見られる。中国の美食と言えば、北京ダックや麻婆豆腐など、世界中に知られている料理である。たくさんの国で、中華料理に関わる店がある。私は三宮に住んでいるから、三宮周辺の中華料理の店へ行ったことがある。中華料理について、地域によって、たくさんの味がある。私にとって、甘い中華料理を食べる時、母の味ということを感じた。私は何故甘い料理が好きなのかという質問を思った。そして私は食文化を研究したい。

地理と気候

中国の国土の面積が大きいため、料理の文化も広くて深い。山東料理、四川料理、広東料理、福建料理、江蘇料理、浙江料理、湖南料理、安徽料理、八大菜系がある。地域によって、味が違う、何故そんな味なのか、たくさんの原因がある。地理、文化、気候などの原因を挙げられる。南北から見ると、南の方は甘いが好き。一方、北の方は塩辛いものが好き。原因は多い。まず、北の方は温度が低い。昔の時、交通が不便だし、新鮮な野菜を得ることが難しい。そして、野菜に塩を入れて、保存しやすい。時間に経つにつれて、すきな味も塩からくなってきた。一方、南の方の気候が熱い。そして、サトウキビを植えやすいから、たくさんの砂糖を作った。そして、砂糖の原因なので、甘い料理がおおい。私の出身地には、甘い小籠包という食べ物もある。また、四川省と言えば、頭の中にすぐ辛い料理を考えられる。私にとって、辛い物を食べられない。頭の中に何故四川人は辛いものが好きなのかという質問が何回に考えた。天候の方から考えると、四川に雨の天気が多い。そして、空気の湿度が大きい。辛い物を食べると、体の寒さを追い払うことができる。地理的に考えると、四川省は内陸にある省である。また、四川省境内山が多い。昔の時、交通が不便なので、油、塩などの調味料を得ることが難しい。一方、唐辛子を植えやすいから、辛い料理も多い。また、四川省、湖南省などの辛口地域に、美女も多い。美女が多い原因の一つは唐辛子を食べるということを考えられる。唐辛子を食べると、体の寒さを追い払って、毒を排出して、皮膚がよくなる。女性にとって、皮膚のことが大事だと考えられる。また、中国には、四川省、湖南省などの辛口地域に美女が多いという話がある。そして、地理と気候はある地域の料理に影響することができる。

文化

中国はたくさんのお祭りがある。例えば、元宵節というお祭りがある。元宵節は正月の望の日に行われるお祭りである。このお祭りは中国人に対して、重要なお祭りと考えられる。大昔から、元宵節になると、人々はふるさとを帰って、家族と一緒に食事をする。また、食事をする時、タンユエン（伝統的な食べ物、白い団子）という食べ物を食べなければならない。タンユエンという発音は中国語の意味に、家族の人々が集まって、楽しみに過ごすという意味である。また、端午の節句というお祭りがある。この日になったら、たく

さんのイベントがある。例えば、粽を食べることとドラゴンボート競争。ドラゴンボート競争の内容は参加者を分けて、多くのチームを作る。そして、限定される距離に一番速いのが優勝者。そして、端午の節句の由来がある。中国の戦国時代に、楚国という国があって、この国には屈原という名前の大臣がいる。屈原は忠実な人が、悪い人が屈原に無実の罪を着せて、遠い所をもうしつけられた。また、楚国がだんだん弱くなってきた。屈原は国が消滅されることを見たなくて、江に投げた。屈原は投げ江後、楚国の人々は屈原を追懐するために、魚は屈原の死体を食べないように江に食べ物を投げた。投げた食べ物は現在の粽である。中国には56個の民族がある。中国の寧夏自治区の中に、たくさんの回族の人が住んでいる。回族の人々はイスラム教を信仰しているから、豚肉を食べられない。イスラムの聖書はクルアーンである。クルアーンによって、豚は食べられない原因がある。一番の原因はイスラム教徒にとって、豚がくさい。

世界の国によって、食事をする時、食器が違う。西洋人はフォークとナイフを使う場合が多い。大昔の時、ヨーロッパの人は遊牧民族なので、日常生活中、ナイフを持たなければならない。時間が流れて、現在の食器になった。東アジアの人はお箸を使って、ご飯を食べる。中国も、日本も、韓国も、お箸は日常生活と離れない物である。お箸の誕生に関する伝説がある。食器の違うことを見ると、文化の違うも感じられる。

中国では、食事ルールがある。食事ルールが中国の地域によって、微妙な違いがある。しかし、同じところも多い。例えば、お年寄りはお年寄りより先に席に座る。終わる際に、お年寄りは先に帰る。若者はお年寄りにお酒を勧めることが大切である。誰でもお年寄りにお酒を勧めて、飲まなければならない。こうする理由は若者がお年寄りに尊敬する意味である。

そして、私は食文化を研究したいと思う。

話し相手

トウエンヒ（第一段落に言った友達）、中国の上海市の出身である。今、独身である。日本語学校からの友達、今、関学の経済学部を通っている。成績が優秀である。趣味は美食をたべて、研究することである。私たちは毎週外食にしている。

トウさんと一緒に食事をした時、たくさんのお話を聞いた。私は飲食文化というテーマを説明して、トウさんに意見を聞きたいという話を言った。トウは私に注目して、お酒を飲んで、彼の経験と意見を言った。トウさんは中国の多くの所へ行ったことがある。少数民族に住む所へ行ったことがある。トウさんは子供の頃、家族と一緒に西安（昔の長安）へ行って、イスラムを信仰している人の店に豚肉に関わる料理があるのかという質問を聞いた。私はその話を聞いた後で、びっくりした。そして、トウさんにその話の結果を聞いた。トウさんはお酒を飲んで、天井を見て、その話の結果を言った。イスラムを信仰している人の顔がすぐ赤くなって、怒る様子を見たようだ。そして、各民族の文化、または信仰を尊敬したほうがいいという話を言った。また、私たちお酒を飲みつけて、トウさんは彼のお父さんのことを言った。彼のお父さんは上海市に保健の会所を営業しているから、そして、彼のお父さんは摂生することが大事にしている。会所は営業しているから、他の人と外食にする機会も多い。上海市で、大金持ちが多いし、権力者も多い。中国飲食文化には、人に関する社会地位が違っていると、座る席も違う。着席を違えると、大変なことになってきた。トウさんは摂生ということは食事に関わることであるもっと話したいが、時間が流れて、11時になった。終電の時間がだんだん近づいて、私たちは家に帰らなければならない。私たちお会計して、店に出た。トウさんは夜空を見つつ、最後の話を言った。「中国の飲食文化は博大などで、研究すれば、楽しい。ところで、来週も飲みに来ないか」私は歩きながら、宿題のことを考えて、知らず知らずのうちに、駅に入った。改札機の前、

私は「いいよ」と答えた。

見通し

トウさんと話した後で、私は中国の飲食文化に関する知識がもっと増えた。ただ何時間のコミュニケーションだが、まるで何年を研究したことを感じた。トウさんはかなり知恵な人だと考えられる。食事は人にとって、日常生活に離れないことである。料理を食べる際に、ただ味の違うを感じるではなくて、食文化も入っている。各地の飲食文化を感じるために、たくさんのお金をかかる。また、体が太る可能性も高い。そして、私は食文化をもっと研究したいと思う。

感想

時間の流れについて、知らず知らずのうちに、今学期は終わったが、大学生活がだんだん慣れた。大学で、ただ知識を学ぶ所ではなくて、もっと魅力的な物がある。これから卒業まで、大学生活の毎日を大切にす。今学期で、もっと多くの友達を作って、日本の留學生活がもっと豊かになってきた。先生たちは一所懸命頑張った。私は日本語の授業が面白いと思う。そして、先生たちの指示に従って、私にとって、日本語が上手くなってきた。日本語はもっと上手く行くために、頑張らざるを得ない。

なぜ日韓関係は友好的ではないか

ムンセファン

1. はじめに

現在、日韓関係は約 60 年前の日本が韓国を占領したときと両国間の空気はあまりにも変わっていない状況である。特にメディアで送信される両国のニュースを見る友好的なメッセージを耳にすることができない。しかし、現在は昔と比べ、民中の意識は高まり、お互いのことを理解し合おうと思っている人が大勢存在し、両国には親日や新韓という言葉も新たに出てきている。

しかし、なぜ戦争時代の思想から抜けてきている人も多数いるにもかかわらず、表面的な事情は当時のまま止まっているのか、何十年も経っているのに解決出来ていない理由はもし私たちにあるのではないか、なぜ日韓問題は未だにも解決できていないかをこのレポートに述べたい。

2. 日韓問題が続く

今でも私たちは手軽に日韓問題のニュースを耳にすることができる。たとえば、韓国からすれば多くの人に知られている竹島問題や慰安婦問題などが挙げられる。この問題たちは戦争が起きて何十年に渡っても解決されてないかということをも自分なりに考察した上で私が出した結論は国際問題をメディアなどでは頻繁で刺激的な情報で扱っていることで両国の知識があまりにもない人たちはその情報とその国の全てのイメージだと思い込んでいく人も少なくないからではないか考えられる。

一方で両国が好きの人たちは相手の国に興味を持ち情報を手に入れようとするから前者までは悪い思想に囲まれてはないが、お互いの国が好きであるからこそ国家関係の敏感な話は避けようとしたり、逃げようとする人間の本性が現れてくるからではないかという二つの原因で日韓関係は上手く発展せずに足踏み状態に止まっているのではないかと考察する。

3. 日韓関係の考察

普通に考えてみると国家関係を良くすれば損はないと考えられる。しかし、今でも国際問題が起きていることについて私はあるところの何か自分たちの利益を求めため、問題を起しているのではないかと考えられる。様々な国際問題を解決しようとするためにはこの原因の何かを探らなければならない。それを後回しにして現在起きている問題をどのように解決しようかを工夫しても問題は解決できないだろう。解決するためにはその問題の中心にいる何かに辿らなければならない。もし、国際関係を歪めよと考えている勢力に会うことが出来てもその人たちが自分らが起こしたことについて素直に意見を話してく

れるとも限れない。

4. 何をすべきか

ここで私たちはどうすればいいのだろうか。最もいい対策としてはその中心にいる何かに頼らずにその何かと同じ考えを抱いている人に話を聞くという提案がある。その人たちの話を聞いてその意見がこちらから考えても正しいと思うなら今まで違う方向性を持ち、自分の考えを変えることができるし、反対の場合でもなぜ私と考え方が違ってそのように考えているのだろうかと話し合うこともできると考えられる。

しかし、自分と考えが違う人と話し合うのはなかなか簡単なことではないと考えられる。その理由としては人間の大多数は自分の考え方が正しすぎて相手の考えを自分化させたい人が多いからである。したがって私は相手の考えを聞き、それは私の考えとまったく違うから貴方は間違っていると批判するのではなく、なぜ私と反対に考えているかを理解することが大切だと考えられる。間違っているのではなく、考えが違うのであることをお互いに理解する必要があるのではないだろうか。

ここに少し自分のことを触れると自分は韓国人として韓国で習った歴史の教科書そのものが真実だと教えてもらったのでその教科書が今までの韓国を正しく表すと思い込んでいて日韓の間に問題が発生したとき日本が私が知っている真実と違うことを取り出したら嘘であると考えていた。しかし、日本に来て様々な日本人と出会い、日韓問題について語ったことが何回かあるいがそのときに共通に出た話が私たちはこのような歴史教科書でこのような教育をうけて来たからこれが真実だと思い生きてきているという答えであった。まさに私と同じ考えであった。そのときお互いの事情を話し合うことで私も日本人がなぜそのように考えているのかを理解できた。

5. 私たちができること

ここでお互いの考えを理解しあい、何ができるのかというと厳しくいえば私たちには直接国家間関係を解決できる力は持っていない。だからと言え、全ての国家問題を国の偉い人たちに任せるわけではいけない。今までのように任せっぱなしの結果、まだ日韓問題はすっきり解決できなかったからである。従って日韓問題を手放しではなく、私たちができることをやればいい話である。それなら私たちに何ができるのだろうか。それは上から流れてくる情報をそのまま受け入れるのではなく、ボトムアップとって私たちが話し合い、私たちの意見が反映されるように下から上に意見を上げる方法がある。この小さな力で国が変わるわけではないと考えられるかもしれないが、韓国の例を少し挙げるとこの前イシューになった問題があった大統領を国民たちの力でその座から下ろした前例があるくらい私たちつまり国民には国を変えられる力が存在する。もちろん一人二人では無理だがみんなが話し合い、意見を合わせたらできないことはないと考えられ、それが未だに終わっていない日韓問題の解決策であり、みんなが避けたい話をしなければいけない理由でもある。

6. 対話

日本の思想を理解するためには普通の日本人の考え方が必要だったので日本人であり、日韓関係に興味を少し持っている知人である森本さんに対話を伺った。森本さんは去年基礎演習のときも竹島問題がレポートに出たときがあるが、そのときも自分も持っている知識と普通の日本人の考え方を述べてくれたので今回も頼むことにした。

今回、対話相手である森本さんとは話して分かったのは、私が考えた通りに人間は自分に気まずいことを気軽に言う人はあまりにもいないということだ。私の研究テーマである日韓問題に対して森本さんは自分を含め大多数の日本人は韓国に興味があろうがなかろうがお互いに敏感な話はできるだけ避けようとする人が多いということを話して下さった。その中でも日韓関係のことを韓国人と話すことについて否定的に思う人が多いだろうと話してくれてたとえば「どうせ私たちが話しても結論が出ない」「上の人が決めることだから話しても意味がない」「無駄な体力を使いたくない、わざわざ喧嘩する必要がない」などを思っている人が多数を示していることが私の印象に残った。もちろん森本さんの意見も間違えではない。多くの人々は森本さんのように考えているはずだ。

7. 結論

対話の後に森本さんが述べているように、自国や他国の歴史に先入観をもっている大多数の日本人や韓国人との対話の間では、お互いが少し間違っただけを言えば喧嘩になりがちだという問題にどう対処し、どのようにすれば両国民に納得のいくような日韓関係の解決策を進められるかについては、私が実際に体験したように、自国の考え方や歴史すべてが正しいと疑わずに受け入れるのではなく、世の中には様々な思想があるということに個々が気づき、自分が今まで正しいと信じて疑わなかった情報に間違いがある可能性もあることも認知しなければならない。そのためにはお互いの国のことに関心をもって詳しく知ろうとする努力をすることや、お互いの意見を聞き逃さずに自分と反対の意見でも受け入れる努力が必要ではないかと考えられる。この両国が持つ誤った先入観をなくすために必要なのは、やはり教育ではないかと私は考える。日韓関係に関心を持たない人の先入観をなくすことは難しいが、自分の持つ思想がすべて正しいのではなく、多様な思想もあるということを学習者に知ってもらえるような歴史教育を行えるような教育策を考えるべきである。

もちろんみんなが苦手な話を素直にするのは悪い結果を及ぼす可能性も少なくはないが、誰かの勇気ある一步一步で日韓関係が上手く改善できる結果に辿るなら悪い結果の危険度を背負う価値はあるのではないだろうか。その小さな動きが今まで国が解決しようとしても出来なかったことを私たちが出来るようにする莫大な力になるのではないかと考えられ、私はお互いのことを理解しあって話し合い、のがこの日韓関係の様々な問題を解決するためには欠かせないことだと考え、日韓関係の改善策として現在最も大事であることである。

従って今後の私たちに残された課題として国のことは国に任そうという考え方ではなく、自分の国のことであるからこそ自分たちが解決しなければいけないという気持ちを持ち、解決しようと動く出すことが今後の私たちに必要ではないかと考察する。

8. 感想

関学の一回生の日本語に授業を終え、今二回生の春学期の授業に最後に来ているが、このレポートを書きながら思ったのはこれからの自分がしたいことが漠然すぎるということである。

つまり、したいことが多いとかそのくらいしたいのがあいまいであるとかになっていると考えられるが、これからの二回生の秋学期は最も自分がしたいことを見つけ、三四回生のときはそれを深く研究する必要があるだろう。そのためにはまだ自分が触れなかった学問にも手を出してみるか今まで勉強したことある科目をもう少し深く入ってみることをする必要があるのではないかと考えられ、このような考えを持ち二回生の秋学期を過ごしたい。

メディアを制作したいと

総合政策学部 メディア情報学科

ユンヨムン

見るもの聞くものを好きです。学生の時からTVを見てラジオを聞いて新聞を読むことを好きでした。そんななかで自然のようにメディアについて関心が高まり、私が未来にする職業もメディアに関連した職業だったらいという考えをしながら過ごしました。私が好きなのは私の生活も変えました。ゲームにのみ関心のあった私がカメラを購入、動画編集プログラムを購入して講座動画も探して広告展示会を直接行きながら私だけの余暇時間を楽しむようになりました。メディアの魅力がまさにこのポイントではないかと思えます。本当にたくさんの人に作ったものを見せて影響を与えるものだ。このポイントに魅力を感じて私は昔も今もメディアを勉強する契機になったと言えます。私は去年にも発表したメディアの製作に対する関心が高いです。映像と広告の制作について関心が深いためにこれが私がメディア情報学科を選択した大きな理由です。

私は未来にしたいことが映像制作そして広告企画者です。映像制作のような場合にはいろいろな人が同じものを対象にしても撮影と編集によって全く違う映像が出かねないというのが本当にすごいと思えます。今私が聞いているメディア制作(表現)という講義を聞いていながら私が思ったより映像を完成するまで本当に多くのことが必要ということを知りました。もちろん前に比べて映像を製作する過程、製作する人員など、非常に多いのが簡単になる傾向があります。しかし、これを短い時間にみんな学ぶのは無理であるに毎週授業に出てくる課題を撮影して学校で徹夜をして毎日夜、最後のバスを乗って家に帰って疲れてるけど私が願った様々なことを知りことができな時間なので嬉しいです。メディア情報学科で色々知識を習得し、また経験して私が作った映像が誰かに楽しさと良い影響を与えることができるように努力します。

そして広告企画者のような場合には広く見れば、映像制作、編集と非常に密接な関係だと思えます。私が広告に関心を持つようになったきっかけはTVで10~15秒程度の時間に人にメッセージをアピールして心理を刺激するということが本当に不思議だと思えます。一般的に製品を広報する際、その製品の説明をしようと思ったら時間が必要です。そして、会社側で製品説明をして消費者をそれを聞いてみて購買するかどうかを判断することになります。しかし、広告は本当に短い時間に消費者にアピールをして消費者が直接製品の詳しい情報を探させる煩瑣な行動までするようにできるという点がかなり面白いです。CFも

以前とは別にシリーズのような形式と媒体の多様さによって様々なバージョンのCFを製作できるという点が創作したい欲求を呼び起こし、学びたい考えを持つようにします。これと同じ理由でいつかは私が直接撮影した広告が人々にみられることを目標にしてもっと熱心にしたいと思います。

今度、私と話をしてくれるインタビュー相手はチョソンヒョンさんです。韓国で私と9年を知っていた本当に親しい弟です。同じく高校生の時から、広告、映像業界を考えながら勉強し、韓国で芸術分野で最高レベルの弘益大学校を卒業しました。在学中にも首都圏にある大学の連合広告サークルで役員をし、展示会と短編映像の制作と複数の作業をしました。広告の展示会も開催して活発な活動をし、卒業後には韓国で広告業界で2番目に大きなHYUNDAIの広告会社innocentiaにコピーライターとして就職しました。TV、YOUTUBE、新聞など実際、多くのメディアに出る広告を企画する業務をしています。そして業務以外にも大学時代から組織して活動してきたグループに短編映像を地道に撮影して活動しています。

今回の対話相手のチョソンヒョン氏と対話をしながら私は漠然と製作ばかり思っていたことについて重要なものを忘れたことを知りました。私は映像や広告を製作したい私のテーマを質問をすれば、かえって簡単なものだが、考えてみたことがほとんどない質問を受けることになり、その質問に対する答えを考えながら学ぶことにも、より多様な見解を持たなければならない必要性を感じました。映像や広告を企画する会議室と事務室、映像と広告が製作される現場でも常にあるチョソンヒョン氏から私は様々なことを聞く機会を持ち、業務の話をよくしなかったから今回の対話を進め、本当にすごい人であることを感じました。私のテーマを受けたチョソンヒョン氏は映像と広告に対する話をこれまで私とたまにしてきたので、私に関心があることをよく知っていました。私のテーマを読んでから私に“まだ映像や広告を制作しなかった人のことを知ることができる文章”と言葉をしながら対話を始めました。映像や広告を製作したいのはいつも聞いていた話だからよく知っている。しかし、この書き込みを読めばひたすら製作をしたいする熱意だけ一杯で実際に行っている作業や結果物があまりにも少ない。そしてもっと目標にもう少し具体的なものを提示すれば良いと言ってくれました。自分は4年間、作業とを撮影しながら、ずいぶん忙しい時間を過ごしたと思ったしその結果会社に入るまでの過程も会社に入社してから後の過程に色々と助けになったと言ってくれました。確かに私も日本に来てサークルを探したが、首都圏に集中されているのを見てほとんど放棄をしました。公募展に関する情報もたくさん不足することに何か対策を立てなければならないと思いました。未来に本当に広告や映像制作の系列に入社するようになったら大きな力になると思いました。その次に助言をしてくれたのは広告、映像の系列にもトレンドがあるのでいつも把握しようという言葉でした。このごろ人々はTVの前で見る映像の分量よりは移動中にしばらく休息を持って携帯電話やパソコンで映像を見る場合が多いそうです。それによって短い時間内に人を引き寄

せる力を持つインパクトある映像が重要だと言ってくれました。 広告ももっと短い5秒程度の広告も多く、TVで1時間程度放送するドラマもコンピューターでは、ウェブドラマという形式で、インターネットでのみ放送して、長さも20~30分と短く、昼食の時間や移動しながら一本を全部見ることができるのが最近たくさん作業していると言ってくれました。確かに現在よりかなり遅れを取っている映像や広告を作業したら誰も見てくれないと思っています。 そのような傾向を把握するためにはメディアをよく見るのが大きな助けになるだろうと言いながら短い対話を仕上げてくれました。

その後私は経験が不足なことを知りました。どんな勉強にも予習が必要なので、後でしたい仕事に関する勉強にも必要な予習があると思いました。動画とかコンテンツをつくるのはけっこう大変作業だと思います。それに関して私が興味を持っている分野で働いたことがある友達とか後輩に最近色々な質問をしています。皆共通的に言うのは“とりあえずやってみるのが大事”でした。そして私は最近動画を取るのを趣味にするように動力しています。出かける時ならできるカメラを持って気に入る時に撮影をします。そして編集プログラムを買ってインターネットで講座の動画を見ながらしています。私が日本では外国人なので普通日本人よりは色々な制約がかかっていると思います。それでできるだけ自分が一人でできることをしなければ危ないと思って焦ってきました。ここでは韓国語で質問しても韓国語で教えてくれる人がない。しかしそれではないと私は目標意識を持って日本に来た理由がなくなって全然成長ができなかったと考えました。けっこう時間がかかる作業で本当に難しい事だと思いました。しかし、今までこんな気持ちを感じたことがありませんでした。何かを作りながら色々なことが大変だが逆に続けるのが不思議だと思いました。まだまだ全然誰かに自信を持って見せるほどはないですけど意欲がこんなに高かったのが無かったので早めに皆に見せる實力を持ちたいと思い、もっと頑張ってメディア制作勉強をしたいと自分で確認しました。

今回の対話を通じて私はしたいこと、つまり目標だけを思ってその目標に到達する過程について少し疎かに考えていないか。という考えをする時間を持つようになりました。それでもっと目標を達成することが困難になったと考えているが、現場に自分で働いて助言してくれる良い弟と対話することができる機会があって幸いだと思いました。就職活動に集中する4年生を除けば、もう1年半くらい残ったと思います。私ができることをして必ず私が願うことを思いながら生きていきたいと思う機会でした。初めに日本へ入学しに来たときの心が思い出しました。知り合いが1人もない日本留学を決めたその覚悟を思いながら一生懸命、まじめに生きると思いました。環境が変わってもその思いだけは変わらず、未来自分がやりたいことをしながら生きていきたい、お世話になった人たちに必ず返すと考えながらこの文を終わらせたいとおもいます。

授業の鑑賞

どうしても最初に日本語クラスが変わったし、先生たちも一緒に授業を受ける学生たちも新しい人たちなので最初は授業が面白いかなと思ったが、今回の授業を進行し、初めて会う友達の文を読みながら各自の目標を知るようになった、新しいものも多いことを分かるようになったと思っている。故国がない他の国でまた、他の外国人たちとその国の言語で会話したらいつも感じるが、本当に不思議だと思う。この学校に来て会う前までは会うだろうという考えも一切なく、お互いの国に大きな関心もないのが一般的であるためだと推測してみる。4年生の就職活動を除けば、もう50%の学校生活が終わって行っている。初めて来た時の自分自身と今の私自分を比較してまた、考察し、文を作成し、反省する契機になったと思う。日本語は本当に難しいが、私の目標はもっと難しいと思うた。しかしむしろもっと意欲が高まり、早く次の秋学期が来たらいいと思う。

言語政策のグローバル的影響

総合政策学部 李億成

グローバルは単に国際関係学や外交、貿易だけの話ではなく、幅広い学問の領域からグローバルの底に潜在する問題や事柄を覗かねばならない。さらに、社会を形成せるシステムである政府は、グローバル社会の実現を望むか否か、その国の政策から読み取れるはずだ。つまり政策の意思決定こそ、社会を突き動かす原動力であり、変革をもたらす鍵だということである。

しかし、今の世界情勢を見れば分かるように、グローバル化を有効的に推し進める政策は、どの国においても作り出されていないことが明らかだ。その証拠として、最も説得力を持つのが「闘争」という言葉が未だに存在していることであろう。「民族紛争」もそうだし、中東地域で繰り返されている戦争からも、「闘争」の歯車はまだ止まってはいないことを我らに訴えかけている。国際関係学の領域から事態をとらえるだけならば、すべての問題をまとめて解決することはできない。その問題の背景に潜む誘因を見つけ出し、あらゆる柵を調伏せねば、今に再び同じ背景にある問題がよみがえる恐れがある。なぜなら、その背景に潜む衝突の原因となっていたのは文化の相違であったり、宗教の相違であったり、言語の相違であったりする場合がある。

例えば戦後日本の言語統一政策によって、アイヌ語や琉球語などの言語を撲滅し、その地域の人々への差別意識は極めて深刻なものであった。今に至っては、日本の少数民族の言葉は消えかけていて、最も衰退が深刻しているのがアイヌ語である。このことから政策の意思決定が言語、文化を媒介にして、社会に影響していることが分かるであろう。

国の中でさえ、国民が一丸となっていないというのであれば、国を超えて、すべての人間が共栄するような、グローバル社会の実現はしょせん空論にすぎない。政策の影響によって、人と人の距離が遠ざかることができれば、その距離を縮めることもできる。グローバル社会主旨こそ、人と人の距離を最小限に縮小することであり、国を単位としてではなく、世界を単位として考える思想である。しかし、各国の政策はそれぞれの国情に沿って決められたものであり、場合によってはそれは対立するものである。

しかし、政府だけでグローバル化を推し進めるということ力は、すこし力不足ではないかと私は考え始めたのだ。国は経済をグローバル化にすることたができて、違う国の国民たちのコミュニケーションを促すことはできない。まして、中国のように言論制限をしている国の人たちは、自由に国外の人間と話し合う機会がほとんどない。国はグローバルという大きな旗印を掲げながら、それと裏腹に閉塞の道を歩む、これが私の言っていた政府の限界である。もし、国は本気でグローバル化を実現したいと考えているのなら、政策の改革が必要具可決である。

私が研究したいのはまさに、どのような政策を通して、違う国の人々がお互いに関心を持たせることができるか。また、その政策によってもたらす社会影響である。本研究の意義は、グローバル社会を探究することにある。

相談相手：

今回の相談相手は、牲川波都季先生に決めた。牲川先生は言語学の研究者で、2018年春学期の「日本語文化論」の担当講師でもある。牲川先生の教育研究では、ナショナリズムも含まれており、さらに異文化コミュニケーションの領域においても牲川先生はとても詳しいそうで、牲川先生なら私の研究課題について、意見や指導をくれると思う。

牲川先生は留学生たちのために、よくイベントを企画してくれた。三田市での関学留学生紹介活動や異文化交流のイベントがあれば、牲川先生はメールで知らせてくれる。私も実査に牲川先生の呼びかけに応じて、活動に参加したことがあるし、お世話になっていた。

対話結果：

対話では牲川先生と動機について、話し合いをしていた。私はずっと「動機」をなぜこういうことを書くのかと理解していた。しかし、牲川先生はその「動機」というのは私自身がどんな経験があってこのように考えたのか、または、この考え方に辿り着いたプロセスは何だったのか。というところが大事ではないかと意見をくれた。話し合いをしている途中で、私はだんだん自分の「動機」が分かるようになったと思う。

今回牲川先生との対話を通して、私は自分のテーマについて見直した。最初私が考えたのは言語や文化そして地域の問題から、政策の影響をアプローチすることだったが、やはり方向性があまりはっきりしていないし、具体的に例をあげても、なかなか関係性が弱い、分かりにくいところがあると、対話を通して今は思うようになった。今書いてあった文では、現在の「グローバル化」を批判し、「真のグローバル化」はどうのように推進すればいいのかというところにこだわって書いたように見える。しかし、「グローバル化」という言葉は、さまざまな場合で使われているし、定義することは難しいだと、牲川先生が指摘してくれた。ここは考え方を変え、一つの焦点に絞って政策の影響をアプローチしていくほうが良いと考えた。

言語政策を研究の対象にし、英語以外の言葉を早期で学校の教育に導入することによってどんな効果をもたらすのか。そして、他の国の人とのコミュニケーションを動かすにはどうすればいいのか。最後に、グローバル社会において、言語政策はこれからどのように「異文化の交流」に影響するかをアプローチしていきたい。

自分自身の経験から答えを探る：

日本語と接触したのは、中学校の時からだったろう。だが私が日本に興味を持つようになったのは、それよりも前の幼少期のことだった。「アトム」、「ドラえもん」、「ガンダム」・・・日本のアニメが、私を日本という国に対しての興味を持たせたきっかけだと思う。

中学校に入り、インターネットに触れる機会が多くなるとともに、私は日本の映画やドラマなどの映像作品を見るチャンスがあった。それだけではなく、日本のニュース、記事、評論、などの多くの情報を入手できるようになった。なぜかという、それは私が中国の政府は外国の情報に規制をかけ、国民に党にとって不利な言論や批判を知ってほしくないと考えていることが分かったからだろう。規制があったからこそ知りたい、これが好奇心から生まれた、私

の外の世界へ飛び立とうとしたきっかけなのかもしれない。

しかし、私がネットで見た情報は日本語でも英語でもなく、ネット上の人たちが中国語に翻訳し要約したり、まとめたりしたものだった。日本語が全くできないからオリジナルのものは目にかけても意味が分からないし、中国語に翻訳されたもので我慢するしかなかった。のちに日本語の独学を通して、ある程度日本語で書かれた文章が分かるようになって、ところどころ、字幕の翻訳の間違いや、ネットで流れる情報の不確かさに気が付き、ますます自分の語学力でオリジナルのものを見たがるようになった。

やはり、コミュニケーションというのは、ことばだけでの意思疎通に留まっていることではないと私は考えた。翻訳されたものは時に訳者の解釈や理解も加えていた場合があり、それが正しく原作者の意志を伝わっているとは限らない。況してや国が政治的な理由で、外国の情報を恣意的に捻じ曲げ、それで政治の目的に到達させるために国民を煽動することがある。自ら事実を知ろうと

しない人間たちは、まさに籠の鳥ではないか。現在の翻訳技術が AI を導入し、更なる進化を遂げたとはいえ、自ら積極的にそれを使い、他言語を操る人間と日常的にコミュニケーションを取らねば意味がない。

以上のプロセスから私は早期の段階で多言語教育を通して、子供たちの世界観を育つことが大事だと考えていた。勿論、現在アジア各国は学校で英語教育を取り組んでいる。しかし、考えて見れば、それぞれの国はそれぞれの言葉を使用しているし、みんな英語で日常会話をしているわけではない。たった英語を共通言語にすることはできるかもしれないが、果たして英語圏でない違う国の人同士は英語を使って、互いに支障なく語り合えるか。むろん、英語を極めた人がいる。だとしても、そのような人は限られていて、いまだすべての国の人たちは英語ができるわけではない。英語が好きなのは、英語が得意であろう。英語が好きではない人にとって、たとえ成績が良かったとしても、話すのが苦手だったことや、嫌なほどに勉強させられてきたから、英語に対して抵抗感を持つようになったというような理由で、英語を積極的に使おうとしない人が多くいるだろう。

私が主張したいのは何も他の言語の勉強が大事ではなく、他の言語を勉強することによって、世界観あるいは外の世界に関心を置くことが何よりも大事だということである。

ネットは世界を繋げているとは言っても、言論を封殺することが出くると同じように、ネット上の情報を遮断することもできる。実際に中国はこのような方法で、国内における分離主義や反共産党勢力を弾圧する目的があって、国の統一性を保とうとしている。中国政府は国民たちに共産党に対するマイナス的な情報を受け入れたら、党に不利益を齎すかもしれないという心配がある。だから、言論制限の政策をだしてまで、自由なコミュニケーションを阻んだのであろう。しかし、過ちを認めないという傲慢不遜な姿勢こそが、国民にマイナス的な感情を抱かせるのではないか。ともあれ、今の情報社会を生きる我々は、もはや国際的な視野と理解を持たなければならない世代であるといっても過言ではない。多種多様な言語教育の導入をテーマにする教育改革は、今後の課題として論議をはじめべきだ。

「国を愛せねばなるまい」こんな思想こそ古びた世界の名残であろう。人間

は果たして大義名分や国という統制システムに縛られる必要があるのか、私は疑問を抱いている。世界は一つであって、どの国に生活する人たちもまた同じ人類なのだ。人間は、自由な意思を持つ世界市民としてこれからの時代を生き抜くべきだと、私は考えている。

授業の感想：

今学期の授業では、クラスの仲間の皆さんとお互いの研究テーマについて議論をすることで、レポートを完成した。さまざまな意見を出し合い、修正を重ね、自分が見えていないものがだんだん意識していた。研究テーマについての話し相手の中で、牲川先生と私自身の経験についての話し合いから、私は自分の研究動機について深く考えることができたと思う。今学期の日本語の授業は、本当に充実していると思う。これから日本語の授業から得られたさまざまな経験を活かし、これからも頑張っていきたいと思う。

言語というものは不思議なもので全く同じの言葉でも、違う文化の中に置いたら、意味が違ってくる。その言語を勉強してなければ、その違い一生わからないままになる。なので、その国の文化を理解するためにも、その国の言葉を勉強すべきである。日本に来てから、日本語を勉強し無意識に母国語との比較をする。そして、言語の中には言語の変化もあって、言語が変化することは社会が変化していることでもあり、人達が変わっていることもわかる。言語というものは環境や多様な原因で影響され、変わったりするものなので、その変化が知ること、社会を知り、人間を知ることが出来、これから関西だけではなく、日本における言語変化の研究ができれば、言語における経済や政治と関連する部分も出てくると考える実に幅広い、興味深い研究である。このような問題点や変化してるところを気が付くたび、言語というものは面白いと思って、違うところを見つけ出だして研究したいと思った。

例えば日本語の「寂しい」という言葉は中国に置いたら、違う意味になる。日本語には心の奥から寂しいを感じる、「友達がいない」「恋人がいない」などではなく、世の中には、素敵なものはほとんど長持ちできないから、寂しさを感じる。北風の中に立つ松のことや枯れた花を見ているだけで、寂しさを感じる。松や花は素敵な存在である、それらがなくなっていくことから寂しさを感じる。ドイツでは、寂しいというよりは孤独を使う、ドイツの考えでは孤独は必要なものとされる。孤独の時間があったからこそ人間は成長する。日本の考えでは、環境との繋がりを見つけて、自分の気持ちや心境を表す場合が多いため、一つの言葉でも環境によって使い方やその真意が変わってくる。ドイツでは一人ひとりのことを大事にし、ひとの立場から言葉を考えることが多いので、一つの言葉に対しての理解やその使い方も変わってくる。私はドイツ語勉強したことがないので、訳本が読んでなかったら、単なる孤独に理解してしまう。訳者はドイツ語を勉強して、理解したうえで母国語との切り替えがうまく出来たので、素晴らしい翻訳が出来たと考える。

日本語においては「捨てる」という表現がある、たとえば関西ではモノを捨てることは「ほる」という使い方するが、東北では「投げる」という表現を使う、どれも他の地方では使われていない表現だ。一つの国の中に一つの言葉に対しての表現は何種類もある。そして地域だけではなく、年齢層によつての言葉使いも変わってくる。言語の変化についての研究はこの言葉を使っている人達や彼らに在る社会についての変化でもある。このような問題に対して興味がある。

言語の範囲は幅広く沢山の分野から勉強できると思う。私は一つの言語を勉強するよりは比較言語学に興味がある。比較言語学とは各言語を同じ時期や状

況においてその関係を比較することである。アクセントや文法や言葉における異同を知ることである。この学問を勉強することによって、言語の親族関係や共通している源や各言語の特徴や言語における使いやすさなど、例えば、中国語で一つの言葉で伝わるのが他の言語においては二つの言葉や文章になってしまう場合がある、このようなことの勉強が出来るので、これを研究方向に決めた。

なぜ私は言語に興味を持ったというなら、最初は日本語に興味があるからこそ留学に来た。日本語を勉強している際、たびたび、言葉の面白さを感じる、なぜそういう表現使うのかなぜこの言葉はこのように説明するのか。様々なところから言語の面白さを感じて、言語に興味を持ち始めた。私は今、あくまでも日本語の分法や日常的なことしかわからない、特別な節分など使う言葉、そこでしか使えない言葉などは分からないまま、研究したことはないので、言語に対しての比較などは到底出来ない。これから大学三年間の授業を通して日本でしか出来ない日本語に対しての勉強、言葉への理解をしっかりと勉強していきたいと考える、大学でしかないチャンス（言語に興味のある日本人と話をしたり、同じ課題について考えたり）を把握しながら、具体的な研究方向を決めると考える。

違う言語を使う時まったく違う雰囲気が出で来る、私は中国語使う時には無意識的に声が大きくなり、中国語が分からない外国人から見たら怒っているように目えてしまう、もちろん、中国語の意味分からずアクセントで判断してしまうこともありえるが、日本語を使う時には無意識的に声小さくなる。違う言語を使うだけで、人格が変わっているように見える。なので、国や地方の文化やその言葉の裏の真意を理解するためには、私達は言語を勉強すべきだと考える。もちろん、これはあくまでも自分の感覚しか過ぎないので、環境やほかの要素は考慮してないが、研究に対してのきっかけは自分が気になるところだと私は思っている。実際人格は変わっていないが、感覚に対しての研究もしたいと思う。

研究テーマについての相談相手はお姉さんにした。お姉さんが小学校の先生をやっている、最初は言語教育をしていたため、アドバイスなどを貰えると思って選んでいたが、実際に話し合った後私の研究テーマと違う分野だった。それでもいい情報が貰えた。

私は研究したいことは二つの言語における異同とその原因、お姉さんが研究したのは年齢層に対しての言葉の使い方などだった。お姉さんとの会話で分かったことは自分の研究範囲が広いことだった。例に挙げた「寂しい」という言葉は国によっての使い方やその意味が変わる。このような言葉の理解をしようとする、まず各国の文化背景やその国の同じ使い方の言葉を勉強、しくは理解しないといけない、それなら、大学三年間で終われる量ではないと指摘をもらった。そして私は考えた、日本語と中国語との比較しようと思う。具体的にどの方向を研究していくのがまだ決まっていないが、二回生の授業を通してそれを見つけて行きたいと思う。そして、私は留学生として来ているので、私にしか発見できないこともあるのではないかと思った。やはり私は一つの言葉を勉強するたび、それを母語と比較してしまう。このような比較があったからこそ比

較言語学に興味を湧いた。それに、お姉さんは小学生に対しての言葉使いを中心に勉強したので「私たち日常で当たり前と思った言葉は小学生にとっては当たり前ではないことが多い」と言い出した。確かに日本語においても年配の人達の言葉使いはその年齢を背景にし、いままで生きてきた人生の経験などに基づいて、その場面に最適な言葉を選ぶわけ、若者達は環境などの影響により若者言葉を使う頻度は高くなる。年齢よっての研究も出来ることも気づいた。子供に対しての言葉使いは簡単にイメージを重視するのは大切、若者との対話する時はたまに通じない時もあった。年輩の人との付き合いはあまり慣れない言葉もあった。一つの言語に対しての研究はこんなにも分野があることを気づき、これからを考えて行きたいと思う。

言語における研究は幅広で研究しにくいと指摘をもらった、しかし私は難し範囲の中で自分が興味があって、研究できそうな分野を見つけ出すことが大学での一番やりたいことだと思うので、実際に研究できるかどうかは関係なく、このような問題を発見しつつあってそれに対しての質問や自分の周りに気づいたことなどを発見することは勉強だと私は思っているので、言語の研究をしっかり絞って研究していきたいと考える。

自分が研究したいことがあって、それを研究する環境があることを無駄にせず、ちゃんと把握した方がいいとお姉さんが言った。言語の一部を絞って研究したほうが良いと思うが、実際どの分野を勉強するのはまだ決まっていない。日本で日本語に対しての研究をしたいと思う。学生時代で自分がやりたいことを発見しそれを知る機械があって、きちんと把握してそれを向けての研究をしていきたい。

感想

本学は新クラスメートとの交流が多くなって、研究テーマについては沢山意見を貰って、とても書き安かった。本学期のやり方は先学期と違って、本を読む前に、対話の形になって、自分の不足も見つけ安くなる。そして、進度が速かった為、内容をまとめる時も素早くまとめた。先生も変わったので、今までとの違う授業の進み方だったので、私個人的に問題についての考え方も少し変わった。

ネット広告とプライバシー

魯晶媛

今の時代では生活方式の多様、インターネットの利用者の増加、電子商取引を実施している企業の割合も高くなった。インターネットの発達、あらゆる場所や接触する機会も多くなり、広告も身近に存在してきた。今の広告では様々な形式があって、たくさん新たな形式が出ていて、広告も便利くて面白くなった。でも、インターネット技術の高度化により、利用者の検索履歴や閲覧履歴等の行動履歴によって広告を配信することにより様々な問題も出てきた。

子供の時テレビで多く広告を見られた。子供の時見た広告は今までも覚えていて、例えば牛乳の広告‘旺仔牛奶’、おやつ‘奥利奥’、学校の広告‘新东方烹饪学校’など今でも広告の内容や言葉が記憶している。その時期の広告もその時代の子供の思い出になった。このため、自分も段々広告に興味を持った。近年、ネットが普及したため、広告は単に画像や音声ではなく、もっと多様になり、見る機会も以前と比べると多くなった。日常生活では自分が知らないことを広告で知り、様々な情報を得ることもでき、とても便利と感じられて、広告を見たい気持ちも持ち始めた。ネットサイトや youtube などを利用する時、出てくる広告見たら大体自分が検索したい物と似てて、それとも、自分が興味を持ったものを出たばかりだった。その時すごく不思議なと感じた。なぜ自分に合う広告、関心する広告を出てくるだろうと考えた。また、今のお年寄りのお爺さんとお婆さんたちも携帯電話をネットし始めていた、以前お爺さんもネットを新聞を見る時、薬の販売の広告を出ていて、クリックした後勝手に自分の電話番号とかを入力。その後、毎日知らない人から電話を掛かってきて、中も詐欺電話がありまして、親戚が事故で入院したため、お金を貸したいと言われて、すごく緊急なことと思って、お爺さんも何にも考えず銀行にいった。もし当時、銀行の職員が聞かなかつたら、お金までも騙されるだろう。その時広告を掲載されている情報が本当に確かなのか、個人情報そのまま入力することが危ないことと気づいた。そして、なぜ電話とか情報を入力するかと考えると、その広告に興味を持っているからだ。普段若い人たちで薬の広告に入るとしない、なぜ利用者向けの広告を配信するのかについて調べたら、このような広告は行動ターゲティング広告と言って、利用者の検索履歴や閲覧履歴等の行動履歴によって広告を配信する広告のことである。

よく行動履歴によって広告を配信することでは確かに効率的で、効果も一番高いと思った。でも自分が便利と感じた一方ちょっと不安になった。自らの行動情報の漏洩しているのではないか、もしこれ以下のところで使用されたらどうしようなど色々考えた。そのことは個人のプライバシー保護されてないと思った。また、自分が行動ターゲティング広告は十分に知ることではないため、また知らないことがいっぱいだ。ですから、広告によるプライバシーの問題について関心を持った。

行動ターゲティング広告はインターネット広告の 1 つである。この広告は近年での新たな広告手法である。これを実現する手段も様々なあって、主に三つの方式で実現している、ひとつはサイト内で閲覧履歴から、利用者の行動を蓄積できる、二つ目はネットワーク型、広告を表示する同時に閲覧の記録をのぞく。三つ目は DPI 方式、機器によって通信や興味を分析しながら、記録する

方式だ。便利の一方新たな問題も出てきた、ネット広告による個人情報の流出事件が社会問題になっていた。ある場合では、利用者に氏名、年齢、住所、職業までも知ることができるのである。そして、サイトで検索した商品が別のサイトで広告を出て来ることが多いだろう。これは最先端であるRTB(REAL-TIME BIDDING)広告をつかて、知らないうちに、個人情報を扱っていた。そして、行動ターゲティング広告によるの事件もいくつ発生した。例えば日本ではYahoo!BBの事件では会員の個人情報242件の社外流出を発表され400万件流出の報道した。漏えい事業者に問い合わせ殺到、2日間で5100件、最後流出データは450万人分を確認された。全顧客情報600万人分の流出、通信記録の流出が判明。前でFACEBOOKの事件で、勝手に利用者の心理分析などのテストを行って、謝罪したことを思い出した。Facebook上の5000万人以上のユーザー情報は、ユーザーが知らないうちに政治データ会社「ケンブリッジ分析」に取得されて利用され、2016年のトランプチームが米国大統領に参加できるように、これらのユーザーに広告コンテンツを正確に配信された。そして、投票や評価や興味分析が頻繁に行われている、確かに多くの人があるようなテストをしたことがある、でもこの中では多くな問題がみんなに意識していない、自分が有名な人ではないから大丈夫だと思う人が多い、でも一人一人のデータは存在する価値があり、それに応じたプライバシーもあり、いったん漏洩されて不正に利用された後は、一人一人に対して一定のセキュリティ上の懸念がある。さまざまな詐欺メールを受け取り、大量の詐欺、嫌がらせ、広告電話を受けても個人の情報が漏洩した後にもたらされる。今の時代ではネット社会になっているのですが、ネットに関する法律などはまた追いついていない時代で、今後もこれらの問題については考えるべきである。

今回の話相手は中国にいる友達で、今は吉林大学の広告系の学生である。彼は今大学でもネットによるプライバシーの問題について勉強している。そして、時間が合い安いと中学校からずっと友達だった、話しやすいだと思うため選んだ。

今回対話相手と話したら行動ターゲティング広告によるプライバシー問題は企業側の問題だけではなく、利用者の意識なども大きな関わりがあることが分かった。最初自分が思ったプライバシー問題については利用者と大きな関係がなかった。でも、話し合ったら、今の利用者は情報発信の意識や法律を守る意識なども低くて、自分が利用する時もそうだった。ネットをみんな利用しているのだが、また法律や自己保護する意識が低くて、個人情報などの問題なども事件が発生する前にはみんな気にしていないことが気ついた。そして、彼には「行動ターゲティング広告を嫌いと思ってたんですかそれとも個人情報確保できないから」「プライバシー問題による法律は本当はないですか」と聞かれて、自分がまた知らないことが多くことが分かった。そして、今までネット広告によるプライバシーみんな大の事件についても話した、前にはネット広告で200億の詐欺事件も発生して、大きな問題になったことがあった。このような事件はまた出ている。前から次々ネット広告によるプライバシーの問題が出てきて、でもまた完全に解決できなかったの原因はなんなのか。それについてはまずネットでは追跡しにくい、不適切なことをしたら、多数は目には触れにくい工夫をされている。例えば携帯で見られだがパソコンではアクセスするときはまた出てこない、そしてすぐに消除することが多いため、行政機関などの監視など

も難しいである。日本のプライバシー保護についてを調べながら話した。まず日本では通信が必ず秘密、特定の個人情報保護法令がある、後は侵害事件に対する法律が可能であること。行動ターゲティング広告によるプライバシー問題は単に日本の問題だけではなく、各国が重視すべきな問題だ。

今のアメリカの法律では自行動ターゲティング広告の意義や問題についてはまず教育、消費者に明示する、分析について行動ターゲティング広告からの消費者データ収集を透明性二つ目は分析の許諾行動ターゲティング広告による消費者のデータ収集と消費者主体の管理)三つ目はデータを匿名化しなければならない、同広告を実施する企業等は必ず消費者の許諾、万全なセキュリティを実施する後は必ず消費者の許諾を得る、利用方針を変更する場合・消費者に変更への同意、金融関係のデータはプライバシーの観点からも保護を強・医療、未成年から取得したデータは機密データとして6歳未満の子供に行動ターゲティング広告を提示する場合は保護者の許諾を得る、後広告の説明責任もあるのだ。このような政策は国によっても違うと思う。でもネットの法律はまた曖昧なところが多い。

今では行動ターゲティング広告によるプライバシー問題は色々な方面から考えなければならないである。まず広告の配信によるプライバシーでは、まず透明性を確保して、少なくとも取得のこと、事業者の名前、方法、提供する範囲、目的、使用機関などを知る状態に得ることが必要なことである。そして政府機関では政策を出し、個人情報保護法などを具体的に上げて、実行すること。利用者によっては個人情報の意識や不正規のサイトなどを訪問をしないこと、idやパスワードなどの管理する。このようにできたら、行動ターゲティング広告によるプライバシー問題の事件も減少するではないか。

今後ではネット広告などの技術を発展するとともにプライバシーへの対応も重要で、この二つを両立すべきである。今後どうやって広告のプライバシー問題も解決するにはまた色々考えなければならない。そして、個人のプライバシーによる事件を解決ではなくて、発生しないような対策が必要だと思う。

授業の感想

研究テーマをすごく迷い、決めるのは非常に難しかった。最初と比べると多く修正した。書きながら自分が研究したいことも段々明らかになって、よかったと思っている。

関西学院大学総合政策学部 2018 年度春学期

日本語 III レポート集 私の研究テーマ

発行日	2018 年 8 月 1 日
発行	関西学院大学総合政策学部 牲川波都季 669-1337 兵庫県三田市学園 2-1
編著者	関西学院大学総合政策学部 日本語 III 受講生
問合わせ先	牲川 波都季 segawa@kwansei.ac.jp
